

故ニ收税上ヨリ之ヲ論スレハ登記ス可キ諸證書中ニ二様ノ差別アリ
 (第一)民法訴訟法及ヒ千八百五十五年三月二十三日ノ法律以前ノ諸法
 律ニ循テ登記ヲ受ク可キ諸證書ト(第二)新法律ニ據テ登記ヲ受ク可キ
 諸證書トノ二類是ナリ故ニ例之ハ十八年以上ノ期限アル土地ノ賃貸
 契約書ハ新法律ニ據リ其登記ヲ受ク可キ者タリ因テ其登記ニ關シテ
 ハ百[フラン]ニ付キ一[フラン]五十[サンチム]ノ税ヲ課スルヲ得可カ
 ラス又百[フラン]ニ付キ四[フラン]ノ財産讓渡税ハ總テ償ヲ得テ不動産
 所有ノ權又ハ其入額享用ノ權ヲ移ス諸證書ニ就テ之ヲ課スルナリ故
 ニ糶賣再入札權利ノ讓渡賣戻并ニ共通財産ノ糶賣ニ付テモ亦賣買ノ
 如ク其税ヲ納メシムト雖モ賣買證書ト其他ノ所有權轉移證書トハ登
 記税ニ於テ互ニ其別アリ蓋シ其別ハ千八百十六年四月二十八日ノ法
 第五十二條ト第五十四條トノ二箇條ヲ互ニ相較シテ以テ生スル者ナ

リ而シテ其第五十二條ノ規則ハ特ニ不動産ノ賣買ノミニ限レル者ニ
 シテ財産讓渡税ハ登記税ヲ加入シテ百[フラン]ニ付キ五[フラン]五十[サ
 ンチム]トス例之ハ民法第二千八百八十九條ニ記セシ場合ニ於ケルカ
 如ク明カニ不動産賣買證書ノ登記ヲ免ルシタル場合ニ於テモ亦其税
 額ハ通例百ニ付キ五[フラン]五十[サンチム]ト定メテ動カサルカ如ク
 右ノ二税ヲ混淆シ本人ノ爲メニ登記ノ要否ヲ論セス總テ百ニ付キ五
 [フラン]五十[サンチム]ノ税ヲ納メシメリ
 然レモ嚴格ナル規則ハ必ス其文面通りニ解釋セサル可カラサルカ故
 ニ右ノ規則眞ノ賣買證書ニノミ之ヲ適施ス可キナリ其他總テ不動産
 ノ所有權ヲ移ス諸契約ハ皆此法律ノ第五十四條ニ循ッ可ク其條ニ云
 ク總テ書入質役所ノ簿冊ニ登記ス可キ種類ノ諸證書ヲ除クノ外財産
 讓渡税ハ百ニ付キ一[フラン]五十[サンチム]ノ税ヲ増加ス可カラスト

然ルコ實際上不易ノ審理ニ據レハ凡ソ諸證書ノ其登記ヲ受ルコ因テ其本人ニ或ル利益ヲ受ケシムル者ハ之ヲ登記ス可キ種類ノ證書ト爲セリ故ニ賣買ノ證書ヲ除クノ外總テ不動産ノ所有權又ハ其入領享用權ヲ移ス諸證書ニ就テ之ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記スルコ其本人ノ爲メニ有益ナルト否トヲ鑒別スルハ太ク緊要ノ事ニシテ其別ノ緊要ナルコハ千八百五十五年ノ法律ヲ設ケタル以來ト雖モ尙ホ依然タリ是レ蓋シ立法官ハ此法律以前ノ法ニ循テ登記ノ爲メニ百ニ付キ一ヲラシテ五十「サンチム」ノ比例稅ヲ課スルコヲ得サル場合ニ於テハ其登記ノ爲メニ唯一「フラン」ノ定額稅ノミヲ設ケシコヲ既ニ上ニ說述シタルカ如クナレハナリ故ニ千八百五十五年前ニ千八百十六年四月二十八日ノ法律第五十四條ニ由テ生シタル區別ノ緊要ナルコハ今日猶ホ現ニ存スル所タリ

〔第三百七十三節〕 糶賣トハ買主ヲ競争セシメテ賣拂フ方法ニシテ之ニ隨意ノ者アリ強迫ノ者アリ其隨意ノ糶賣トハ即チ本人其不動産ヲ公證人ノ面前ニテ賣拂フ者ヲ云ヒ其強迫ノ糶賣トハ即チ不動産ヲ差押ヘタル後之ヲ賣拂フ者ヲ云フナリ又權利ノ讓與トハ一ハ義務ヲ得可キ權利ヲ賣渡スコヲ云ヒ又一ハ不動産ニ關シテハ生存中ノ證書ヲ以テ之ヲ要求スル訴訟ノ權利ヲ他人ニ移スコヲ云フ然リ而シテ再賣トハ買主ヨリ又更ニ買主ニ賣渡スコヲ云フ故ニ甲ヨリ乙ニ賣リ乙ヨリ又丙ニ賣ル時ハ甲ニ比スレハ則チ其物件ノ再賣ナリトス賣戻ノ如キモ亦畢竟ハ再賣ナリト雖モ賣戻ノ再賣ニ差異アル所ハ其賣主ニ之ヲ爲スニ在リトス蓋シ賣戻ハ再度ノ財産讓渡ヲ生スルニ因リ本人ニ證書ヲ登記セシムルノ利益アルト否ラサルトニ從テ百ニ付キ四「フラン」又ハ五「フラン」五「サンチム」ノ比例稅ヲ納メシムルヲ得ルナリ是チ

以テ賣戻ハ破約ト之ヲ混一ス可カラス是レ破約ハ畢竟初メノ財産讓渡ノ契約ヲ廢棄スルニ過キスシテ新ニ財産所有權ノ轉移ヲ生ス可キ者ニ非サレハナリ然レモ亦賣戻ヲ破約ト稱シテ以テ再度ノ比例税ヲ免ル、ハ太々易々ノ事ナリトス是故ニ法律上ニテハ破約ト成ル可キ條款ヲ定メ其條款外ニ在テハ賣戻ト爲シタルナリ而シテ破約ニハ左ノ數件アルヲ必要トス

第一 破約ハ別段ニ其約定ナク之ヲ爲ス可キ事(即チ契約ヲ結ヒタル雙方ノ者其結約ノ爲メニ又其解約ノ爲メニ毫モ利益ナカル可キ事)

第二 破約ハ一定ノ期限内ニ爲シタルト否トヲ認ムル爲メニ公正ノ證書ヲ以テ之ヲ保證ス可キ事

第三 破約ハ契約ヲ結ヒタル時ヨリ二十四時内ニ限ル可キ事

右二十四時ノ定期内ト雖モ其他ノ二要件中ノ一ヲ缺キタル破約ハ之ヲ破約ト看做サスシテ賣戻ト看做ス可シ其他破約ノ場合ニ於テハ其初メノ證書ヲ廢棄シタリト雖モ其税ヲ償還セサル者タリ是レ其税ハ固ヨリ規則ニ照シテ取立テシ者タルヲ以テ再ヒ之ヲ償還スルヲ要セサレハナリ(共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十條)

〔第三百七十四節〕 裁判上ノ事柄ニハ破約ノ規則ニ同一ナル規則ニ循テ處分セラル可キ者アリ例之ハ依頼人即チ朋友ノ名ヲ指摘スルカ如キ是ナリ今茲ニ其例ヲ舉ルニ買主ハ往々己レノ金ヲ以テ物件ヲ買入ル、ニ非スシテ他人ノ金ヲ以テ買入ル、ニ己レノ名ヲ以テスルヲアリ要スルニ此買主ハ畢竟依頼ヲ受ケタル者ナリ故ニ二重ノ財産讓渡税ヲ免レンカ爲メニ後ニ至リ眞ノ買主即チ依頼人ノ名ヲ陳述セサル可カラス是テ之レ依頼人(即チ朋友)ノ名ヲ指摘スル權ト云フ

法律上ニ於テハ隨意ノ糶賣ト裁判言渡ニ依テ爲セル糶賣トテ區別セテ隨意ノ糶賣ニ付テハ賣買契約書中ニ依頼人ノ名ヲ指摘スル權ヲ存ス可キ事ト公正ノ證書ヲ以テ二十四時間ニ依頼人ノ姓名ヲ指摘ス可キ事トノ二箇ノ要件ヲ設ケタリ蓋シ此公正ノ證書ノ必要ナル所以ハ法律上ニ定メタル期限内ニ依頼人ノ姓名ヲ指摘セシメテ證明セシムルニ在リ其他裁判言渡ニ依テ爲セル糶賣ニ付テハ其買主ト成リタル代書師ハ依頼人ノ名ヲ指摘スルノ權アリト雖モ其權ハ法律上ニテ代書師ニ與ヘシ所ナルヲ以テ別段之ヲ糶賣調書中ニ記載シ置クヲ要セス是レ畢竟代書師ハ其職務ニ因テ買入ノ依頼ヲ受ケシ者タル事ヲ思料シ得可キニ因ル所ナリ

總テ裁判所附屬吏ハ二十四時間ニ依頼人ノ姓名ヲ陳述スルヲ要セスシテ法律上ニ三日間ノ猶豫アリ又代書師ハ裁判所ノ書記局ニ證書ヲ

出シテ以テ依頼人ノ姓名ヲ指摘シタル時ハ書記官之ニ其姓名ヲ手署シテ以テ其日附ヲ確正ナラシムルナリ但シ其陳述ノ證書ハ之ヲ目シテ無名證書ト看做シテ之ニ課スルニ「フラン」ノ定額税ヲ以テスルナリ

〔第三百七十五節〕 契約ノ解除ト破約トハ互ニ其別アリ之ヲ混同ス可カラス破約トハ常ニ雙方心意ノ一致ヨリ成ル者ナレトモ契約ノ解除ハ或ハ法律ニ據テ成リ或ハ約ヲ結ヒシ雙方本人中ノ一人之ニ同意セサルモ他ノ一方本人ヨリ之ヲ要求シ得可キ權利ヲ明許シ又ハ默許シタル未必ノ條件ニ由テ成レル者ナリ故ニ之ヲ簡言スレハ破約ハ雙方本人ノ意思一致セシヨリ成ルノ意アリト雖モ契約ノ解除ハ結約シタル雙方本人中ノ一人ヨリ法律上又ハ最初ノ契約上ニ由テ得タル所ノ權利ナリトシテ要求スルヲ得可キ者ナリトス

然レモ契約解除ノ原因許多ナリ即チ買戻ノ約ニテ契約セシ事買主期限内ニ代價ヲ拂ハサル事賣主十二分ノ七以上ノ損失ヲ受ケタル事再度ノ糶賣及ヒ初度ノ糶賣ニテ買入人ト爲リタル者ノ擔保ニ因テ更ニ爲シタル糶賣是ナリ又契約ノ解除ハ其契約ニ關係無キ者即チ他人ヨリ之ヲ訴フルコトヲ得可ク就中之カ爲メニ權利ヲ傷害セラレタル債主ヨリ之ヲ訴フルコトヲ得可キ者タリ(民法第千百六十七條)

右ニ記シタル契約解除ノ諸原由ハ左ニ之ヲ再說セントス

〔第三百七十六節〕 抑買戻ハ契約ノ解除ヲ來タス可キ未必條件中ノ一者ニシテ其効ハ初度ノ賣買契約ヲシテ其効ヲ失セシムルニ在リ故ニ之カ爲メ再度ノ財産讓渡ヲ生セサレハ畢竟買戻ニ似テ實ハ却テ取戻ナリトス然リ而シテ此取戻ト云ヘル語ハ會計法律上ニ於テ慣用シ來レル者ナレモ民法上ニ用ヒ來リシ買戻ト云ヘル語ニ比スレハ一層適

當ナル者ナリ是レ取戻トハ舊ニ訴リ以前ノ賣主ニ其所有權ヲ復スレハナリ

故ニ此場合ニ於テハ再ヒ百ニ付キ五フラン五十サンチムノ財産讓渡稅ヲ課スルコトヲ得可カラズ但シ其初度ノ財産讓渡稅ニ至テハ既ニ買戻ヲ爲サル以前ニ於テ納稅シタル分ハ更ニ再ヒ之ヲ償還ス可カラズ(共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十條)

然リト雖モ予カ所見ニ依レハ其取戻ノ時ニ當テ未タ其稅ヲ納メサリシ時ハ賣買證書ノ廢棄ト成リタル以上ハ既ニ收稅ノ基礎無キノ故ニ以テ百ニ付キ五フラン五十サンチムノ稅ヲ課ス可キ理ナク此時ニ於テハ唯百ニ付キ五十サンチムノ比例稅ヲ課シ得可キカ如シ何トナレハ其一旦賣渡シタル財産ヲ取戻サンニハ必スヤ其代金ヲ賣主ヨリ買主ニ返償シテ以テ義務ヲ釋放ス可ク之カ爲メニハ更ニ其義務ノ

釋放税ヲ課ス可キヲ以テナリ
 又右ノ解釋ハ賣買ノ契約書ヲ以テ特ニ定メタル期限内ニ買戻ヲ爲セ
 シ者ト看做シテ論シタル所ナリ故ニ其特定ノ期限後ニ至テハ買主ヨ
 リ賣主ニ對シテ賣戻ヲ爲サル以上ハ賣主ト雖モ其財產ヲ取戻ス
 得サル可シ是故ニ更ニ再ヒ百ニ付キ五「フラン」五十「サンチム」ノ財
 産讓渡税ヲ課スルヲ得可ク且ツ其買戻ヲ疾ク爲シタル者ト看做サ
 シコハ滿期前ニ其取戻ノ證書ニ確實ナル日附ヲ爲セシヲ必要トス
 蓋シ其確實ナル日附ヲ爲スハ公證人ノ面前ニ於テ記セシ證書ニ就テ
 ハ裁判所附屬吏其證書ニ日附ヲ記ス可ク又私ノ證書ニ就テハ共和曆
 第七年三月二十二日ノ法律第六十九條ノ第二項第十一號ニ據ルニ其
 證書ノ記録ヲ受ケタルヲ以テ確實ナル日附ト爲ス可キニ在リ
 〔第三百七十七節〕 買戻期限ハ雙方本人協議シタル時ハ賣買ノ契約ヲ

結ヒタル後ニ至テ之ヲ延期スルヲ得可シ但シ契約上ノ期限ト後ニ
 加ヘタル延期トヲ相合計シテ五年ニ越ヘサルヲ必要トス(民法第一千六
 百六十條)

民法第一千六百六十一條ニ據レハ雙方本人ニテ定メタル期限ハ嚴ニ之
 ニ循守ス可キ旨ヲ載セタルト雖モ唯、裁判官ニテ其期限ヲ延ス可カラ
 サル旨ヲ明示シタル迄ニテ敢テ雙方本人ニ之ヲ禁止シタル者ニ非サ
 レハ記録税司ニ於テハ最初ニ定メタル期限内ニ取戻ヲ爲サスシテ後
 日ニ至テ延シタル期限内ニ之ヲ爲シタルモ五年以内ニ取戻ヲ爲シタ
 ル時ハ百ニ付キ五十「サンチム」ノ義務釋放税ノ外ニ納税セシムルヲ
 得サルヲ法トス

〔第三百七十八節〕 總テ賣買契約ハ雙務ノ契約中ニ存スル所ノ義務ヲ
 解除ス可キ未必ノ條件(民法第一千八百八十四條)ニ因起スル者ト別段明カ

ニ定メ置キタル約束民法第千六百五十六條ニ據ル者トニ拘ラス皆雙方本人協議ノ上約定シタル期限内ニ其買主ヨリ代金ヲ拂ハサルニ於テハ其契約ヲ解除スルコトヲ得可シ蓋シ共和曆第九年六月二十七日ノ法律ニ據ルニ收税上ノ目的ニ於テハ買主ノ未タ財産ヲ占有セサル前ニ契約ノ解除ヲ言渡サレシ場合ト既ニ之ヲ占有シタル後ニ其解除ヲ言渡サレタル場合トニ就テ其區別ヲ爲シタリ而シテ甲ノ場合ニ於テハ千八百十六年四月二十八日ノ法律第四十五條ニ據テ増加シタル税則ニ從ヒ其解除ヲ言渡シタル裁判言渡書ニ對シ五〇フランノ定額税ヲ課シ乙ノ場合ニ於テハ其裁判言渡書ニ對シ財產讓渡ノ比例税ヲ課シタリ然ルニ此區別ハ財産所有權ヲ移スニハ雙方本人ノ承諾ヲ以テ足レリ必スシモ財産ノ引渡ヲ爲スニ要セサル我カ民法ノ原則民法第千百三十八條ニ矛盾セリ然レモ共和曆第九年六月二十七日ノ法律第十二條

ノ如キハ果シテ遵奉セサル可カラサル者ニシテ本條ハ民法中ニ有ル雙方本人ノ承諾ノミヲ以テ所有權ヲ移スヲ得可キ新典則ヲ記載セザリシ時代ノ制定ニ係ルヲ以テ其矛盾スル所アル原由亦自カラ釋然タリトス

〔第三百七十九節〕 前節ノ場合ニ於ケル裁判言渡書ハ以前ノ契約ヲ解除シ以テ舊ニ遡リ賣主ヲシテ所有權ヲ復セシムルニ過キス然ルコト尙ホ復ヒ財産讓渡税ヲ課スル所以ノ理由如何ニ在ルカ茲ニ之ヲ論スルニ若シ此法ナカリセハ契約解除ノ訴訟ニ名ヲ假リテ賣戻ヲ隱匿スルコト甚ク容易タルカ故ニ契約シタル雙方本人通謀一致シテ其訴訟ヲ假飾シ自カラ買主ハ訴訟入費ヲ省カンヲ欲シテ賣主ノ議ニ應ス可キニ因ル所ナリ然レモ此場合ニ於テハ百〇付キ五フラン五十サンチムノ税ヲ課スルニハ非スシテ百ニ付キ四フランノ税ヲ課スルナリ蓋シ

然ル時ハ賣買ニ關セシニ非スシテ契約ノ解除ニ關シタルヲ以テ百ニ付キ一「フラン」五十「サンチム」ノ税ハ登記ヲ受ク可キ種類ノ證書ニ對スル時ノ外之ヲ課スルヲナシトス

右ノ如キ場合ニ於テ登記ヲ受ルハ其利益無シトス是レ契約ノ解除ハ既往ニ溯リテ其一旦買主ノ承諾セシ書入質ノ權并ニ其他ノ物權ヲ廢棄スレハナリ(民法第二千二百二十三條)故ニ登記ヲ受クルモ其利益無キ時ハ登記税ヲ納ムルヲ要セサルナリ蓋シ其證書ハ到底賣買ノ廢棄ヲ生スル者ニ過キサルヲ以テ之ヲ賣買契約書ト稱スルヲ得サレハナリ

右ニ説了シタル解釋愈確實ナルヲハ千八百五十五年三月二十三日ノ法律第四條ニ據ルニ代金ヲ拂ハサルノ故ヲ以テ賣買契約ノ解除ヲ言渡ス裁判言渡書ノ如キハ之ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記スルヲ要セス

其契約書ヲ登記シアル部ニ之ヲ記入ス可シトアルヲ以テ之ヲ證スルニ餘有リトス

〔第三百八十節〕 初度ノ買主(即チ入札人)ニ其責任ヲ負ハシメテ更ニ再ヒ執行スル糶賣ハ裁判所ヨリ爲ス所ノ糶賣ニ限ル可キ特別ナル契約解除ノ原由ナリトス而シテ若シ初度ノ買主ヨリ其代金ヲ拂ハサル時ハ賣主ハ其買主ニ責任ヲ負ハシメテ以テ更ニ再ヒ不動産ノ糶賣ニ取掛ル可キ訴ヲ爲シ得可キ權利アリ此場合ニ於テハ其再ヒ糶賣ノ結果ハ初度ノ買直段ニ等キヲアリ或ハ其直段ニ比スレハ低下シ若クハ高貴スルヲアリ若シ初度ノ直段ニ等キ時ハ更ニ其買主ト成リタル者ヲシテ初度ノ買主ニ代ラシム可シ又其直段初度ヨリ低下ナル時ハ初度ノ買主ヨリ初メノ附直段ト第二次ノ糶賣ニテ定リタル直段トノ差アレハ買主自カラ其差ヲ償フノ責ニ任ス可ク若シ又之ニ反シテ初度ヨ

リ騰貴シタルハ其差ヲ債主ノ得分ト爲シ初度ノ買主ハ之カ爲メニ益
スルヲ得可カラス故ニ各債主悉皆既ニ其償ヲ得テ尙ホ殘餘アレハ
之ヲ負債者ニ渡スナリ(訴訟法第七百四十條)

收税上ノ目的ニ於テハ初度ノ買主ノ責任ヲ以テ爲シタル再糶賣ニ付
テハ其糶賣ニテ定リタル代金若シ初回ノ糶賣ノ代金ニ等キカ若クハ
之ヨリ低下シタル時ハ三「フラン」ノ定額税ノミヲ課スルニ止ルト雖モ
若シ其代金初回ノ時ヨリ騰貴シタル時ハ其差金ノ百ニ付キ四「フラン」
ノ比例税ヲ増課シ書入質役所ノ簿冊ニ登記シタル時ハ更ニ復タ百ニ
付キ一「フラン」五十「サンチム」ノ登記税ヲ課スルヲ得可シ

但シ共和曆第七年三月二十二日ノ法律ノ文ニ據ルニ曰ク「同權ノ財産
(即チ不動産ヲ云フ)ヲ初回ノ買主ノ受責任ニテ再糶賣ニ爲シタル時ハ
初回ノ糶賣ノ時ノ税ニ等キ税ヲ課ス可ク既ニ初回ノ糶賣ニ付キ其税

ヲ納メシ時ノ如キハ此糶賣ト第二回ノ糶賣トノ間ニ生シタル金高ニ
對シテ其税ヲ課ス可シト

故ニ初回ノ買主ヨリ納メタル税金ハ次回ノ買主ニ代リテ納メタルト
看做シテ次回ノ買主ハ別段ニ税ヲ納ムルニ及ハスシテ唯、初回ノ買主
ニ其税金ヲ算還スルヲ以テ足レリトス

但シ初回ノ買主ヨリ未タ其税ヲ納メサル時ノ如キハ次回ノ買主ヲシ
テ其税ノ全額ヲ擔當セシムト雖モ是カ爲メニ初回ノ買主其責ヲ免ル
ルヲ得可カラス萬一次回ノ買主其税ヲ納メサルニ於テハ其督責ヲ免
ル、トテ得可カラス蓋シ初回ノ買主ノ責任ニテ爲シタル再糶賣ハ能
ク其者ノ所有權ヲ解除スト雖モ其者ノ義務ヲ消滅セサルヲ以テ通則
トス其他初回ノ買主ノ義務ハ初回ノ買主ヲシテ納税ノ義務ヲ完行セ
シムル爲メニ存スル迄ニ過キスシテ再ヒ財産讓渡税ヲ取課スルハ法

律ノ本旨ニ非サルナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ初回ノ買主ノ責任ヲ以テ爲シタル再糶賣ハ尋常ノ再賣ニハ非サルナリ是レ尋常再賣ハ更ニ收税ノ基礎トナル可キ第二次ノ財産讓渡ナリト雖モ再糶賣ハ其初回ノ財産讓渡ヲ解除スルニ在ルヲ以テ只一次ノ財産讓渡ナルニ在レハナリ

〔第三百八十一節〕再糶賣ヲ爲ス時ノ如キモ亦初回ノ契約ヲ解除スル者ナリトス凡テ裁判言渡ヲ以テ爲ス糶賣ニ付テハ何人ヲ問ハス其初回ノ糶賣ヲ隔ルコト八日内ニ初回ノ附直段ヨリ六分一ノ増直段ニテ再度ノ糶賣ニ加ハラシテ求メ得可シ家資分散上ニ關シテモ再糶賣ノ増直段ハ等ク六分一ナリ然レモ其糶賣ヲ求ムル期限ハ十五日内ヲ以テ其限リトス(商法第五百七十三條及ヒ訴訟法第七百八條第七百四十三條第九百六十五條第九百七十三條第九百八十七條第九百九十七

條)

但シ初回ノ糶賣ノ解除ハ裁判所書記局ニ次回ノ糶賣ヲ求ムル申立ヲ爲シタルカ爲メニ生スル者ニ非ス全ク次回ノ糶賣ニ因テ生ス可キ者タルニ因リ其時ニ至ル迄ハ初回ノ買主ヲ以テ所有者ト看做ス可ク隨テ次回ノ買主ハ其買入ヲ拋棄スルヲ得可キナリ是ヲ以テ初回ノ買主ヲ確定ノ買主ト爲ス可キニ因リ愈初回ノ買主ハ危險ヲ擔フ可キ者トリト雖モ再糶賣ノ成就シタル時ハ之ヲ初回ノ糶賣ニ繼續シタル者ト看做ス可キニ因リ只一次ノ財産讓渡アルノミコシテ其税モ亦之ヲ一度課ス可キノミ故ニ既ニ初回ノ買主ヨリ完納セシ税金ハ即チ次回ノ買主ノ義務ヲ償フニ足ル可キ者タルニ因リ之ヲ初回ノ買主ニ算還ス可キナリ

若シ又初回ノ買主再糶賣ノ前ニ未ダ納税ノ義務ヲ盡サ、リシ時ハ其

再糶賣ノ時ノ買主ニ納税ノ責任ヲ負擔ス可ク初回ノ買主ハ初回ノ糶
ニテ買主ト爲リシ者ノ責任ヲ以テ爲シタル再糶賣ノ時ニ違ヒテ記録
税司ニ對シテ其責任ヲ免ル、コトヲ得可シ

〔第三百八十二節〕 若シ再糶賣ヲ爲シタル時ニ於テ初回ノ糶賣ノ爲メ
ニ課シタル税ニ比シテ一層低下ノ税ヲ課ス可キ時ノ如キモ亦前說ニ
同様タル可キヤ茲ニ之ヲ論究センニ此事ハ太ク稀有ナリト雖モ亦往
々之レ有ル者ナリ例之ハ共通財産ヲ糶賣ト爲ス場合ニ於テ初回ノ買
主ハ外人タリシニ次回ノ買主トナリシ者ハ其財産ノ分派ヲ得可キ者
タル時ノ如キ是ナリ現ニ外人ナレハ必ス百ニ付キ五〔フラン〕五十〔サン
チーム〕ノ税ナル可シト雖モ其財産ノ分派ヲ得可キ者ナル時ハ自カラ
得ヘキ分派ノ一部分ニ對シテハ定額税ノ外ニ別ニ税ヲ課スルコトヲ得
可カラズ但シ何レノ場合ニ限ラス共通財産分派ノ證書ハ所有權ヲ明

證スル證書タルニ因リ書入質ノ權及ヒ其他ノ物權ハ解除ス可キカ故
ニ財産ノ分派ヲ得可キ者ニシテ且ツ其買主ヲ兼テシ者ノ得可キ分派
ノ一部分ニ超過シタル金高ニ對シテハ百ニ付キ四〔フラン〕ノ比例税ヲ
課スルコトヲ得可シ今茲ニ再糶賣ノ時ニ於テハ愈、初回ノ糶賣ニ歸シタ
ル時ノ如ク初回ノ税ヲ課ス可キヤ將テ再糶賣ノ時ニ納ム可キ税ヲ課
ス可キヤヲ論ゼンニ其再糶賣ハ到底初回ノ糶ノ局ヲ結ヒタルニ過キ
サレハ單ニ一時ノ賣買ヲ爲シタル者ト看做サ、ルコトヲ得ス故ニ再糶
賣以前ニ未ダ其税ヲ納メサル時ノ如キモ初回ノ糶賣ハ既ニ之ヲ解除
シタルヲ以テ收税ノ基礎ト爲ス可キ者無ク隨テ其再糶賣ニ付テノ税
則ニ適施スルコトヲ得可シト雖モ若シ再糶賣以前ニ既ニ業ニ税ヲ納メ
シメタル時ハ固ヨリ規則ニ照シテ其税ヲ課セシ者ニシテ更ニ復ヒ之
ヲ償還ス可カラサルナリ(共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十條)

〔第三百八十三節〕前文ニ說了セシ外ニ更ニ他ノ典則ヲ以テ處分ス可キ一種ノ再糶賣アリ即チ義務滌除ノ場合ニ於テ書入質ノ權ヲ有スル債主ノ要求シ得可キ糶賣是ナリ(民法第二千八百八十三條以下并ニ訴訟法第八百三十二條)

右糶賣ハ民法第二千八百八十三條ニ記シタル書類ヲ債主ニ送達シタル時ヨリ四十日間ニ於テ負債者ノ不動産ヲ買入レタル者ヨリ爲ス可キ者ニシテ此糶賣ヲ要求スル債主ハ其代金ヲ最初ノ賣買契約ヲ以テ定メタル代金ノ十分一ヲ附ケ上ク可キ責任ヲ負フ可キ者トス而シテ此類ノ糶賣ト尋常ノ糶賣トノ差異ハ左ノ如シ

第一 義務滌除ノ場合ニ於ケル再糶賣ヲ求ムル期限ハ四十日タル可ク尋常糶賣ニ關スル期限ハ八日又ハ十五日タル可キ事

第二 債主ヨリ求メタル再糶賣ノ價ハ其初メノ賣買ノ價ヨリ十分

一ヲ増加ス可ク尋常糶賣ハ其六分ノ一ヲ増加ス可キ事

第三 尋常ノ再糶賣ニ於ケル八日又ハ十五日ノ期限ハ初回ノ糶賣ヲ爲セシ時ヨリ之ヲ起算ス可シト雖モ義務滌除ノ場合ニ於ケル四十日ノ期限ハ最初ノ賣買契約ノ日附ヨリ起算セスシテ其買主ヨリ債主ニ書類ヲ送達シタル時ヨリ之ヲ起算ス可キ事

右場合ニ於ケル財産讓渡税ノ取立方ハ初回ノ賣買契約ヲ解除シタルカ故ニ初回ノ買主ヨリ納メタル税金ヲ以テ其納金ノ高ニ至ル迄ハ次回ノ買主ヨリ納ム可キ税金ノ高ヲ減少スルナリ蓋シ賣買ノ契約書ハ之ヲ初回ノ糶賣言渡書ニ換用スルヲ得可シ(訴訟法第八百三十七條)故ニ凡ソ手續ハ皆尋常糶賣ノ場合ニ於ケルト同一ナレモ尋常ノ再糶賣ト特別ノ再糶賣トハ互ニ其別アリ義務滌除ノ場合ニ於テ若シ初回ノ買主再ヒ次回ノ糶賣ニテ其買主ト爲リシ時ハ賣主ニ對シテ前後ノ附

ケ直段ノ差異ヲ償ハシメント要ムルヲ得可キ事即チ是ナリ是初回ノ直段ハ雙方本人協議ノ上定メタル者ニシテ賣主ニテ擔保ス可キニ因リ其直段ノ過剩ハ賣主ニ對シテ其償ヲ要ムルコトヲ得レハナリ又財産讓渡稅ハ初回ノ買受證書面ノ金高ト次回ノ雜賣證書面ノ金高トノ差ニ對シテ其稅ヲ增課ス可キ者ナリト雖モ然ル時ハ眞ニ初回ノ買主次回ノ雜賣ニテ再ヒ其買主ト爲リタル故ニ財産所有權ヲ移ス者ニ非ス是故ニ其增稅ヲ課ス可キ者タルヤ如何ニ付キ疑ナキヲ得ス然レハ財産讓渡稅ノ本稅ハ其財産ノ實價ヲ定ムル爲メニ評價人ヲ招集スルノ權官府ニ在ルヲ以テ之ヲ觀レハ財産ノ實價ニ對シテ之ヲ課ス可キ者ナリ

然ルニ抑、雜賣既ニ賣拂フタル不動産ノ實價ヲ定ムル爲メノ評價ニ等キ者ナリトス是故ニ次回ノ雜賣ニテ其買主ト爲リタル初回ノ買主ニ其

增稅ヲ課スルヲ得ル者ハ次回ノ雜賣ノ言渡書ニ財産所有權ヲ移スアルノ故ニ非ニ其雜賣ニ因リ恰モ評價ニ等ク既ニ賣拂フタル不動産ノ實價ヲ證スルノ故ニ因ルナリ但シ不動産ノ賣買ニ非スシテ其贈遺ノ場合ニ於テハ此例ニ在ラス又其贈遺ニ關スル財産讓渡稅ハ不動産ノ實價ヲ以テ收稅ノ基礎ト爲スニ非ス其入額ノ元金ヲ評量シテ以テ之ヲ收稅ノ基礎ト爲スナリ

然シテ右ノ贈遺ニ於テハ其受贈者ニハ不動産ノ買主ト爲リテ其不動産ヲ保有スル爲メニ納ム可キ金高ニ對シテ增稅ヲ課ス可キヤヲ論セシニ現ニ此部分ニ付テハ贈遺ヲ爲シタルニ非スシテ只、有酬ノ契約ヲ以テ、財産所有權ヲ移シタルナリト云フ可キナリ是故ニ不動産ノ入額ヲ評量シ其評量高ト其雜賣直段トノ差ニ對シテハ百ニ付キ五「フラン五十」サ「ンチム」ノ財産讓渡稅ヲ課ス可キカ如シト雖モ記録稅司ニ於

テハ生存中贈遺ノ税則ニ照シテ其増税ヲ課シタリ
 但シ右ノ解釋ハ時ニ取テ寬嚴ナキニアラス故ニ他人ニ贈遺ヲ爲シタ
 ル時ノ如キハ其贈遺ニ對スル税額即チ財產譲渡稅ヲ云フハ有酬ノ契約ニテ財產
 所有權ヲ移ス證書即チ財產譲渡ノ證書ヲ云フニ對スル税額ニ比スレハ更ニ貴クシテ宗系親
 ニ爲シタル贈遺ニ對スル時ノ如キハ其税額ニ比スレハ財產賣渡税ノ
 額更ニ貴シトス是ヲ以テ此矛盾無カラシメシメカ爲メニハ百ニ付キ五
 「フラン」五十「サンチム」ノ税ヲ課セサル可カラス是レ其税ハ法律ノ原
 典ニ則リ又其證書ノ性質ニ適スルヲ以テナリ
 又不動産ノ贈遺ヲ受ケタル者即チ受贈者其不動産賣渡ニ付キ其買主ト爲
 リテ之ヲ保存スル若干ノ税金ヲ納メサルヲ得サル者ト爲サハ其贈
 遺證書ハ即チ眞ノ無酬ノ贈遺ニ非スト云フ可キナリ然ラハ此時ニ於
 テハ其證書ニハ如何ノ名義ヲ付ス可キヤ茲ニ之ヲ論センニ是レ義務

ヲ附帶シタル贈遺證書ト云フ可キノミ故ニ其證書ハ賣買ト贈與トチ
 混シタル證書ト目シテ處分ス可キナリ然ルニ記録税司ノ慣行ニ依レ
 ハ賣價ニ基キテ其増税ヲ課スルヲアリト雖モ抑贈遺ニ對スル課税ノ
 基礎ト成ル可キ者ハ即チ其不動産入額ノ評量高ナル可キヲ以テ之ヲ
 觀レハ記録税司ノ慣行亦横恣ナルカ如シ一説ニ依レハ此時ニ於テハ
 全ク其増税ヲ宥免ス可シト云フト雖モ此說或ハ太ク寬宥ニ失スルカ
 如シ且ツ法律ノ本旨及ヒ其明文ニ背馳スル所アリトス是ヲ以テ稍信
 據ス可キ說ハ即チ定税ヲ納メシメテ以テ其證書ヲ贈遺ノ證書ト同視
 スルニ在リトス
 (第三百八十四節) 義務ヲ行フ可キ者即チ債者ノ不動産ヲ買入レタル者
 若シ其不動産ニ負フタル義務ヲ消除セサリシ時ハ其義務ヲ得可キ者
 債主ヨリ其買主ニ對シテ其償ヲ得ント求ムルヲ得可ク然シテ其買

主尙ホ其義務ヲ行ハサルニ於テハ其債主ヨリ要求シタル上ニテ其不

動產ヲ糶賣スルコトヲ得可シ(民法第二千六百六十七條以下)

債主ノ要求ニ因テ爲ス所ノ糶賣ハ即チ再賣ニシテ若シ以前ノ買主ニ
非サル者其糶賣ノ買主ト爲リタル時ハ更ニ再ヒ財產ノ讓渡ヲ爲ス者
ニシテ再ヒ百ニ付キ五^五フラン^五ノ税ヲ課スルコトヲ得可
シ然レモ何レノ規則中ニモ其以前ノ隨意ノ賣買證書ヲ以テ初回ノ糶
賣言渡書ト看做シ次ニ爲シタル糶賣ハ初回ノ賣買ヲ繼續シテ終ニ其
結局ニ至リタル者其結了タル可カラス是ヲ以テ此場合ニ於ケル糶賣
ハ即チ再賣シテ二重ノ財產讓渡ト云フ可キナリ

〔第三百八十五節〕 前節ノ場合ニ於テ若シ負債者ノ不動產ヲ買入レシ
者右不動產ノ糶賣ニ於テ再ヒ其買主ト成リタル時モ亦前文ノ規則ニ
從フ可キヤ茲ニ之ヲ論スルニ此時ニ於テハ畢竟其者ノ既ニ得タル所有

權ヲ確實堅固ナラシムルニ在ルヲ以テ之ヲ財產ノ新讓渡ト云フ可カ
ラス故ニ唯其糶賣ニ由テ生シタル直段ノ増額ニ對シテ増税ヲ課ス可
キナリ

〔第三百八十六節〕 負債者ノ不動產ヲ買入レタル者若シ己レノ名ヲ以
テ其不動產ノ沒收ヲ受ルコトヲ欲セサル時ハ其不動產ヲ拋棄スルコトヲ
得可シ但シ此場合ニ於テハ其拋棄シタル不動產ノ管財人ヲ任シ其者
ノ名ヲ以テ其不動產ヲ賣拂フ手續ヲ爲ス可シ然リト雖モ其不動產ヲ
買入レタル者ハ只其財產占有ヲ拋棄スル迄ニテ別ニ財產ノ讓渡ヲ爲
スニ非サルカ故ニ其拋棄ノ爲メニハ唯^五フラン^五ノ定額税ヲ課セラル可
キノミ(共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十八條ノ第四項第一號)
右不動產ノ糶賣ハ其管財人ノ名ヲ以テ之ヲ爲ス可キニ因リ諸事皆其
不動產ヲ買入レタル者ノ名ヲ以テ其糶賣ノ手續ヲ爲セシカ如ク成ル

可シ是レ其者ハ假令ヒ其不動産ヲ拋棄シタリト雖モ猶ホ其所有者タル故ニ其占有ヲ拋棄セシトハ唯其管財人ノ名ヲ以テ糶賣ヲ爲サシカ爲メニ出テタルト看做ス可キニ因ル

故ニ他人其糶賣ノ時ノ買主ト爲リタル時ノ如キハ再賣タレハ二重ノ財産讓渡ナリト云フ可シト雖モ否ラスシテ其者自カラ其買主ト成リタル時ハ其糶賣ニ由テ生シタル直段ノ増額ニ對シテ財産讓渡税ノ増税ヲ課ス可キナリ

〔第三百八十七節〕 不動産ノ賣買ハ賣主ニ其不動産ノ價直十二分ノ七以上ノ損失有ルノ故ヲ以テ取消スコトヲ得可キ者トス而シテ一旦其取消ヲ言渡シタル時ハ既往ニ溯テ其効ヲ生シ其不動産ノ所有權ハ之ヲ損失ヲ受ケタル賣主ニ復シ買主ハ之ヲ目シテ其當初ヨリ不動産ノ所有者ニ非サル者ト看做スナリ

故ニ不動産ニ付キ買主ヨリ他人ニ授ケタル書入質ノ權及ヒ其他ノ物權ハ其取消ノ言渡ニ依テ之ヲ廢棄ニ屬ス可ク(民法第千六百八十一條以下)隨テ賣主ハ既往ニ溯テ其所有權ヲ復ス可キナリ是ヲ以テ予カ所見ニ依レハ買主ヨリ賣主ニ賣戻ヲ爲セシ時ノ如ク更ニ再度財産讓渡税ヲ課スルコトヲ得可カラストス然レモ覆審院ノ審例ニ據レハ予カ所見ニ反シテ久來賣主ニ損失ヲ受ケタルノ故ヲ以テ賣買契約ヲ取消サシコトハ其損失ヲ以テ賣買契約ノ法ニ適シタル者ト看做ス可キニ因リ完全ノ取消ニ非サル者トシ以テ再ヒ財産讓渡税ヲ課ス可シト判決シタリ蓋シ此說ハ損失ヲ以テ賣買契約ノ法ニ適シタル者ト看做シタルニ因リ損失ノ故ニ由テ生スル取消ハ完全ノ取消タリト云フ可カラストノ想像ヨリ出テタルト雖モ其論未タ遽ニ確的ノ者ト爲ス可カラス完全ノ取消ハ證書ヲシテ全ク滅却セシムルニ在リテ即チ其効ヲ生セ

シムル者ハ損失ノ爲メノ取消ナリトス是レ買主ノ設ケタル物權ハ初ヨリ其不動産ノ賣買ヲ爲サ、ル者ノ如ク既往ニ溯テ滅却ス可キヲ以テナリ

但シ覆審院ノ說ヲ主持スル爲メニ最妙ノ道理ハ買主ノ期限内ニ代金ヲ拂ハサルニ由リ賣買契約ヲ解除スル事ニ付キ曾テ余ノ説明シタル道理ニ類似シ若シ再ヒ財産讓渡税ヲ課スルノ法ナカリセハ損失ノ爲メノ取消訴ニ假粧シテ財産讓渡税ヲ免レントシ漫リニ賣戻ヲ爲スヲ恐ルト云フニ在リト雖モ此詐僞ハ容易ニ之ヲ行フヲ能ハサルナリ何トナレハ損失ノ爲メノ取消ハ人トシテ行フヲ欲セサル模様アルヲ要シ且ツ現ニ十二分ノ七以上ノ損失ヲ受ケサレハ之ヲ爲スヲ得サレハナリ

〔第三百八十八節〕 上ニ記セシ場合ニ於テハ定額税ノミヲ課スルニ過

キサルカ將タ百ニ四〔フラン〕ノ比例税ヲ課スルカ其事ニ至テ議論アリト雖モ登記ノ爲メニ課スル百ニ一〔フラン〕〔五十〕〔サンチム〕ノ税タルヤ一般ニ之ヲ課ス可カラサル者ト認メタリ是レ其取消ノ言渡アリタルニ於テハ既往ニ溯回シテ書入質ノ權其他ノ物權ヲ解除ス可キニ因リ別ニ其言渡書ヲ登記ス可キノ緊要ナケレハナリ是ヲ以テ登記税ヲ課ス可カラサルヤ其故アリトス

賣主ニ十二分七以上ノ損失アルニ因リ賣買契約ノ取消訴ヲ受ケタル買主ハ代價ノ增高ヲ拂フ可キ旨ヲ申述シテ以テ其訴ヲ斥クルノ方法ヲ行ヒ得ルノミナラス假令モ既ニ其訴ノ如ク允許セラレタル後ト雖モ尙ホ其方法ニ由テ右ノ訴ヲ免ル、コトヲ得可シ〔民法第千六百八十一

條）

然レモ假リニモ其裁判言渡書ニテハ代價ノ增高ヲ拂フ可キ旨ヲ買主

ニ言渡スヲ得可カラス是レ其增高ヲ拂フヲ得可キ權ハ明カニ法律上ニ記載セルヲ以テ別ニ裁判言渡書ニ記入スルヲ要セサレハナリ但シ假リノ裁判言渡ノ方式ニ循テ其旨ヲ言渡ス如キハ此限ニ在ラス〔第三百八十九節〕右ノ外不動産ノ賣買契約ノ債主ノ權利ニ害アル者ノ如キハ亦其債主ノ權利ヲ以テ之ヲ取消スヲ得可シ(民法第千百六十七條)但シ此取消ノ爲メニ沒収シタル不動産ノ初度ノ買入人再ヒ其糶賣ノ時ニ買入人ト爲リタルト雖モ初度ノ賣買ノ時ニ於テ官庫ニ納メタル金高ヲ以テ糶賣ノ時ニ納ム可キ税金ニ供用スルヲ得可カラズ是レ素ト債主ノ權利ニ害アルカ爲メニ言渡サレタル取消ニ至テハ既ニ納メタル税金ノ還付ヲ求ムルヲ得サル者タレハ初度ノ賣買ノ時ニ於テ納メシ税金ヲ以テ後ノ賣買ノ時ニ於ケル税ニ充ツルニ於テハ恰モ間接ニ初度ノ税ヲ還付スルニ當レハナリ

然レモ若シ初度ノ買入人未ダ初度ノ賣買契約ノ取消ヲ言渡サレサリシ前ニ其契約ヲ堅固ナラシムル爲メ和談ヲ爲セシ時ノ如キハ右ノ例ニ在ラサルナリ何トナレハ此場合ニ於テハ契約ヲ二重ニ爲セシニ非スシテ只將ニ取消サントスル契約ヲ確定シタルニ在レハナリ

〔第三百九十節〕共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十九條ノ第五項第一號ニ於テハ動産未ダ収獲セサル收納物、大小伐木其他動産ノ種類タル諸物ノ糶賣、賣拂、買戻、讓渡、讓戻、賣買契約并ニ有酬ノ契約ニテ同上諸物件ノ所有權ヲ移ス諸證書通幣ノ證書ト裁判上ニ課ス可キ比例ノ證書トナ區別セスニ課ス可キ比例税ハ百フランニニフラント定メタリ然レモ動産ノ賣買ト不動産ノ賣買トノ區別ハ只此税額ノ差異ノミニ非ス又其税則ノ差異ハ敢テ緊要ナル者ニ非ス動産ノ賣買ト不動産ノ賣買トニ關スル區別ノ最著明ナル者ハ即チ動産賣買ニ關スル財産讓渡税ハ證書税タルニ在リ是レ證

書税ノ如キハ本人ヨリ所有權ヲ造ル證書ヲ提出シテ其記録ヲ求ムル時ニ非サレハ課ス可キ者ニ非サルニ因リ記録税司ニ於テハ不動産讓渡ニ於ケルトハ別段ニシテ動産讓渡ニ於テハ其實否ヲ搜索スルノ權利無キニ在リ又動産讓渡ノ場合ニ於テハ決シテ登記税ヲ課ス可カラサルコト明カナリ蓋シ抑、動産ハ所謂動産ニ關シテハ之ヲ占有シタルヲ以テ其所有權ヲ得ル證書ニ均キ効アリト云ヘル典則ニ據テ之ヲ處置ス可キヲ以テ動産讓渡ニハ登記ノ法式ヲ適施ス可カラフ又動産ハ其所在ノ地不定ナル者タレハ自カラ登記ノ法式ニ必要ナル條款ヲ具備セサル者ナレハナリ

〔第三百九十一節〕 法律上ニテハ只賣買上ニノミ課税スルニ非ス特定ノ物品ヲ引渡ス可キヲ約スル賣買契約(即チ税法上ノ賣買契約ト稱スル契約)ノ如キモ亦課税スルナリ蓋シ此場合ニ於ケル契約ハ畢竟物

品ヲ引渡ス可キヲ約シタルニ在リテ現ニ其物品ヲ引渡シタルニ非サレモ恰モ所有權ヲ移ス賣買ニ於ケルカ如ク百ニ二「フラン」ノ比例税ヲ課スルヲ法トス但シ不動産ヲ目的ト爲シタル賣買契約ノ如キハ其例外ニシテ其契約ハ唯「二」フラン「ノ定額税ヲ課ス可キ無名ノ證書タルノミ今茲ニ其差異ノ存スル所ヲ舉ルニ動産ノ賣買契約ハ特ニ證書ヲ以テ之ヲ明證スルニ非スシテ只、通常ノ口上約束ヲ以テ之ヲ結ヒシコトヲ現證スルノミ是故ニ此類ノ契約ハ他日百ニ二「フラン」ノ比例税(即チ證金高百ニ付キニ「フラン」ヲ課ス可キ機會ヲ設ル所ノ義務ノ名義ニ對シテニ「フラン」ノ定額税)即チ證書面ノ金高ノ多少ニ關テ課スルナリ然レハ亦不動産ヲ目的トシタル賣買契約ニ至テハ然ラス之ヲ證スルコトハ必ス證書ヲ以テス可ク否ラサレハ其契約タルコトヲ得サルヲ以テ財產讓渡ノ税ヲ課スルノ機會ヲ失スルコトナク隨テ敢テ原則ニ背馳スルノ

憂ヒナキ者タリ

〔第三百九十二節〕凡ソ賣買契約ハ動產ヲ目的ニシタルト不動產ヲ目的ニシタルトナ問ハス其破約税ニ至テハ自カラ特別ナル有様ニ屬セル者トス即チ其破約ハ何レノ時ニ於テ之ヲ協議シタルナ問ハス其破約ノ爲メニハ尋常ノ無名證書ニ課スル定額税ヲ課スルニ在リ然レモ現ニ動產又ハ不動產ノ所有權ヲ移ス賣買ニ至テハ二十四時間ノ定期後ニ至テ破約ヲ爲シタルニ於テハ更ニ百ニ二「フラン」若クハ四「フラン」ノ財産讓渡税即チ比ヲ課スルナリ

右ノ區別ハ現ニ所有權ヲ移ス賣買上ニテハ破約ノ爲メニ更ニ賣買税ヲ課ス可キ賣戻ニ立到ルト雖モ賣買ノ契約上ニテハ其約ヲ執行セサル以上ハ未タ所有權ヲ移サ、ルカ故ニ賣戻ト云フ可カラサルナリ是ヲ以テ其破約ノ協議ハ何時之ヲ爲シタルナ問ハス到底之ヲ目シテ解

約ト爲ス可キナリ

〔第三百九十三節〕同一ノ證書中ニ動產ト不動產ト賣買契約ヲ記スルト往々之アリ然レモ動產ノ賣買規則トハ互ニ太タシキ差異アリテ動產ノ規則ニ循ハンカ將タ不動產ノ規則ニ循ハンカヲ定ムルト頗ル緊要ナリ蓋シ此疑問タルヤ共和曆第七年三月二十二日ノ法律第九條ヲ以テ既ニ之ヲ豫定シタリ其規則ニ據レハ契約ヲ結ヒシ雙方本人ニ於テ特ニ其動產ノ價ヲ定メサルニ於テハ總テ不動產賣買ノ規則ニ循テ其證書面ノ金高ニ税ヲ課ス可キ者トス即チ該法律ニ曰ク若シ契約書中ニ動產ヲ一件毎ニ指示シテ其價ヲ見積ラサルコ於テハ云々ナリト蓋シ此豫防法無クンハ賣買雙方本人ハ動產ノ價ヲ過當ニ申立テ以テ低税ヲ納メント謀ルニ至ル可キナリ然レモ記録税司ニ於テハ其實價ヲ證明シテ以テ更ニ相當ノ價ニ引直

スヲ得可キハ素ト當然ナレモ然ル時ハ其手數煩冗ナルヲ以テ詐欺ヲ防止セシムルハ賣買契約ヲ結ビシ雙方本人ヲシテ其動産各個ノ價ヲ定メシメ若シ詐欺アルニ於テハ更ニ高稅ヲ納メシムル法ヲ設ルノ簡便ナルニ若カサルナリ

〔第三百九十四節〕 地中又ハ枝上ニ在ル収納物并ニ菓物ノ如キニハ動産ノ賣買稅則ヲ適施ス可キカ將タ不動産ノ賣買稅則ヲ適施ス可キカ茲ニ之ヲ論スルニ其賣買スル所ノ物品ハ後ニ土地ヨリ分離シタル收納物タルハ賣買ノ時ニ方リテハ其性質ニ由テ動産ト看做ス可キ者ナリ故ニ百「フラン」ニ「フラン」ノ稅ヲ課ス可キナリ而シテ又取毀ツ可キ建物ノ賣買ニ於ケルカ如キモ亦之ト同様タル可シ是レ此場合ニ於ケル雙方本人ハ建物ヲ以テ動産ト看做セシヲ疑ナキニ因ル所ナリ

〔第三百九十五節〕 前節ニ掲クル所ニ反シテ賣買雙方本人ノ不日將ニ

伐取ル可キ樹木ノ植ハリシ土地ニ關シ若クハ不日取毀ツ可キ建物ノ在ル土地ノ所有權ニ關シテ賣買契約ヲ爲セシ時ノ如キハ其土地ト地上ノ物件トノ價ヲ見積リテ其代金ヲ區別スルヲ得サル可シ是レ蓋シ賣主ヨリ右物件ノ全部ノ所有權ヲ移ス時ハ買主ハ直ニ其物件ニ關スル全部ノ管財權ヲ有ス可ク既ニ此全權ヲ得タル以上ハ買主ハ其物件ヲ受取リタル時ノ有形ノ儘ニテ保存スルモ又土地ヨリ地上ノ物件ヲ分離スルモ其所欲ニ任スルノ權アリトス故ニ賣主ハ既ニ其所有主ニ非サレハ絶テ自己ノ關係ナキ分離ヲ爲サシメ以テ物件ヲ分ツヲ得サル可ク其關係ナキハ若シ買主ノ其分離ノ約ヲ守ラサルヲ以テ賣主ヨリ之ヲ請求スルモ更ニ關係ナキ者ヨリ爲シタルトシテ買主ハ其請求ヲ斥ルヲ得可キヲ以テ之ヲ知ル可キナリ然レモ若シ賣買ノ雙方本人初ニ地上ノ物件ノ賣買ヲ約シ其後幾クナラスシテ土地ノ賣買ヲ

約シタル時ノ如キハ其事實ヲ判斷スル裁判官ハ其所爲ノ法律ヲ欺ク爲メニ出テタルヲ見ル可シ故ニ裁判官ハ此各通ノ證書ヲ取消シ得可キト恰モ一通ノ證書ニ此二箇條ヲ記シタル時ニ於ケルカ如クナリトス是レ實ニ公然直接ニ爲ス可カラサル事ヲ隱然間接ニ爲スヲ得可カラサルハ即チ一定ノ典則クレハナリ但シ宜ク注意スヘキ所ハ對證ノ證書ニ通共ニ其取消ヲ言渡スニハ事實ノ思料(民法第千三百五十三條)ノ信ス可キ所ニ因ル可キ者ニシテ別ニ法律上ニテ其詐欺ノ推測法アラサルヲ理會ス可キニ在ルノミ

〔第三百九十六節〕 用法ニ因レル不動産即チ其用方ニ因ル者ノ賣買ハ純粹ナル不動産ノ賣買稅則ニ循フ可キ者タリ然レニ此類ノ財產ヲ以テ不動産ト爲スハ畢竟其所有者ノ用法ノ如何ニ因ルカ故ニ其不動産タルノ性質ハ所有者ノ意ノ動カサル間ニ在リテ存スルノミ故ニ所有ノ其用

法ヲ轉スル時ニ至テハ其財產ハ再ヒ固有ノ性質ニ復シ動產ト爲ル可キヲ以テ此類ノ財產賣買ハ百ニ二「フラン」ノ稅ヲ課ス可キノミ抑所有者ノ意ナル者ハ假令ヒ賣主ハ一通ノ證書ヲ以テ土地ノ耕耘ニ使用スル獸類ヲ添ヘテ一箇ノ土地ヲ賣リタルニ其土地ノ價ト獸類ノ價トヲ區別シテ以テ獸類ノ賣買ノ爲メニハ百ニ二「フラン」ニ過キサル稅ヲ納ムルニ己レカ意ニ任セテ自由ナル可キ者ニシテ加フルニ所有者ハ右財產ノ用法ヲ定ムルニ一通ノ證書ヲ以テシタルト別通ノ證書ヲ以テシタルトチ問ハス再ヒ其用法ヲ轉スルヲ得可キ者タリ

〔第三百九十七節〕 交換トハ雙方本人互ニ特定ノ物件ヲ交換シ以テ其所有權ヲ移ス契約ヲ云フ而シテ此契約ヲ結ヒシ雙方本人ハ(第一)不動産ト不動産トノ交換(第二)動產ト動產トノ交換(第三)不動産ト動產トノ交換ヲ爲スヲ得可シ故ニ此三例ヲ引キテ左ニ之ヲ掲述セントス

凡ソ不動産ト不動産トノ交換ニハ或ハ其不足ヲ補フニ金ヲ以テスル
 一アリ或ハ品ト品トノ取換ニテ金ヲ加ヘサル一アリ而シテ補足金ヲ
 拂ハサルニ於テハ唯其交換シタル物件中ノ一方ノ價直百ニ二「フラン」
 五十「サンチム」ノ税ヲ課ス可ク其價ハ賣價ヲ評量シテ之ヲ定ムルニ
 非ス其入額ニ二十ヲ乗シテ得タル所ノ元金ヲ以テス可キナリ但シ其
 價額百ニ二「フラン」五十「サンチム」ノ税金中ニハ百ニ二「フラン」五十「サ
 ンチム」ノ比例ニ登記税ヲ算入セル者ナリ故ニ交換ノ場合ニ於ケル
 財産讓渡ノ本税ハ百ニ一「フラン」タル可シ

〔第三百九十八節〕 雙方本人中ノ一方本人ヨリ補足金ヲ添ヘテ財産ヲ
 交換シタル時ノ如キハ其者ヨリ供シタル財産ニハ交換税ヲ課シ補足
 金ニハ賣買同様ノ税(即チ百ニ付キ五「フラン」五十「サンチム」ノ税)ヲ課
 スル者ナリ但シ法律上ニ於テハ補足金コノ賣買税ヲ課スルニ非ス

他ノ一方本人ヨリ供シタル財産ノ價額ノ剩餘ニモ亦其賣買税ヲ課ス
 可キ旨ヲ附加セリ蓋シ其本旨ハ他ナシ詐欺ノ所爲ヲ豫防スルノ一法
 タルノミ是レ若シ此規則無キ時ハ交換ヲ爲ス雙方本人ハ其契約書中
 ニ補足金ヲ記セスシテ竊ニ之ヲ授受ス可キヲ以テ交換ノ爲メニ比例
 税(即チ百ニ一「フラン」ヲシテ補足金ノ爲メニ賣買同様ノ税)(即チ百ニ五「フラン」)
 ノ税(即チ百ニ一「フラン」)ヲ免カル可キヲ以テナリ

若シ交換シタル不動産中ノ一方ヲ以テ之ヲ他ノ一方ニ比スルニ其價
 ニ剩餘アレハ記録税司ニ於テハ課税ノ基礎ヲ正當ニ定メシカ爲メニ
 評價ヲ爲サシムルヲ得可シ蓋シ此説タルヤ己レノ隨意ニテ一方ノ
 所有者ヨリ補足金ヲ要セサルヲ以テ他ノ所有者ニ於テ別段ニ之ヲ渡
 サル時ノ如キモ亦之ヲ適施ス可キ者ナリ是レ蓋シ若シ此評價ヲ爲
 シテ以テ財産ノ價額ヲ評量スルニ非サレハ補足金拂渡ヲ契約書面ニ

記セサリシノ正實ノ意ニ出テタル者ト其事ノ詐僞ノ意ニ出テタル者トヲ區別シ難キカ故ニ倍、詐僞ノ所爲ヲ行フ者多々ナル可シ其他百「フラン」ニ五「フラン」五十「サンチム」ノ税ハ正實ニ記載セサル者ト詐僞ヲ以テ記載セサル者トノ別ナク剩餘ノ價額ニハ皆之ヲ課スルヲ以テ法則トス

〔第三百九十九節〕 動産ト動産トノ交換ニ就テハ總テ有酬ノ契約ヲ以テ動産ノ所有權ヲ移ス證書ニ課ス可キ税(即チ百ニ二「フラン」ノ税)ヲ課スルナリ但シ交換シタル動産中ノ一方ノ價額ニ税ヲ課スルノミニシテ雙方ノ價額ニ税ヲ課スルニ非ス蓋シ交換ノ契約ヲ以テ二箇ノ物件中ノ一方ノ讓渡ハ即チ他ノ一方ノ讓渡ヲ要スルヲ以テナリ故ニ此類ノ交換ニ於テハ上ニ指示セシ所ノ主タル契約ニ附帶スル箇條ノ規則ヲ適施ス可カラサル者ナリ

〔第四百節〕 動産ト不動産トノ交換ハ往々不動産ノ賣買ヲ以テ交換ニ託スル詐僞ノ媒助タルヲアリ故ニ裁判所ニ於テハ事實ヲ穿鑿シ以テ其實否ヲ證ス可ク若シ交換ノ名義ヲ假リテ全ク賣買ヲ爲シタルノ證アルニ於テハ五「フラン」五十「サンチム」ノ税即チ賣買ノ税ヲ課ス可キナリ然レモ此場合ニ於テハ裁判官ハ宜ク事實ヲ酌量シテ其證ヲ立ツヘキニ在リテ別段法律上ニテ定マリタル推測法アルニ非サルナリ而シテ全ク賣買ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其證書ノ書入質役所ノ簿冊ニ登記ス可キ種類ノ者タルト否トヲ問ハス五「フラン」五十「サンチム」ノ税則ヲ適施ス可シ千八百十六年四月二十八日ノ法律第五十四條然レモ若シ賣買ヲ爲セシニ非スシテ全ク交換ヲ爲シタル時ニ於テハ其證書ノ登記ス可キ種類ノ者ニ非サルヨリ百ニ一「フラン」五十「サンチム」ノ登記税ヲ課スルヲ勿カル可キナリ

〔第四百一節〕 民法第一千七百五條ニ據ルニ凡ソ交換契約ハ其雙方本人中ノ一人自己ノ受取リタル物件ヲ後チニ他人ヨリ訴訟ヲ受ケテ奪ハレタル時之ヲ取消スコトヲ得可シ但シ其物件ヲ奪ハレタル一人ハ其契約ヲ取消シ或ハ其損失ノ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得可シ而シテ若シ右ノ取消訴ヲ受ケタル時ハ其取消ノ裁判言渡書ニ基キ(即チ訴訟金高)百ニ四(フラン)ノ財産讓渡稅ヲ課スルヲ得可シ是レ蓋シ交換契約ノ取消ス所ノ裁判言渡書ハ交換ニ非スシテ恰モ有酬ノ契約ヲ以テ財産所有權ヲ讓渡ス證書ニ當レハナリ但シ其取消アリシ時既往ニ其効ヲ及ホス可キ者タルニ由リ敢テ登記ノ法式ヲ踐行スルヲ要セサルナリ是故ニ百ニ四(フラン)ノ稅ヲ課スト雖モ百ニ五(フラン)五十(サンチム)ノ稅ヲ課セサルナリ

〔第四百二節〕 和解トハ二人又ハ數人ノ間ニ生シタル爭論ノ局ヲ結ヒ

又ハ將ニ生セントスル爭論ヲ解止スル和熟ノ契約ヲ云フ通例和解ハ雙方互ニ權利ノ一部分ヲ拋棄スルニ由テ成ル者グレトシテハ契約ヲ結ヒタル各人互ニ相争フ所ノ物件ノ一部分ヲ取り時トシテ其中ノ一人ハ金高ヲ拂ヒ又ハ品物ヲ償ヒテ以テ其相争フ所ノ物件ノ全部ヲ占有スルコトアリトス蓋シ此區別タルヤ収稅上ニ於テハ最モ緊要ノ者タリトス

共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十八條ノ第一項第四十五號ニ據ルニ凡ソ和解ノ契約ニシテ其文言中ニ金高(即チ物品ノ價直)ヲ記入セス又高額ノ記録稅ヲ課ス可キ物件ノ讓渡ヲ記入セサル者ニ至テハ只定額稅ヲ課ス可キヲ法トス(此定額稅ハ千八百十六年四月二十八日ノ法律第四十四條ノ第八項ヲ以テ更ニ三(フラン)ニ爲シタリ)又同上ノ法律第六十九條ノ第三項第三號ニ據ルニ凡テ贈與ノ金額ニ

非ス並ニ未タ登記セサル動産讓渡又ハ不動産讓渡ノ代金ニ非サル金高ヲ拂フ可キ義務ヲ記入シタル契約書、和解ノ證書其他ノ諸證書ニハ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ課シタリ故ニ動産若クハ不動産ノ讓渡ニシテ其償ヒヲ爲ス時ハ即チ有酬ノ契約ヲ以テ其動産若クハ不動産ノ所有權ヲ移ス證書ニ財產讓渡税ヲ課ス可ク其税額ハ動産ナレハ百ニ二「フラン」又不動産ナレハ百ニ四「フラン」タル可シ而シテ其不動産讓渡ノ場合ニ於テハ雙方本人ニ登記ヲ受ルノ利益アル時ハ別ニ其登記ノ爲メニ一「フラン」五十「サンチム」ヲ課スルナリ

〔第四百三節〕 右ノ動産不動産ノ區別ハ法律上ニテハ其明文ニ記載シタリト雖モ記録税司ニ於テ實際ニ施行スル所ト大審院ノ審理トニ於テハ其區別ヲ爲サス現ニ記録税司ニ於テハ和解ノ契約書中ニ絶テ金高即チ代金ヲ拂フ可キ義務ヲ記入セサル時ト雖モ屢々和解ノ契約書ニ

財產讓渡ノ比例税ヲ課ス蓋シ此慣行ノ原由タル說ニ從ヘハ和解契約ヲ結ヒシ雙方本人中ノ一人ハ無論相争フ所ノ物件ノ全部ヲ占有セルカ故ニ和解契約ハ即チ財產所有權ヲ移ス者ナリト云フニ在リ但シ雙方本人中ノ一人ハ眞ニ相争フ物件ノ一部分ヲ讓渡スニ過キサレハ其物件ノ他ノ一部分ヲ占有セント要スル訴訟權ヲ拋棄スルカ故ニ因リ其所有權ノ轉移即チ物件ノ一部分并ニ其不動産ニ關スル訴訟權ノ讓與即チ他ノ一部分ノ物件ヲ得ントヲ爲シタルカ爲メニハ其物件ノ全部ニ財產讓渡税ヲ課スル者ナリ蓋シ記録税司ニ於テハ其財產所有權ヲ移ス税ト訴訟權ヲ讓與スル税トヲ合セテ以テ争フ所ノ物件全部ノ價ニ、財產讓渡税ヲ課スルニ在リト雖モ大審院ノ審理ニテ斯ク遠ク涉ルニ非スシテ唯物件一部分ノ所有權ヲ移ス者ナリト判決シ雙方本人中ノ何レニ其讓與ヲ爲シタルヤヲ知ンカ爲メニハ和解ノ時ニ於テ法

律又ハ憑據ト爲ル可キ證書ニ據テ其物件ノ占有者タル者ヲ以テ讓與者ト看做スナリ故ニ財産全部ノ遺囑贈遺ヲ受ケタル者(即チ受贈者)ノ其贈遺ノ財産中ニテ特ニ其一部分ヲ存シ置キ之ヲ引渡ス可キ人^{即チ}可キ權利者^{ノ贈遺ヲ受ク}ニ非サル者ニ對シテ和解契約ヲ爲シタル時并ニ其者ニ對シテ和解契約ヲ爲シ以テ其者ニ與フルニ當然保存シ置ク可キ部分外ノ財産ヲ以テシタル時ノ如キハ即チ其財産全部ノ遺囑贈遺ヲ受ケタル者ヲ以テ財産讓渡ノ證書ヲ記セシ者ト爲ス可キナリ

其他遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者ノ取消ト爲リタル遺囑贈遺ノ證書ニ由テ財産全部ノ受贈者ト爲リタル者ニ對シテ和解契約ヲ爲シタル時ノ如キモ亦之ト同様タル可シ然レモ若シ財産全部ノ遺囑贈遺ヲ受ケタル者ノ法律上ニテ當然其財産ノ一部分ヲ得可キ權利アル者ニ對シテ和解契約ヲ爲シテ以テ其一部分ヲ其權利者ニ與ヘタル時ノ如キハ若

シ其一部分ノ財産ヲ保存シ置ク事ニ關シテ爭フタルニ非サル(例之ハ私生子ノ爲メニ財産ノ一部分ヲ存シ置ク如キ)ニ於テハ之ヲ財産ノ讓渡ト爲サ、ルナリ

故ニ初審ニ於テハ必ス財産讓渡人ハ被告人ト爲リ控訴ニ於テハ權利者若クハ權利者ニ非サル者常ニ控訴被告人ト爲ルナリ然レモ控訴ニ於テハ再審ヲ爲ス可キカ故ニ所有者又ハ所有者ニ非サル控訴被告人ヲ以テ讓渡人ト看做ス可キナリ但シ素ト控訴ハ初審裁判ニ代フルニ更ニ控訴裁判ヲ要スルニ在リテ且ツ初審裁判ノ効ヲ停止スルハ即チ其裁判ノ執行ノミヲ停止スルニ在リ然リ而シテ其裁判執行ノ停止タルヤ初審裁判官ノ裁判申渡書ニ在ル所ノ直者ニ有益ナル推測ヲ毀ツノ義ニ非サルナリ是レ蓋シ大審院ノ說ノ據根ト爲スニ此推測ヲ以テシ是ヲ以テ大審院ニテハ初審裁判ニ於テ直者ト爲リシ者ヲ以テ財産

讓渡人ト爲スナリ

故ニ大審院ノ審理ニ因レハ財産讓渡人ト其讓受人トノ如何ヲ判決スルハ頗ル緊要ノ事ナリ是レ若シ雙方本人ノ得タル動産ノ部分互ニ均一ナラサル時ハ其劣リタル財産ノ量ニ税金ヲ課ス可キニ在レハナリ然リト雖モ記録税司ノ説ニ於テハ敢テ此區別ヲ爲スヲ要セサルナリ其故ハ不動産ニ關スル訴訟權ノ讓渡ニ課税シ又併セテ財産所有權ノ轉移ニ課税スレハナリ

〔第四百四節〕予カ所見ニ依レハ前節ニ説述シタル二説ノ如キハ兩ツナカラ上ニ記載シタル法律ノ明文ニ反對セリ該法律ノ第六十八條ノ第一項第四十五目ノ規則ニ於テハ金高即チ價ヲ拂フ可キ義務ヲ記入セサル和解契約コハ只、定額税ヲ課スルニ在ル故ニ假令ヒ大審院ノ説殊ニ記録税司ノ説ト此法律ノ施行ト相乖ラサル場合ヲ引證スルヒ是

レ法律ノ正條ヲ死文ニ爲シ却テ其解釋ヲ以テ法律ノ明文ニ勝タシムル者ナリ蓋シ然ラサレハ和解ノ契約ニ託シテ竊カニ有酬ノ契約ニ屬スル財産所有權ノ讓渡ヲ爲シ以テ容易ク官署ヲ欺クノ端緒ヲ爲ストノ駁論ヲ爲ス者アル可シト雖モ余輩之ニ答テ法律ノ明文ハ昭々乎タリ若シ詐僞ヲ爲シタル場合ニ在テハ官署ニ於テ其眞ノ所爲ヲ搜索スルヲ得可ク隨テ立法家ハ其詐僞防止ノ爲メニ嚴則ヲ設ケサルノ弊ハ高税ヲ課シテ和解ヲ爲シ難カラシムル弊ニ比スレハ小ナル者ト思考シタリト云ハノンニ實ニ和解ハ既ニ生シタル爭又ハ將來生ス可キ爭ヲ解止センカ爲メニ要スル者ニシテ其爭ノ眞僞ハ其時ノ景況ニ據テ見ルヲ得可ク畢竟和解ハ訴訟ヲ消滅セシムル者タレハ立法家ハ之ヲ保護センコトヲ欲シタルナリ故ニ之ヲ熟思セハ立法家ノ旨趣ハ敢テ官庫ヲ害スル詐僞ノ豫防法ニ注目スルニ非スシテ和解契約ノ税ヲ定額

税ニ減シテ以テ和解ヲ爲シ易カラシムルニ在ルヲテ理會ス可キナリ
 〔第四百五節〕 會計法律上ニテハ結社ヲ公證スル證書ト爲スナリ是故
 ニ其契約書ニハ只五「フラン」ノ定額税ヲ納メシムルノミ蓋シ共和曆第
 七年三月二十二日ノ法律ニ據レハ其第六十八條ノ第三項第四目ニ記
 スルニ社員若クハ社外人ノ間ニ於ケル義務ノ契約若クハ義務ノ解放
 若クハ動産不動産ノ讓渡ヲ記載セサル結社證書ヲ以テセリ故ニ當時
 ニ在テハ此類ノ證書ニハ只三「フラン」ノ定額税ヲ課スルヲ以テ法トナ
 シタリ

但シ其後千八百十六年四月二十八日ノ法律第四十五條第二項ニ由テ
 更ニ其税額ヲ増シテ五「フラン」ト爲シタリ是故ニ會社ニ金高又ハ勞力
 ナ供ス可キ契約ハ之ヲ目シテ有酬ノ財産所有權轉移證書ト爲スヲ無
 ク且ツ法律上ニテハ會社ノ無形人タル場合ト社員ト其存在ヲ共ニス

ル場合トテ區別セサルヲ以テ彼此ノ別ナク皆均ク其契約ノ爲メニ課
 スルニハ定額税ヲ以テセリ

〔第四百六節〕 會社ニ金高又ハ他ノ財産ヲ供スル契約ニ定額税ヲ課ス
 ルノ法ハ之ヲ法律ノ特典ト云フ可キカ將タ原則ノ餘波ト云フ可キカ
 茲ニ之ヲ論スルニ此事ヲ穿鑿スルモ殆ト無益ニ屬シ徒勞ナルカ如シ
 是レ財産讓渡税ノ事ニ就テハ假令ヒ此區別ヲ爲スヒ一モ法律上ノ効
 ナキヲ必然ナレハナリ然リト雖モ税官ハ登記税ヲ徵収スルニ比例税
 則テ用ヒノヲ企望シタリ故ニ此目的ヲ達セント欲セハ會計法律上
 ニテ右ノ契約ニ定額税ヲ課セシハ特典ノ處置ヲ爲セシニ在ルヤヲ窺知
 スルヲ亦緊要ナリトス而シテ右ノ定額税ヲ課スルノ法ヲ設ケタルハ實
 ニ特典ニ出ツルトセンカ若シ果シテ然ラハ其特例ハ只財産讓渡税ノ
 爲メノミニ之ヲ設ケタルヲ以テ法律ノ明文ト爲ス可ク隨テ登記法ニ

其特典ヲ推及スルヲ得サルナリ若シ之ニ反シテ一般ノ原則ヲ適施スルニ在ルトセハ假令ヒ其證書ハ其性質ニ於テハ公證ノ爲メニ設ル證書タリトモ登記税ヲ課ス可カラサルナリ然ルニ初メ記録税司ニ於テハ千八百十六年四月二十八日ノ法律第五十四條ニ記スルニ證書ノ種類ニ依テ書入質役所ノ簿冊ニ登記ス可キ者ナレハ常ニ其證書面ノ金高百ニ一フラン五十サンチムノ比例税ヲ課ス可キ旨ヲ以テシタルニ根據シ登記税ヲ課シタリシカニ此說ニ從ヘハ會社ノ證書ノ如キモ亦其種類中ニ加フ可キノ理ナリ何トナレハ會社ノ爲メニ之ヲ論スレハ其證書ニ關スル書入質ノ權ヲ豫除セシニハ登記法ヲ行フ有益ナレハナリ故ニ此說ノ根據ト爲ス所ニアリ即チ(其一)ハ財産ノ讓渡ヲ爲スト雖モ會計法律上ニ於テ有酬ノ不動産所有權轉移證書ニ於ケルカ如ク百ニ四フランノ比例税ヲ課セサルハ全ク特典ニ出テタルニ在リ

(其二)法律ノ特典ヲ與ヘタルハ財産讓渡税ニ限ル可キヲ以テ登記税ヲ課ス可キニ在リ(其三)千八百十六年四月二十八日ノ法律第五十四條ノ規則ニ於テ有酬ノ契約ヲ以テ財産所有權ヲ移ス證書ニシテ即チ財産讓渡證書書入質役所ノ簿冊ニ登記ス可キ種類ノ者タル時ハ登記税ヲ納メシムルニ在リ

然レモ記録税司ニテハ千八百五十九年九月十六日附ノ參議院ノ解釋ヲ以テ右ノ說ヲ廢棄シタリシカ其解釋ハ載セテ大審院ノ判決ヲ收税吏ニ達セシ千八百五十九年十二月五日附ノ教示中ニ在リ而シテ其大審院ノ判決ニ據レハ會社ニ財産ヲ供ス可キ契約ニ課スル登記税ハ社員ヨリ契約書ノ登記ヲ要求シタル時ニ非サレハ之ヲ徵收ス可カラサルヲ以テ法トス

(第四百七節) 結社ノ證書ニ記スルニ社員又ハ社外人ノ間ニ於ケル義

務ノ契約若クハ義務ノ解放若クハ動産不動産ノ讓渡ヲ以テシタル時
ノ外財産讓渡稅ヲ免除スルコト無シ但シ同上ノ事柄ヲ記入スル結社證
書ハ會社ニ財産ヲ供スル契約ニ關スル者ニ非スシテ社員又ハ社外人
ノ爲メニ爲シタル箇條ニ關係セシ者タリ故ニ此時ニ於ケル會社ノ契約
書中ニハ或ハ賣買若クハ贈遺ヲ記入シ或ハ貸貸ノ契約若クハ義務若
クハ義務ノ解放ヲ附記スルヲ以テ其契約書中ニ記入シタル事柄即チ
ノ種類ニ從ヒ其附帶契約ノ爲メニ比例稅ヲ課スルナリ然レモ
主タル契約即チ主ニ附屬セル箇條ノ爲メニハ別ニ稅ヲ課ス可カラサ
ル典則ヲ推及シテ此說ヲ駁スル者アル可シト雖モ此典則ヲ適施セシ
ト要セハ共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十八條ノ規則ニ矛盾
ス可ク且ツ余輩ハ附帶事件ノ爲メニ課稅セサル規則ハ只之ヲ主要契
約ニ離ル可カラサル契約ニノミ適施ス可キ者タリト爲スナリ故ニ現

金賣買ノ契約ヲ爲ス時ノ如キハ其代金ヲ渡ス可キ義務ノ爲メニハ賣
買契約上ノ外別段ニ課稅セサルナリ殊ニ其義務ノ解放ノ爲メニハ別
段ニ稅ヲ課スルコト無シ蓋シ其理タルヤ素ト代金ハ賣買契約ノ本質ニ
シテ代金ヲ渡ス可キ義務ナケレハ隨テ主要契約ノアル可キ理ナケレ
ハナリ之ニ反シテ若シ社中ノ各人互ニ利益ヲ得ル所ノ契約若クハ其
結社ノ約束トシテ社外人ノ爲メニ利益ヲ約スル所ノ契約ノ如キニ至
テハ其契約ノ爲メニ比例稅ヲ課ス可キナリ
會社ニ不動産ヲ供シタル會社ハ即チ其不動産ノ所有者ト成ルト雖モ
各社員ハ其所有者ト爲ル可キ者ニ非ス故ニ會社解散ノ後ニ至リ糶賣
法ヲ以テ其不動産ヲ曾テ供シタル社員中ニアラサル社外ノ一人ニ賣
拂ヒ若クハ之ヲ各社員ニ分與スルコトアルモ之ヲ目シテ財産讓渡ト爲
ス可キ者タレハ比例稅ヲ課スルコト得ルナリ

〔第四百八節〕 不動産ノ入額所得權ハ其目的ニ因テ之ヲ不動産ト看做ス可シ(民法第五百二十六條)是ヲ以テ其讓渡ノ爲メニ比例税ヲ課スルハ有酬ノ契約ヲ以テ性來ノ不動産即チ眞ノ不動産ヲ讓渡ス時ノ規則此規則ハ既ニ之ヲ上ニニ從フ可キ者ナリ是ヲ以テ入額所得權ノ賣買ノ爲メニハ動産ノ賣買ニ於ケルカ如ク其證書ノ性質ハ書入質役所ノ簿冊ニ登記ス可キ者タルト否トノ別ナク悉皆其證書面ノ金高百ニ五「フラン」五十「サ」ンチームノ税ヲ課シ又無酬ノ契約ヲ以テ此權ヲ移ス契約ノ爲メニハ其證書ノ種類登記ス可キ者ニ非サル時ハ百ニ四「フラン」ノ税ヲ課シ登記ヲ要スル者タル時ハ百ニ五「フラン」五十「サ」ンチームノ税ヲ課スルナリ而シテ其税ハ左ノ二個ノ場合ニ於テ課ス可キ者トス

第一 入額所得權ヲ新ニ設ル時

第二 入額所得權ノ所有者ヨリ更ニ他人ニ其權ヲ讓與スル時

〔第四百九節〕 茲ニ入額所得權ヲ財產所有權ニ合併スル時ノ處置如何ヲ論スルニ死去又ハ法律上ニ定ムル此權滅盡ノ原由ニ因テ入額所得權ノ終リタル時ニ於テ之ヲ財產所有權ニ合併シタルカ爲メニ即チ入額所得權ノ根原タル財產ヲ所有スル者ニ入ハ絶テ税ヲ課スル無シ然レモ時トシテハ入額所得權ノ所有者ニ於テ其權ヲ拋棄シ若クハ之ヲ財產所有者ニ讓與スルコトアリ然ル時ハ別段ノ約定ナク拋棄シタルト有酬ノ契約ヲ以テ拋棄シタルト區別セスンハアル可カラズ其純粹ニ拋棄シタル場合ニ於テハ三「フラン」ノ定額税外ニ別ニ税ヲ課ス可カラスト雖モ有酬ノ契約ヲ以テ拋棄シタル場合ニ於テハ財產ヲ讓渡ノ爲メニ課ス可キ比例税ヲ納メシムルナリ但シ入額所得ノ權ヲ分離シタル財產ノ所有者數人アリテ其中數人ノ爲メニ入額所得權ヲ拋棄シタル爲メニハ之ヲ目シテ別段ノ約定ナク純粹ニ拋棄シタル者ト爲ス可カラズ是

ヲ以テ然ル時ハ其證書ニ課スルニ無酬ノ契約ヲ以テ財産ヲ讓渡ス時
 ノ税又ハ有酬ノ契約ヲ以テ財産ヲ讓渡ス時ノ税ヲ課スルヲ得可シ
 但シ入額所得權ヲ分離シタル財産ノ所有者一人ナル時ニ於テ其一人
 ノ所有者ニ入額所得權ヲ與ヘタルカ若クハ其所有者數人アル時ニ於
 テ其數人ノ所有者ニ之ヲ與ヘタルカ如キハ之ヲ目シテ別段ノ契約ナ
 ク純粹ニ拋棄シタル者ト爲ス可キカ故ニ此時ニ於テハ三「フラン」ノ定
 額税ヲ課ス可キノミ

〔第四百十節〕 入額所得ノ權ヲ拋棄シタルカ爲メニハ只三「フラン」ノ定額
 ノ税ノミヲ課ス可シト雖モ税官ニ於テハ左ノ旨趣ニ基キテ別ニ登記
 税ヲ課スルノ說ヲ主張シタリ其旨趣タルヤ即チ第一「入額所得權ノ拋
 棄ハ其權ノ讓渡ヲ生ス可ク第二「財産讓渡税ヲ課セサルハ特ニ法律上
 ニテ明許スルニ因ル者タレハ假令ヒ財産讓渡税ヲ免除スルモ登記税

ヲ免除ス可カラス第三「書入質ノ權ヲ滌除セシカ爲メニ登記法ヲ行フ
 」「ヲ要スル時ハ入額所得權ヲ拋棄シタル證書ヲ以テ登記ス可キ種類
 ノ證書ト爲ス可シト云フニ在リ然ルニ大審院ノ判決ニ據レハ此說ヲ
 排斥シタリ蓋シ至當ノ判決トセサルヲ得ス實ニ登記ノ爲メニ課スル
 比例税ハ之ヲ定額税ニ及ホステ得ス之ヲ及ホス可キハ只「財産讓渡税
 ニ限ルヲ以テ法律ノ本旨ト爲ス可ケレハナリ
 立法家ハ不動産ノ賣主ニ入額所得權ヲ貯フル爲メニ其所得權ヲ設ル
 場合ニ於ケル特別ノ規則ヲ定メタリ而シテ共和曆第七年三月二十二
 日ノ法律第十五條ノ第十六目ヲ以テ若シ不動産ノ賣主ニ其財産ノ入
 額所得權ヲ存シ置ク時ハ此權ノ價ヲ其不動産ノ賣買契約書面ニ記シ
 タル代價ノ半額ニ見積リ之ヲ其代價ニ合シテ其總高ニ税ヲ課ス可シ
 但シ後日若シ其不動産ノ所有權ヲ入額享用權ニ合併スルニ別ニ税ヲ

課ス可カラサル旨ヲ記載シタリ因テ茲ニ此嚴則ヲ設ケテ以テ證書面ノ代價ニ基キテ課ス可キ税ニ超ヘタル税ヲ課スルノ理由如何ヲ論スルニ立法家ハ其賣買本人ノ財産ヲ前斷シ其入額享用ノ權ヲ分離スルヲ云フ以テ官府ヲ欺クノ方法ヲ得ンコトヲ恐レタルコト出テシ者コシテ若シ此規則ナキ時ハ賣主ハ入額所得權ヲ存シ置キテ此權ヲ分離シタル財産ノ代金ニ對スル財産讓渡税ヲ納メテ財産ヲ他人ニ賣渡シ後日竊ニ隱密ノ證書ニ因テ入額所得權ヲ拋棄センコトヲ契約シ他日果シテ其約ヲ履行スル時ニ方リテハ只三フランノ定額税ヲ納メテ以テ別段ノ約束ナク純粹ニ入額所得權ヲ拋棄スルコトアル可シ但シ該法律第十五條第十六項ノ規則ハ此詐偽ヲ防制センカ爲メニ設ケタル者コシテ即チ入額所得權ヲ存シ置キテ以テ不動産ヲ賣拂フ事ニ關スル規則タルヲ以テ入額所得權ヲ設ル方法ノ如キコトハ之ヲ適施ス可カラス蓋シ其方法ノ如キニ至テハ上

ニ言フ所ノ危懼ノ念アラサレハナリ

第十一款 記録税ノ續キ

〔第四百十一節〕 共和曆第七年三月二十二日ノ法律ニ於テハ有期ノ賃貸契約ト無期ノ賃貸契約トニ付テ其収税上ノ區別ヲ爲シタリ而シテ家屋又ハ動産ノ賃貸契約土地ノ賃貸契約牧地及ヒ獸類飼養料ノ賃貸契約獸類ノ賃貸契約并ニ供養ノ賃貸契約ノ如キハ其年數限リアル者即チ有期ノ賃貸契約ニハ其年數ヲ通計シテ以テ其年限内ノ全賃銀ニ課スルニ百フランニ二十サンチムノ比例税ヲ以テシ若シ其年數限リナキ者即チ無期ノ賃貸契約ナレハ其年數ヲ通計シタル賃銀ヲ定メ難キカ故ニ此類ノ賃貸契約ニハ百フランニ二フランノ比例税ヲ課シ又無期ノ年金ヲ拂フ可キ契約ニテ不動産ノ賃貸契約ヲ爲シタル時ニハ百ニ四フランノ比例税ヲ課シタリ蓋シ其百ニ二フラン又ハ四フランノ比例税ヲ課ス

ル所ノ元金ニハ年々ノ賃銀ト費用トニ二十ヲ乘シタル數ヲ以テスル
 ナリ而シテ若シ畢生間ノ年金拂フ可キ契約ヲ以テ無期ノ賃貸契約ヲ
 爲シタル時ニハ右ノ元金ヲ算定スルニ二十ヲ乘スルニ非スシテ十ヲ
 乘スルナリ
 其他賃貸ノ賃銀ヲ拂フニ金錢ヲ用ヒスシテ品物例之ハ若干ノヲ用フ食料ノ如キ
 可キヲ契約セシ時ノ如キハ其證書ヲ記シタル時ノ縣内市場物價表ニ
 照準シテ其品物ノ代金ヲ評量シ若シ其物價表ニ照據シテ代金ヲ評量
 スルヲ得サルニ於テハ雙方本人ヲシテ其代金ヲ申述セシメ其申述セ
 シ所ニ據テ収税ノ基礎ヲ定ムルナリ
 [第四百十二節] 舊法ノ時ニ於テハ賃貸契約ニ命スルニ種々ノ名稱ヲ
 用ヒタリ而シテ此賃貸契約ハ恰モ財產所有權ヲ轉移スルニ彷彿スル
 者ト爲シテ賣買ノ類例ニ基キ之ニ課スルニ財產讓渡税ヲ以テシタリ

蓋シ共和曆第七年三月ノ法律ヲ以テ有酬ノ契約ニ由リ財產所有權ヲ
 移ス時ノ證書ニ均ク右ノ賃貸契約ニ課スルニ四[フラン]ノ比例税ヲ以
 テシタルハ全ク賣買ノ類例ヲ以テシタル所ナリ然ルニ千七百九十年
 十二月二十九日ノ法律ヲ以テ無期ノ賃貸契約ヲ禁セシ以來ハ右ノ舊
 法ヲ適施スルヲ得サルニ至リタリ該法律第一條ノ第二項ニ曰ク自
 今如何ナル土地ノ賃貸タリニ取戻スヲ得サル契約ヲ以テ土地ノ賃
 貸ヲ爲スヲ許サス但シ既定ノ年限内ニ執行ス可キ賃貸契約及ヒ自
 今九十九年ヲ限リトシタル賃貸契約又ハ畢生間ノ賃貸契約此契約ハ
ノ數人ト約スル者ニ其人三ヲ爲ス如キハ此限ニ在ラサルナリト故
名ニ過キサル時ハ亦同一ナリ
 ニ該法律ニ於テハ無期ノ賃貸契約ヲ認許セサルナリ而シテ此法律ハ
 現今尙ホ實地ニ行ハル、者タルヲ以テ共和曆第七年三月二十二日ノ
 法律ヲ以テ特ニ無期ノ賃貸契約ニ課スルニ百ニ四[フラン]ノ税ヲ以テ

ノ者ニ關スル畢生間ノ賃貸契約ニハ百フランニ四フランノ比例稅ヲ課スト雖モ此稅ヲ課ス可キ元金ヲ定ムルニハ其年金ニ乘スルニ十ヲ以テスルナリ但シ無期ノ賃貸契約ニ至テハ少シク之ニ異ナリ右ノ元金ヲ定ムルニハ其年金ニ乘スルニ二十ヲ以テシタル數ヲ以テ其額トス故ニ其ニ稅目ハ同一ナリト雖モ其金高ニ至テハ一ト二トノ差アリ是レ蓋シ畢生間ノ賃貸契約ハ之ヲ無期ノ賃貸契約ニ比スレハ其課稅ノ基礎タル年限短キニ由ル所ナリ

〔第四百十四節〕無期ノ賃貸契約ハ千七百九十年十二月二十九日ノ法律ヲ以テ廢止シタル以來假リノ無期賃貸契約ニ非サレハ法律上ニテ認許セサルノ規則ト爲リタリ而シテ其年數ハ九十九年ヲ越ユ可カラサルヲ以テ法トス但シ既ニ舊時ノ契約ニ因テナシタル無期ノ賃貸契約ハ即チ財產所有ノ證書タルヲ以テ上ニ記シタル財產所有權ヲ移ス

諸證書ニ關スル規則ヲ適施ス可シ然ルニ假リノ無期賃貸契約ニハ如何ナル基礎ニ由テ稅ヲ課ス可キヤ茲ニ之ヲ論スルニ賃貸年數ノ限リアル者ハ固ヨリ只百フランニ二十サンチムノ稅ノミチ課ス可シト雖モ若シ賃貸契約ニ非スシテ不動産ニ關スル書入質ト爲ステ得可キ物權ヲ設ル者ハ登記稅ヲ加ヘ有酬ノ契約ヲ以テ不動産ヲ讓渡ス時ノ財產讓渡稅ヲ課ス可キナリ但シ大審院ノ數次ノ判決ヲ以テ無期ノ賃貸契約ヲ目シテ不動産ニ關スル書入質ト爲ステ得可キ物權ト爲シタリ蓋シ此判決ハ方今確乎不拔ナル者タルヲ以テ收稅上ニテ百フランニ二十サンチムト定リタル賃貸契約ノ稅ニ換フルニ有酬ノ契約ヲ以テ財產ヲ讓渡ス時ノ稅(即チ百フランニ五フラン五十サンチム)ノ比例稅ヲ課スルニ至リタリ又一ニハ假リノ無期賃貸契約ハ之ヲ相續人ニ傳ヘ得可キニ由リ之ヲ入額所得ノ權ヲ有セル者ノ死去ニ因テ減

消スル入額所得權ニ同視スルヲ得ス是レ即チ假リノ無期貨貸契約ニ課税スルノ基礎ト爲ス可キ元金ヲ算定スルニ其年金ニ乗スルニ二十ヲ以テシテ十ヲ以テセサル所以ナリ

〔第四百十五節〕 賃貸契約ヲ他人ニ讓與シ若クハ賃借ノ物件ヲ更ニ他人ニ賃貸シ若クハ賃貸契約ノ義務者ニ代テ其義務ヲ踐行シタル人其契約ニ關スル權利者ニ代リ若クハ賃借ノ物件ヲ其貸主ニ戻ス等ノ契約ニハ皆其根原ノ賃貸契約ニ同一ナル税ヲ課スルヲ以テ法トス(共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十九條ノ第三項第二目)蓋シ此規則タルヤ有期ノ賃貸契約ノ爲メニ設ケシ者タレハ無期又ハ畢生間ノ賃貸契約ニ適施ス可キ旨ヲ法律ノ明文ニ掲ケスト雖モ賃借ノ物件ヲ更ニ他人ニ轉貸スル賃貸契約及ヒ賃貸契約ヲ他人ニ讓與スル契約ノ如キハ即チ賃貸契約タルヲ判然タレハ此類ノ契約ニハ百ニ四(フロン)

ノ比例税ヲ以テ無期ノ賃貸契約ニ關スル税則ニ循テ課税スルヲ得可キハ自カラ判然タリ但シ賃貸ノ物件ヲ其貸主ニ戻ス契約ニ適施ス可キ税則ニ至テ余ノ所見ニ依レハ裁判上ノ解釋法ニ於テハ之ヲ無期ノ賃貸契約ニ推及適用ス可キノ理由アルヲ知ラサルナリ實ニ賃借ノ物件ヲ其貸主ニ戻ス契約ヲ目シテ賃貸契約ト看做ス可キハ蓋シ典則ニ背反セリト云ハサルヲ得ス是レ其貸主タル者ニシテ自カラ所有セル物件ノ借主ト成ルカ如キ自然ノ事理ニ乖戻スレハナリ是故ニ此賃借ノ物件ヲ貸主ニ戻ス契約ノ如キハ畢竟之ヲ賃貸契約ノ拋棄ト云フ可ク決シテ之ヲ賣買上ニ於ケルカ如キ既ニ讓渡シタル權利ヲ更ニ回復スルノ比ニ非サルナリ然レモ亦有期ノ賃貸契約ノ如キニハ賃借ノ物件ヲ其貸主ニ戻ス契約ニ關シ法律ノ明文上ニ存スル所ノ賃貸契約ニ均ク之ニ課税スル條則ヲ適施セスンハアル可カラスト雖モ此規則タ

ルヤ素ト公道ニ背戻シテ設ケシ者タレハ余輩ノ所見ニ依レハ之ヲ無期ノ賃貸契約ニ適施ス可カラサルカ如シ是レ之ヲ適施シ得可キハ所謂ル一般ノ公道ニ背戻シテ以テ設ケタル規則ハ其効績アルヲ無シト云ヘル法語ニ牴觸スレハナリ

〔第四百十六節〕 又二種ノ所爲(即チ其一ハ地所ノ賃貸ニ類似シ又一ハ家屋ノ賃貸ニ類似スル所以)アリテ根原ニ於テハ大ニ賃貸契約ニ異ナリト雖モ殆ト此契約ニ同視ス可キ者ナリ例之ハ収納物若クハ菓物ノ賣買ノ地所ノ賃貸ニ類似セルカ如キ是ナリ但シ彼是互ニ差異アル所ハ収納物若クハ菓物ノ賣買ハ其買主ニ授ルニ収獲物ニ關スル權ヲ以テスルニ過キサレヒ地所ノ賃貸ハ其借主ニ與フルニ其地所ヲ使用スル權利ヲ以テス可キニ在リ而シテ又意外ニ収獲物ヲ損シタル時ハ買主之ヲ擔當ス可シト雖モ借地ノ収獲物ヲ意外ニ損失シタル如キハ貸

主之ヲ擔當ス可キニ在リ其他收稅上ニテモ收獲物ノ賣買ニハ動産ノ賣買ニ關スル稅則(即チ百ニ二フラン)ノ比例稅ヲ納ム可キ規則ヲ履行セシメ有期ノ賃貸契約ニハ百ニ二十[サンナーム]ノ稅ヲ納メシムルノミ蓋シ然ル時ハ收獲物賣買ヲ蔽フニ賃貸契約ノ名義ヲ假ルヲ易々タル可シ是レ所有者ハ連綿トシテ其賃貸シタル地所ヲ耕作シ若シ意外ニ収獲物ヲ損失シタル時ハ借主ノ擔當トス可キヲ約スレハナリ是故ニ是ノ如キ場合ニ於テハ裁判所ニテ其事實ニ據テ本人ノ意向ヲ推及酌量シ以テ本人ノ用ヒタル名義如何ニ關セズ證書ノ性質ニ應スル稅則ヲ適施ス可シ

〔第四百十七節〕 右ニ記セシヨリ他ノ所爲ハ即チ往々地所ノ賃貸契約ニ附記スルニ附帶ノ箇條ヲ以テスル者是ナリ而シテ借主ハ其借地ニ建築ス可キヲ約スル者アリ蓋シ其契約ニ由テ互ニ異ナレルニ箇ノ

効績ヲ生ス然リ而シテ其契約ノ區別タルヤ比例税ヲ課スルニ於テハ大ニ緊要ナル者トス即チ第一借主ハ其借地ニ建築ス可キヲ契約シテ以テ其賃貸契約ノ期満ニ至リ其償ヲ得スシテ地所及ヒ建築物共ニ之ヲ其地所ノ貸主ノ所有ト爲ス可キヲ約シタル時ノ如キハ其建築ス可キ義務ハ即チ賃貸契約ノ償タレハ其償ノ見積高ヲ賃貸ニ加ヘテ得タル金高ヲ以テ元金ト定メ其元金ノ百ニ對シ二十「サンチム」ノ比例税ヲ課ス可ク(第二)賃貸契約ノ期満ニ至リ貸主ハ評價シタル代金ヲ拂フテ右建築物ノ所有者ト爲ル可キヲ約シタル時ノ如キハ其借主ハ其建築物ノ假リ所有者タル可ク又其貸主ハ其建築物ノ將來ノ所有主タル可キニ由リ其賃貸契約期満ノ時ニ於ケル建築物ノ賣買ニハ百ニ五「フラン」五十「サンチム」ノ比例税ヲ課ス可キナリ故ニ此第二ノ場合ニ於テハ建築ス可キノ義務ヲ以テ賃貸契約ノ償ト爲シテ之ヲ賃銀

ニ加ヘ以テ百ニ二十「サンチム」ノ税ヲ増加ス可カラス是レ其建築物ハ他日更ニ其讓渡ヲ生ス可キヲ以テナリ

〔第四百十八節〕 賃貸契約ノ論局ヲ結フニ方リテ須ラク注意スヘキ一事ハ即チ賃貸契約ノ税ハ證書税タルヲ記憶ス可キニ在リ故ニ此税ハ本人ヨリ其契約書ノ記録ヲ求メタル時ニ非サレハ課ス可カラサル者ニシテ竊ニ財産ヲ讓渡シタル時ニ於テ税官ヨリ其實ヲ搜索査檢シ得ルノ比ニ非サルナリ因テ本人ヨリ申述セサル賃貸契約ハ税官ニ於テ之ヲ檢索スルヲ得サルヲ以テ法則トス

〔第四百十九節〕 賃銀ヲ拂ハサルニ由テ賃貸契約ヲ解除ス可キノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テハ裁判申渡書ニ課スルニ賃貸契約ノ比例税ヲ以テス可キヤ如何ヲ論スルニ記録税司ニ於テハ比例税ヲ課ス可キ事ヲ企望シタリ蓋シ其主意タルヤ賃借ノ物件ヲ其貸主ニ戻ス契約ニ課

スルニ比例税ヲ以テスルカ故ニ若シ此裁判申渡書ニ對スルニ比例税ヲ免スルニ於テハ僞リテ訴訟ニ託シ以テ賃借ノ物件ヲ其貸主ニ戻ス契約ヲ結フ可キ恐レアルニ由ル所ニシテ記録税司ニ於テ比例税ヲ課セントスルニ依リ引ク憑據ハ只此詐僞ヲ恐ル、ノ一點ニ在ル所ナリ故ニ若シ賃銀ヲ拂ハサルニ由テ契約ノ解除ヲ申渡スニ非サル場合例之ハ入額所得權ヲ濫用セシカ爲メニ於テハ其裁判申渡書ニ課スルニ比例税ヲ以テス可キヲ要セサルノ理ナリ然レモ余ノ所見ニ依レハ詐僞ノ行ハレ易キヲ以テ曾テ法律ノ明文ニ存セサル税ヲ課スルノ理由ト爲スニ足ラサルナリ蓋シ共和曆第九年六月二十七日ノ法律第十二條ニ於テ代金ヲ拂ハサルニ依リ賣買契約ノ解除ヲ言渡ス裁判申渡書ニ比例税ヲ課スルノ規則ノ如キハ詐僞ノ行ハレ易キヲ恐ル、ノ旨趣ヲ以テ其法理ヲ釋明スルヲ得可シト雖モ一ノ法理ヲ解釋スルニ足

レル理由アルモ常理ニ合セサル以上ハ未タ遽ニ之ヲ例證シテ以テ他ノ法理ヲ認ムルヲ得可カラス故ニ若シ詐僞ヲ行ヒシ者アル時ハ宜ク官署ニ於テハ之ヲ查實シ若シ其證據ナキ以上ハ詐僞ノ所爲ナキ者ト知ル可キナリ是レ蓋シ詐僞ハ啻ニ思料ノミヲ以テ之ヲ定ム可カラレハナリ

〔第四百二十節〕 民法上ニテハ人力ノ賃貸中ニテ役夫雇入ノ契約、工業請負契約、運送受負契約ノ三者ヲ區別シタリ然ルニ會計法律上ニテハ役夫雇入契約ニ關スル特別ノ規則アルヲ見ス只工業請負契約ニ至テノミ共和曆第七年三月二十二日ノ法律ヲ以テ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ課シタリ該法律第六十九條第三項第一目ニ曰ク賣買約定并ニ需用品ノ供給受負契約ヲ記入セス只建築補理及ヒ保存其他總テ價ヲ見積リ得可キ工業ニ關シテ人民互相ノ間ニ於テ取結ヒタル請負契約ニ課

スルニハ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ以テス

又右ノ法律ニ於テ人民互相ノ間ニ取結ヒタル云々ト記セシハ官府ト人民トノ間ニ取結ヒタル請負契約ノ如キハ之ヲ免税證書中ニ加フ可キニ由ル所ナリ然リ而シテ同上ノ法律ニ據レハ請負契約ノ證書中ニ賣買約定若クハ需用品供給約定ヲ記入セサリシコトヲ必要トス故ニ若シ是類ノ約定ヲ記入シタル時ニハ百ニ一「フラン」ノ税ニ代フルニ動産ノ賣買税即チ百ニ二「フラン」ノ税ヲ課スルコトヲ得ルナリ

〔第四百二十一節〕工業ノ請負人若シ其工業ノ爲メニ必要ナル消費品及ヒ諸材料ヲ供給セサリシ時ノ如キハ其請負人ハ只其勞力ヲ供スルニ在ルノミ故ニ然ル時ハ之ヲ勞動賃貸契約ト謂フ可キナリ然レモ此契約ト請負契約トハ互ニ大ナル差異アリ夫ノ役夫ト云ヘル語ト請負人ト云ヘル語トヲ以テ能ク其別ヲ呈シタリ抑請負人ハ獨立ノ者ニシ

テ其契約書ノ文面ト其條件ニ循フ可キ責任ヲ有スト雖モ己レノ勞力ヲ供スル者即チ役夫ハ其雇主ニ隸屬ス可キ者ニシテ雇主ハ之ニ命令ヲ下タシ若クハ其決定ヲ變スルノ權ヲ有セリトス蓋シ前節ノ規則ハ其明文ノ儘ニテハ只之ヲ請負契約ノミニ適施ス可ク役夫雇入契約ニハ適施ス可カラス是ヲ以テ或ル著述者ハ役夫雇入契約ニ適施スルニハ只總テノ無名證書ニ課ス可キ定額税ノミヲ以テス可キ說ヲ唱ヘタリ然レモ實際上ニテハ此契約ヲ目シテ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ課ス可キ請負契約ニ加フ可カラサルモ總テ金高ノ義務ヲ記入スル所ノ證書ニ課スルニ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ以テシタル典則ニ據レハ宜ク比例税ヲ課ス可キノ理ナリ其他右ノ場合ニ於テハ賃貸契約ニ非スシテ名代ノ委任ナリト云フヲ採用スル論說家タリモ必スヤ金高ヲ拂フ可キ義務無キ契約ト爲スコトヲ得サル可シ是故ニ百ニ一「フラン」ノ比例税

ヲ課スルヲ以テ非理視ス可カラサルナリ

〔第四百二十二節〕 運送受負契約ニ至テハ既ニ運送請負ノ事業ニ課スルニ間税ヲ以テスルカ故ニ共和曆第七年三月二十二日ノ法律ニテハ只一定額税ノミヲ課スルナリ然リ而シテ運送狀ニハ二フランノ定額税ヲ課シ又積荷目錄及ヒ積荷預リ證書ニハ三フランノ定額税ヲ課シ若シ運送狀及ヒ積荷目錄ニ金高又ハ貨物ニ關スル義務ヲ載セタル時ニ於テモ亦是等ノ證書ニハ定額税ノ外ニ課税スルコトナシ是レ蓋シ立法家ノ水陸運送營業ノ爲メニ特ニ設ケタル保護法ナリ

〔第四百二十三節〕 工業受負ノ見積書ハ之ニ記載スル金高又ハ貨物ニ關スル義務若クハ其義務ノ釋放ヲ以テセサルニ於テハ只二フランノ定額税ノミヲ課シ若シ是等ノ義務若クハ其釋放ヲ記入シタルニ於テハ百コ一フラン又ハ五十サンテームノ比例税ヲ課スルナリ

〔第四百二十四節〕 他人ニ工業受負契約ヲ讓與スル契約ニハ其受負契約ニ均ク百コ一フランノ比例税ヲ課ス然レモ只受負契約ノ如キハ其契約ノ權利ヲ雇主ニ還スコトヲ得サル者タリ蓋シ既ニ一旦讓渡セシ權利ヲ其讓主ニ還ス契約ハ所有權又ハ入額所得權ヲ移スノ意ヲ含蓄スル者ニシテ請負契約ノ如キハ更ニ再ヒ其權ヲ還スコト無ク隨テ其破約ハ眞ニ其契約ヲ拋棄シタルニ在レハナリ是ヲ以テ請負契約ノ如キハ假令ヒ之ヲ取結ヒタル時ヨリ二十四時後ニ至テ更ニ之ヲ破毀スト雖モ其受負契約ノ權利ヲ還シタル契約ト云フ可カラサルナリ

千八百五十一年四月二十二日ノ法律ニテハ役夫保護ノ爲メニ其第一條ヲ以テ授業契約ニハ縱令ヒ金高貨物ニ關スル義務若クハ其義務ノ釋放ヲ記載シタル時ト雖モ只二フランノ定額税ヲ課ス可キコトヲ掲ケ

〔第四百二十五節〕 千八百二十四年一月十六日ノ法律第一條ニ於テハ
 供養ノ賃貸契約ニ關スル稅則ヲ定ムルニ其契約ノ有期ナルト無期ナ
 ルトニ由テ其區別ヲ設ケタリ而シテ其有期契約タル時ニハ其毎年ノ
 賃銀ヲ加ヘテ以テ算定シタル元金ノ百〔フラン〕ニ對シ二十〔サンチム〕
 ノ比例稅ヲ課シ無期ノ契約タル時ニハ百〔フラン〕ニ付キ二〔フラン〕ノ比
 例稅ヲ課ス而シテ此時ニ於テハ其元金ヲ定ムルニ一ケ年ノ賃銀ニ十
 ヲ乘シテ得タル數ヲ以テ其額トスルナリ

〔第四百二十六節〕 茲ニ供養ノ賃貸契約ト畢生間ノ養料トノ區別如何
 ナ論センニ給養ノ賃貸契約トハ其本旨一方本人ヨリ金高又ハ定期ノ
 勞力ヲ得タル償トシテ他ノ一方本人ニ其糧食ノ爲メニ必要ナル諸物
 品ヲ給ス可キヲ契約スルニ在ル者ヲ云フ(但シ其給養物ハ消費ノ爲メ
 ニ必要ナル調理ヲ加ヘテ以テ之ヲ與フルナリ)之ニ反シ畢生間ノ養料

トハ其支給者ヨリ金錢又ハ食料品ヲ給スルヲ云フナリ然リ而シテ其
 受養者ハ支給セラレシ物ヲ以テ己レノ需用ニ充ツ可キニ因リ己レノ
 意ニ隨ヒ其金錢又ハ食料品ヲ消費スルモ又ハ之ヲ所得ト爲シテ之ヲ
 賣拂フモ共ニ自由ナリトス

畢生間ノ養料ニハ養料高ヲ十倍シタル高ノ百二十〔サンチム〕ノ稅ヲ
 課スルナリ若シ唯、法律上特定ノ人ノ間ニ於ケル責任上ノ養料問ニ於
ケル養料タル時ノ如キハ別ニ金高ニ關スル義務ヲ記セシ證書アラサ
 ルカ故ニ只、二〔フラン〕ノ定額稅ノミヲ課ス但シ此場合ニ於テ定額稅ノ
 外ニ別ニ課稅セサランニハ本人ヨリ其契約ハ法律上特定ノ義務ニ關
 スル旨ヲ陳述セシヲ必要トス故ニ百ニ二十〔サンチム〕ノ比例稅ハ
 其契約中ニ更ニ金高ニ關スル義務ヲ記セシ時ニ課スル者タリトス
 〔第四百二十七節〕 女僧ノ嫁資ハ尋常夫婦共通ノ財産中ニ加入セシ財

産タルニ非サルナリ何トナレハ其財産共通ハ之ヲ目シテ尋常ノ財産
共通ト爲サ、レハナリ故ニ此類ノ嫁資給養ノ賃貸契約ニ属ス可キ者
ダレハ上ニ説明シタル税則ニ循テ課税ス可キヲ法トス

〔第四百二十八節〕 牧地及ヒ獸類飼養料ノ賃貸契約并ニ獸類ノ賃貸契
約ノ如キハ其契約ノ期限アル時ハ其年限内ノ賃銀ヲ通計シタル金高
ノ百ニ二十〔サンチム〕ノ比例税ヲ課ス但シ其税ハ契約書中ニ記シタ
ル賃銀ニ課ス可キ者タレモ若シ其賃銀ヲ記載セサル時ニハ獸類ノ見
積リ直段ニ基キテ課税スルナリ(共和曆第七年三月二十二日ノ法律第
六十九條第二項第二目并ニ千八百二十四年二月十六日ノ法律第一條)
若又此賃貸契約ノ無期限ナル時ハ之ニ課スル若干ノ税額ヲ以テス可
キヤ法律上ニテ別段ニ其定制ナシト雖モ民法第千八百十五條ニ於テ
ハ有期無期ノ區別ヲ爲スヲ不用ニ属セシメタリ何トナレハ此條ニ於

テハ獸類ノ賃貸契約ハ其契約書中ニ明カニ其期限ヲ定メサル時ニハ
其契約年限ヲ三年ト看做ス可キ推測法ヲ設ケタレハナリ但シ此條ハ
特リ獸類ノ賃貸契約ニ關スル規則ヲ記セシ者タリト雖モ余ノ所見ニ
由レハ同上ノ規則ハ猶ホ之ヲ牧地ノ賃貸契約ニ推及スヲ得ル者ノ
コトシ是レ此所見ハ其旨趣ノ同致ナルニ由ルノミナラス民法第千八百
三十一條ノ明文ニ於テ許ス所ナリ況ヤ本條ハ載セテ獸類ノ賃貸契約
ト訛稱スル契約ト云ヘル款目中ニ在リト雖モ牧地ノ賃貸契約ニハ現
ニ獸類ノ賃貸契約篇中ニテ敢テ其契約ノミニ限ル可キ特種ノ性質ヲ
有セサル諸規則ヲ適施シ之ヲ要スルニ民法第千八百三十一條ハ即チ
其前數條ノ規則ヲ補フ可キ者タルニ於テオヤ

〔第四百二十九節〕 不動産質トハ民法上ニテ認許シタル不動産ノ抵當
契約ヲ云ヒ即チ一種ノ契約タリトス是ヲ以テ共和曆第七年三月二十

二日ノ法律第六十九條第五項第五目ニ於テハ總テ不動産抵當ノ契約ニ課スルニ百ニフランノ比例税ヲ以テス可キ規則ヲ適施スルナリ但シ會計法律上ニテ用ヒ來リタル不動産質ト云ヘルハ明瞭ニシテ且ツ定義アル語ニ代フルニ廣汎ナル稱呼不動産抵當契約ト云ヘル語ヲ用ヒタル者ハ他ナシ是レ畢竟民法上ニテハ不動産抵當契約ノ一種ノミヲ認メシニ由ル所ナリ然リト雖モ舊法律ニテハ正ク數種ノ契約ヲ許認シタルト會計法律ナル者ハ民法制定以前ノ起草發告ニ係ルトニ由ル所ナリ〔第四百三十節〕不動産質ニ税ヲ課スルノ基礎ト爲ス可キ元金ヲ算定スルニハ其質入契約ノ金高即チ借入高ヲ以テ其額ト爲スナリ(共和曆第七年三月二十二日ノ法律第十五條第五號)蓋シ質物ノ代價ヲ以テ直チニ課税ノ基礎ト爲サ、ルハ他ナシ抑不動産ノ質ハ財産所有權ヲ移ス可キ契約ニ非ス又不動産質入契約ヲ結ヒタル雙方本人ハ貸金ノ償還ナ

キ時ニ於テハ其不動産ヲ債主ノ所有物ト爲ス可キ契約ヲ結ヒ得サルニ在リトス(民法第二千八十八條)其他尙ホ不動産質ハ負債ノ保證ニ供ス可キ者タレハ立法家ハ不動産ノ代價ヲ以テ其抵當金高ニ超過シタル者ト看倣ス是故ニ法律上ニテ直チニ不動産ノ代價ヲ以テ課税ノ基礎ニ用ヒスシテ抵當金高ヲ基礎ト爲シタルハ即チ特典ニ出テタル所ナリ然レモ亦往々不動産(即チ質物)ノ金高不足ニシテ却テ抵當金高(即チ貸金)ノ超過セルコトアルハ現ニ實地ニ目撃スル所ナリ但シ法律上ニテハ概シテ抵當金高ヲ以テ課税ノ基礎ト爲セシカ故ニ假令ヒ抵當金高ノ質物ノ代金ニ超ヘタル時ニ於テモ猶ホ其抵當金高ノ百ニ對スルニフランノ税ヲ課ス可キヲ法則トス〔第四百三十一節〕不動産ノ賃貸契約ニ課スル税額ト不動産質ニ課スル税額トハ互ニ差異アル爲メニ却テ其二種ノ契約中ニテ甲ヲ掩フテ

乙トナシ乙チ甲ト偽ルノ弊ヲ助クル者ト云フ可キナリ故ニ不動産ノ
 貸貸契約ト不動産質トハ互ニ之ヲ混淆ス可カラサル規則ヲ設ルヲテ
 緊要ナリトス蓋シ其彼此互ニ區別アル所ハ他ナシ即チ貸貸契約ニ於
 テハ雙方本人互ニ其契約期滿ニ至ル迄ハ其約ヲ履行セサルヲ得ス
 雙方本人同意ノ上ニ非サレハ之ヲ破毀ス可カラスト雖モ不動産質ニ
 至テハ然ラス負債者ハ只其負債ヲ償還スレハ則チ質入契約ヲ終リ得
 可キニ在リトス

〔第四百三十二節〕 百ニ對シニ「フラン」ノ比例税ハ抵當金高(即チ借入レ
 金)ニ基キテ之ヲ納メシム可ク其利息ハ税銀ノ計算中ニ加フ可カラス
 故ニ特ニ質物ヲ以テ利息ノ拂方ヲ保證シタルニ非サルヨリハ利息ハ
 課税ノ基數定メ方ニ關係ナキ者タリ但シ若シ特ニ質物ヲ以テ利息ノ
 拂方ニ抵テタル時ニハ其元金拂期限ニ至ル迄ノ利息ヲ加ヘテ課税ノ

基數ヲ算定スルナリ其他若シ期限ニ至テ元高ヲ償還セサルニ於テハ
 默許ノ承諾ニ依テ其質入契約ヲ繼續スルヲ得可シ(民法第二千八十
 七條)然リト雖モ此承諾アリシヲ以テ増税ヲ課スルヲ得サルナリ是
 レ不動産質ノ税ハ即チ證書税タルヲ以テ記録税徴収吏ニ證書ヲ出シ
 テ其記録ヲ求メサル間ハ之ヲ徴收スルヲ得サル者タレハナリ

〔第四百三十三節〕 共和曆第七年三月二十二日ノ法律ニ據レハ第六十
 九條第三項第三目ヲ以テ總テ左ノ證書ニハ其證書面ノ金高ノ百ニ對
 シ「フラン」ノ比例税ヲ課シタリ

第一 普通ノ契約書

第二 和解ノ契約書

第三 金高ヲ拂フ可キ約束書

第四 計算決定書

第五 手形

第六 拂切手

第七 執行期限アル權利例之ハ有期ヲ讓渡シ若クハ其權利ヲ委任

スル契約書

第八 他人ニ對シテ有期ノ權利ヲ行フ爲メニ未タ登記セサル證書

ヲ以テ代金受取ヲ託スル委任狀

但シ此場合ニ於テハ若シ既ニ其證書ノ登録ヲ受ケタル旨ヲ證明

スルニ於テハ一定ノ期限ニ更ニ其稅ヲ還付スルナリ

第九 人民互相ニ附托シタル金高ノ預リ證書

第十 贈與ニ非サル金高并ニ未タ登記セサル動産不動産ノ讓渡代

金ニ非サル金高ニ關スル義務ヲ記入シタル諸證書

然ルニ千八百五十年八月七日ノ法律ニテ右稅額ヲ半減ニ爲シタリシ

カ更ニ千八百五十五年五月五日ノ法律第十五條ヲ以テ再ヒ舊制ニ復シタリ而シテ其稅銀ノ算定法ハ該法律第十四條第二項ヲ以テ之ヲ規定セリ曰ク本說ハ諸證書中ニ記シテ以テ其證書ノ目的ト爲シタル元金ニ基キテ之ヲ課ス可シト

通例金高ニ關スル義務ハ貸借上ヨリ生スル者タリト雖モ此義務ノ原因タル亦敢テ貸借ニ限ルニ非サレハ凡ソ其種類ノ如何ヲ問ハス金高ニ關スル證書ニハ皆其證書面ノ金高百フランニ對シ一フランノ比例稅ヲ課スルヲ得可シ但シ此義務ニ稅ヲ課スルニ方リテ法律上ニ於テ必要ト爲シタル成規アリ即チ(第一)此義務ノ贈與ニ關セサルヲ必要トス是レ若シ贈與ニ關スル時ハ贈遺ノ稅則ヲ適施ス可キナリ(第二)右ノ義務ハ動産或ハ不動産ノ讓渡ニ關セサルヲ必要トス是レ若シ此讓渡ニ關スル時ハ有酬ノ契約ヲ以テ財産ヲ讓渡ス時ノ稅則ヲ適用ス可

キカ故ナリ

〔第四百三十四節〕金高ニ關スル義務ニ比例税ヲ課セシニハ貸借ノ約束アルヲ以テ足レリトスルカ又ハ全ク金高ニ關スル義務ヲ負擔ス可キニ在ルカ茲ニ之ヲ論スルニ貸借ノ約束ハ實ニ之ヲ爲シタル者ノ直ニ負擔ス可キ義務ヲ包含セル者タリト雖モ此義務タルヤ即チ事ヲ爲ス可キノ義務ニシテ(民法第千四百四十二條)其義務ヲ履守セサレハ損害ノ償ヲ出シテ解除シ得可キ者タリ故ニ全ク貸借ヲ爲セシ後ニ非サレハ金高ニ關スル義務無キ者ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ只貸借ノ約束ヲ爲セシニ過キサル借主ハ之ヲ未必ノ條件ニ由リ其義務ヲ停止スルヲ得可キ負債者ト爲ス可キナリ是故ニ貸借ノ約束ヲ記シタル證書ヲ造リシト雖モ之ニ課スルニ比例税ヲ以テス可カラズ全ク貸借ヲ爲シタル時ノミニ限ル可シ○同上ノ規則ハ地所引當貸附會社ニ於テ履行

ス可キ貸借契約ノ登記法ノ爲メニ大藏卿ノ決定シタル所ナリ蓋シ此會社ニ於テハ(第一)假定ノ貸借ヲ爲シテ之カ爲メニ登記法ヲ履行シ(第二)書入質ノ權ヲ滌除シタル上確定ノ貸借ヲ爲シテ現金ヲ貸渡スヲ以テナリ故ニ假定ノ貸借ヲ爲スト雖モ若シ確定ノ貸借ヲ爲サルニ於テハ書入質ノ登記ヲ取消ス可ク若シ其貸借ヲ爲シタルニ於テハ其以前ニ爲シタル假定ノ貸借證書ノ登記ヲ以テ實ニ其貸借ヲ爲セシヲ證據ス可キナリ蓋シ千八百五十二年八月二十日附ノ大藏卿ノ決定ニ據リ且ツ其決定ヲ履行スル所ニ據テ之ヲ觀レハ現ニ記録税司ニ於テハ特定ノ方法ヲ以テ收税セリ即チ(第一)貸借ノ約束(即チ假定ノ貸借)ニハ定額税ヲ課シ(第二)治定ノ貸借ニハ百ニ一(フラン)ノ比例税ヲ課シ(第三)貸借ノ契約ヲ實踐シタルニ於テハ前ノ定額税ヲ以テ後ノ比例税ヲ減殺セサルナリ

〔第四百三十五節〕 貸借約定ノ信任上ノ貸借ニ由テ成ル時ノ如キモ亦同上ノ例ニ從フ可キ者タリ然レ此類ノ貸借約定ハ稍確實ナル性質ヲ具フルヲ得可キ者タリ其一例ヲ舉クレハ雙方本人中ノ一人ハ金高ヲ得セシメ他ノ一方本人ハ其金高ヲ實収シ之ヲ使用シタル後ニ償還ス可キヲ契約セシ時ノ如キ是ナリ而シテ大審院ノ判決ニ據レハ此類ノ貸借約定ヲ以テ眞ノ貸借ト看做シタリ是レ其貸金ハ其全員ヲ供ス可ク且ツ現ニ約定書中ニハ之ヲ引渡シタル旨ヲ記ス可キ所ノ確的ノ者ニシテ其返金ニ於テモ其全員ヲ返付ス可キ旨ヲ約定ス可キ者タレハナリ是ヲ以テ此貸借ニ於テハ金員引渡ノ前ニ納税セシムルナリ若シ然ラサレハ詐僞ノ行ハレ易キ恐アリ何トナレハ償還ノ義務ヲ記シタル信任上ノ貸借約定書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記シ金員ノ引渡ノ事ニ至テハ他ノ私ノ證書ヲ以テ其保證トナシテ其證書ノ登記ヲ免

レ得可キヲ以テ僅ニ定額税ヲ納メテ頗ル巨額ノ貸借ヲ爲スト雖モ貸借本人ニ於テハ保證ト利益トノ二點ニ於テ一モ損失ナケレハナリ其他從來既ニ判決ヲ言渡シタル所ノ事件ヲ以テ之ヲ證スルニ果シテ詐僞ノ所爲行ハレテ眞ノ貸借契約ヲ以テ約定ト爲シテ税ヲ免レシハ實際ニ目撃シタル所ナリ

〔第四百三十六節〕 法律上ニ於テハ大抵貨物ト云ヘル語ヲ附加セスシテ單ニ金高ニ關スル義務トノミ記セシテ往々之アルヲ以テ金高ニ關スル義務ニ非カレハ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ課セルノ法ト爲リタリ故ニ品物ニ關スル義務ノ如キハ只定額税ノミヲ課ス可キ者ト看做サ、ルヲ得ス是ヲ以テ耗盡セザル物品ノ借主ヨリ其物品ヲ返還ス可キ義務ニ至テモ亦只定額税ノミヲ課ス可キナリ蓋シ若シ其物品ノ借主ノ物品返還ヲ爲サ、ル時ニハ損失償還ノ言渡ヲ受ク可キハ素ト

當然タリ然レモ其損失償還ノ義務タルヤ未必ノ事タレハ之カ爲メニ豫シメ比例税ヲ課ス可カラサルナリ其他兵卒ノ代役契約ノ義務ノ如キモ亦之ト同轍ナリト看做ス可シ是レ其一方本人(即チ他人ヲ以テ代役ト爲ス者)ハ金高ニ關スル義務(即チ金高ヲ拂フ可キ義務)ヲ負フヲ以テ其金高ノ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ課ス可シト雖モ即金ニテ代役料ヲ拂フタル時ノ如キハ他ノ一方本人(即チ他人ノ代役ト爲ル者)ハ只事ヲ爲ス可キ義務ヲ負フ可キノミ故ニ若シ其義務ヲ行ハサレバ損失償還金ヲ拂フ可シト雖モ其義務タルヤ未必ノ者ニシテ義務ノ執行ヲ停止スル未必ノ條件ニ由リ停止ス可キ義務ニ至テハ直チニ比例税ヲ課ス可キ者ニ非サレハナリ然レモ此論題タルヤ千八百五十五年四月二十六日ノ法律ヲ以テ特定ノ金高ヲ陸軍營署ニ納メテ兵役ヲ免ル可キ規則ヲ設ケテ従前或ハ小隊ト約シ或ハ兵士ト約シテ代役ヲ出シタル

規則ニ換用シタルヨリ以來ハ敢テ緊要ノ事件ニ非スト雖モ猶ホ一部分ニ當テ其論題ノ益ナシト云フ可カラズ是レ我法律上ニテハ特定ノ場合ニ於テ抽籤番號ノ繰換ヲ爲セテ各人相對ノ代役ノ契約ヲ爲スヲ允准シタレハナリ

〔第四百三十七節〕 動産ノ寄託契約ニハ之ニ課スルニ一「フラン」ノ定額税ヲ以テス可シ官吏ニ寄託ヲ爲シタル時ニハ共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十八條第一項第二十七目ノ規則ニ從テ定額ノ税ヲ課シ平人ニ物件寄託シタル時ノ如キモ亦其契約ヲ目シテ尋常ノ無名證書ト爲シテ二「フラン」ノ定額税ヲ課スルナリ然レモ金高ノ寄託ニ至テハ特ニ法律上ニ其區別ヲ設ケテ以テ官吏ニ寄託スルト平民ニ寄託スルトニ從ヒ其税則ヲ異ニシ其平人ニ寄託シタル時ハ其契約ニ課スルニ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ以テスト雖モ官吏ニ寄託シタル時ノ如キ

ハ其契約ニ課スルニ定額税ヲ以テスルナリ蓋シ此區別タルヤ其目的
 詐偽ヲ防制スルニ在リテ若シ平人ニ寄託スル契約ニ課スルニ啻ニ定
 類税ノミチ以テセハ或ハ寄託ノ名義ヲ假リテ其實ハ金銀貸借上ノ契
 約ヲ爲シ以テ比例税ヲ免レント謀ル者ヲ益スルノ恐アレハナリ

〔第四百三十八節〕 決算書ニ就テハ之ヲ作ル者ニ對スルト之ヲ受ル者ニ
 對スルトト問ハス差引シタル殘金ノ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ課ス然
 レモ差引決算書ニハ本税ヲ課セサルナリ是レ其決算書ハ出入相償ヒ
 テ互ニ取遣ナキ箇條ヲ列記シタル者タレハナリ出入正ク相對スル時
 ハ啻ニ定額税ノミチ課ス可ク比例税ヲ課ス可カラス比例税ヲ課スル
 ハ特リ決算ノ爲メニ殘金ヲ拂フ可キ義務ヲ生シタルニ於テハ其義務
 ニ臨ムノ責任タリトス蓋シ此例規タルヤ決算書ハ正ク以前ノ證書
 執行ノ承認書タルニ在レハ既コ一旦登記法ヲ履行シタル以前ノ證書

ヲ執行スルノ證ト爲ス可キ承認書ヲ作ル度毎ニ比例税ヲ課ス可カラ
 スト爲スニ在リ然リト雖モ決算ノ殘金ニ至テハ即チ義務ノ更改(民法
 第一千二百七十一條)ヲ生スル者タルヲ以テ更ニ一箇ノ義務ヲ生ス可キ
 者タルヲ記憶セズンハアル可カラス是故ニ後見人ノ幼者ノ爲メニ
 決算書ヲ作ル時ノ如キハ假令ヒ法律上特定ノ名代證書ニ依テ出納向
 チ取扱ヒタルニ在リト雖モ決算ノ爲メニ更ニ義務ノ更改ヲ生スルナ
 リ例之ハ幼者ニ金高チ拂フ何トナレハ後見人ハ幼者ニ決算書ヲ出ス
 可キ義務ヲ有シ其義務ニ關スル訴訟ヲ免レ得可キ期限ニシテ民法ニ
 所謂ル期滿得ハ十年タリト雖モ殘額ヲ拂フ可キ訴訟ハ十年ヲ以テ之ヲ
 免ル、フ能ハサレハナリ

〔第四百三十九節〕 執行ス可キ義務ノ記載ニ就テハ只其證書本人ニ對
 シテ比例税ヲ課シ得ルノミニシテ若シ公正ノ證書中ニ他人ノ契約シ

タル義務ヲ記載シタルト雖モ其證書ニ載セラレザリシ人ニ對シテ比例稅ヲ徵收ス可カラズ是故ニ若シ死去又ハ家資分散ノ後ニ至テ相續人若クハ分散管財人ヨリ證書類ヲ出シテ登記ヲ受ケ其中ニ死者又ハ分散人ノ姓名ヲ手署シタル手形即チ金高チ拂フ可キ約アルト雖モ決シテ其手形ニ課スルニ比例稅ヲ以テス可カラズ是レ其手形ハ姓名手署ノ本人カ所持シタル所ノ者タレハ未ク其手形面ノ義務ヲ生セサルカ或ハ既ニ其義務ヲ生シタルモ之ヲ解除シタルカ必スヤ此二事ノ外ニ出テサル者タレハナリ

〔第四百四十節〕「ボン」金員波方ヲ約スル意又ハ「アップルウベ」手形承ト云ヘル語ノ記入ナキ手形ノ如キ民法第千三百二十六條モ亦百ニ一「フラン」ノ比例稅ヲ課ス可キヤ固ヨリ之ニ本稅ヲ課ス可キナリ是レ他人ハ勿論稅官ト雖モ必ス其手形ニ姓名ヲ手署シタル者ノ自筆タルヤ否ヤヲ檢査

セシムルニ及ハサレハ假令ヒ「ボン」又ハ「アップルウベ」ノ語ヲ記入セシ時ト雖モ其證書ハ即チ姓名自記者ノ作爲シタル者ト看做ス可キニ因リ稅官ハ其姓名ヲ手署シタル者ノ自筆タルヤ否ヤノ檢査ヲ爲スヲ要セス只、稅官ニ差出シタル證書面ノ金高ニ應シテ課稅スルヲ得可キノ

〔第四百四十一節〕共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十九條第三項第三號ノ規則ニ據レハ義務ヲ得可キ權利ヲ讓與シ又ハ之ヲ轉移スル契約并ニ負債償却ノ爲メ其權利ヲ債主ニ讓渡契約ニ課スルニモ亦等シ百ニ一「フラン」ノ比例稅ヲ以テス然リト雖モ會計法律上ニテ執行期限アル義務ヲ得可キ權利例之ハ償却期限ヲ己レノ債主ニ讓渡ス契約ト自己ノ得可キ代價ヲ其債主ニ讓渡ス契約ト互ニ其別アリテ甲種ノ契約ニハ百ニ一「フラン」ノ比例稅ヲ課スト雖モ乙種ノ契約ニハ負債

未タ其證書ノ登記法ヲ償却ノ爲メニ之ヲ取結ヒタル時ニ非サレハ百
 履行セサル者ヲ云フ
 ニ一「フラン」ノ比例税ヲ課セサルヲ法トセリ而シテ既ニ登記法ヲ履行
 シタル貸借證書ノ負債償却ノ爲メニ其契約ヲ取結ヒタル時ト雖モ若
 シ賣買ノ契約書中ニ其證書ノ登記法ヲ履行セシ者タルコトヲ記入セサ
 ルニ於テハ比例税ヲ課スト雖モ若シ後日ニ至リ其貸借證書ノ登記法
 ヲ履行セシ者タルノ證ヲ立ルニ於テハ再ヒ其税ヲ償還スルコトアル可
 シ

〔第四百四十二節〕 上ニ記セシカ如クナルヲ以テ通常ノ執行期限アル
 義務ヲ得可キ權利ト代金ヲ拂フ可キ義務ヲ得可キ權利トノ區別ヲ爲
 スハ頗ル緊要ノ事タリ蓋シ賣買契約ニハ代金ヲ拂フ可キ義務(即チ買
 主ノ義務)アリ貸借契約ニハ貸金ヲ拂フ可キ義務(即チ借主ノ拂フ可キ
 義務)アリ又補足金ヲ拂フ可キ交換或ハ分派ノ契約ニハ代金アリ義務

ノ附帶スル贈遺ノ契約ニ償金アリ其外總テ財産所有權或ハ入額所得
 權ノ轉移ノ爲メニ金高ヲ拂フ可キ義務ヲ生スル毎ニハ必ス代金アリ
 故ニ法律上ニ於テ假令ヒ代金ハ賣買ノ主タル契約タリト雖モ其代金
 ト云ヘル語ヲ獨リ賣買ノミニ限リテ用ヒサラノカ爲メニ故サラニ契
 約ト云ヒ其契約中ニテ代金ヲ讓渡ス契約ト記載シタルナリ

〔第四百四十三節〕 義務ヲ得可キ權利ヲ讓與スル場合ニ於テハ其讓渡
 ノ代金ニ課スルニ比例税ヲ以テスルニ非ス其讓渡ノ目的タル證書面
 ノ金高ニ之ヲ課スルヲ法トス蓋シ其權利ノ實價ハ其義務者ノ果シテ
 義務ヲ盡シ得可キヤ否ヤニ關シテ差異ナキ能ハサレハ權利讓與ノ價
 値ハ義務者ノ義務ヲ盡ス可キヤ否ノ推量ニ由テ定ル可キ者タリ然リ
 ト雖モ若シ然ル時ハ常ニ關係本人ノ詐欺ノ爲メニ實價ヲ得スシテ税
 官ハ頼リテ収税ノ基礎ヲ定ムル方法ヲ得ス眞偽混淆シテ其實ヲ査定

シ難キニ至ル可キナリ是故ニ立法家ハ讓渡ス所ノ權利ノ目的タル金高ニ對シテ課税ス可キ規則ヲ立テタリ但シ此過嚴ノ規則ハ元來之ヲ設ケタル主旨ノ爲有ニ屬スル時ハ亦隨テ其功ヲ停止ス可キ者タリ即チ詐僞ノ恐ナキハ其規則モ亦之故ニ若シ裁判所ニ於テ義務ヲ得可キヲ用ユルヲ要セサルヲ云フナリ權利ノ賣拂ヲ爲ス時ノ如キハ糶賣ニ由テ定リタル代金ニ課スルコ比例税ヲ以テス蓋シ此場合ニ於テ代金ヲ定ムルニハ雙方本人ノ協議ニ由ルニ非スシテ糶賣ヲ以テス可キニ由リ敢テ詐僞ヲ恐ル、一無キニ由ル所ナリ

〔第四百四十四節〕 民法第千九百九條ニ據ルニ年金ヲ設ケ定ムルトハ貸主ヨリ元金ヲ出シテ再ヒ之ヲ取戻ス一ナク只其利銀ノミヲ得可キ契約ヲ云フ而シテ我カ法律上ニテハ特ニ年金ノ解テ爲シ以テ通常ノ貸借契約ト年金契約トノ別ヲ分明ナラシメタリ故ニ其別ハ貸借契約

ニ於テハ元金ヲ償還ス可シト雖モ年金契約ニ於テハ本來其元金ヲ償還ス可カラサル者タリ但シ年金ニ至テモ全ク元金ヲ償還セサルニ非サレ一之ヲ償還スルハ實ニ例外ノ事タリトス(民法第千九百十二條)右ノ理論ニ據レハ年金契約ハ恰モ他ノ諸般ノ金高ニ關スル義務ニ於ケルカ如ク百一「フラン」ノ比例税ヲ課ス可シト雖モ會計法律上ニテハ尙ホ舊法上ニ存シタル說ヲ襲用シタリ其說タルヤ總テ年金契約ニ於テハ其債者ヲ目シテ借主ト爲サス却テ之ヲ目シテ償還スルヲ要セサル元金ノ讓渡ニ由テ無形ノ權利(即チ年金)ヲ買入レタル者ト爲シタリキ然リ而シテ其無形ノ權利ハ之ヲ動産ト看做ス可キ者タレハ動産ノ賣買ト同視ス是レ則チ共和曆第七年三月二十二日ノ法律ニ於テ年金契約ニ課スルニ他ノ諸般ノ金高ニ關スル義務ニ於ケルカ如ク百一「フラン」ノ比例税ヲ以テセス却テ動産賣買ノ名義ニ由テ百一「フラン

ソノ比例税ヲ課セシ所ナリ
 [第四百四十五節] 凡ソ期限ナク其貸主及ヒ相續人ニ拂フ可キ年金ハ之ヲ名ケテ無期ノ年金ト云ヒ又貸主ノ死去ニ因テ拂方ヲ止ムル年金ハ之ヲ名ケテ畢生間ノ年金ト云フ而シテ畢生間年金ト無期年金トハ共ニ百ニ二「フラン」ノ税ヲ納ム可ク其税額ニ至テ彼此ノ別ナシ然レモ雙方本人若シ契約書中ニ元金ヲ記入セサルニ於テハ其課税ノ基礎ヲ定ムルニ於テモ亦差異アリ其記入ナキ時ハ無期ノ年金ハ毎歳ノ年金ニ二十ヲ乗シテ得タル數ヲ以テ元金ノ額ト定ム可ク畢生間ノ年金ハ毎歳ノ年金ニ乗スルニ十ヲ以テシテ其額ヲ定ム可シ故ニ畢生間ノ年金ニハ無期ノ年金ニ比スレハ半額ノ税ヲ課スルモノタリ而シテ畢生間ノ年金ト雖モ別段法律ヲ以テ其年金債主ノ年齢ヲ定メタルニ非サレハ其債主ノ年齢如何ニ關セズ通シテ皆十ヲ以テ年々ノ歳額ニ乗ス

可キヲ法トス但シ此規則タルヤ或ハ不公平ノ結果ヲ生スルヲナシトセサレモ若シ其債主ノ年齢ニ據テ元金ノ額ヲ評量シタラソニハ頗ル煩冗ナリトス故ニ少シク公平ヲ失スルヲアルモ寧ロ計算ノ簡易ヲ取ルニ如カスト云フ意ニ出テタルナリ其他法律上ニテ元金ノ額ヲ評量スルニ臨ミ年金債主ノ一人タルト其數人ナルトニ關係ス可カラスト定メタル如キモ亦簡便ヲ取ルノ意ニ出テタル所ナリ(共和曆第七年三月二十二日ノ法律第十四條第六項第七項及ヒ第九項)
 若シ年金ノ契約書中ニ其貸金ヲ記入シタル時ハ其元金ノ百ニ二「フラン」ノ比例税ヲ課ス可キニ因リ此時ハ無期年金ト畢生間年金トハ互ニ之ヲ區別セソノハアル可カラス蓋シ元金ヲ記入シタル時ハ此二種ノ年金ノ間ニ區別ナキ者タルヤ決シテ然ルニハ非スシテ此二者ハ其根源ニ於テ互ニ著シキ差異アルヲ判然タリ何トナレハ其契約ヲ爲セル

雙方本人ノ間ニ於テ元金ノ額ヲ約定スル時ニ於テハ必ス其權利(即チ年金)ノ無期タルト畢生間タルトニ由テ元金ノ額ニ多寡アレハナリ
 (第四百四十六節) 元金ノ百ニ二(フラン)ノ比例税ハ有酬ノ契約ヲ以テ設ケタル年金ノ外之ヲ課ス可カラス無酬ノ契約ヲ以テ設ケタル年金ノ如キハ姑ク之ヲ下文ニ論セントス無酬ノ契約ニ關スル諸證書ノ部ニ讓テ此ニ於テハ之ヲ論セス其年金ヲ讓渡ス契約及ヒ其讓與轉移ノ契約ノ如キモ亦同ク有酬ノ契約ヲ以テ之ヲ取結ヒタルニ於テハ百ニ二(フラン)ノ比例税ヲ課ス可シ但シ年金契約ヲ更改シテ之ヲ承認スル事(即チ其新證書ノ承諾)ニ至テハ法律上ニ於テ唯三(フラン)ノ定額税ヲ課スルノミ(千八百十六年四月二十八日ノ法律第四十四條第五項)
 (第四百四十七節) 年金ハ時アリテハ金高ヲ得タル償ニ設ルニ非スシテ不動産不動産ノ別ナク物件ヲ讓受ケタル償ニ之ヲ設ルコトアリ而シテ

不動産讓受ケノ償ニ年金ヲ設ケタル時ニハ其元金ノ百ニ二(フラン)ノ税ニ代ユルニ百ニ五(フラン)五十(サンチム)ノ税ヲ以テス蓋シ不動産讓受ケノ償ニ設ケタル年金ニ其年金ノ金高ヲ得タル償ニ設ケタル者ト不動産讓受ケノ償ニ設ケタル者トニ論ナク皆等シク百ニ二(フラン)ノ比例税ヲ課ス可キヲ以テ不動産讓受ケノ償ニ設ケタル年金ニ均キ利益ナキハ論ヲ俟タスト雖モ税額算定ノ目的上ニ於テハ必スヤ其區別ヲ爲サスンハアル可カラス是レ其契約ヲ結ヒシ一方本人ニハ毎年ノ歳額ニ特定ノ數ヲ乘シテ算定シタル元金ノ額ニ應シテ課税ス可シト雖モ不動産ノ賣買ニ至テハ若シ其契約中ニ代價ヲ記入セサルニ於テハ本人ノ評量シタル元金ニ應シテ課税スレハナリ但シ此件ニ關シテ二種ノ年金即チ無期年金及ヒ畢生間年金ヲ區別スルコトアリテ若シ動産又ハ不動産ヲ讓受ケテ之カ償ニ年金ヲ設ル時ハ其年金ノ無期ナルニ於

テハ元金ヲ算定スルニ毎年ノ年金歳額ニ乗スルニ二十ヲ以テス是レ
 百ニ五ノ利息ヲ其元金ニ直シタル金高ハ殆ト賣買ノ代金ニ恰當スレ
 ハナリ然リト雖モ若シ其年金畢生間ノ者ナルニ於テハ毎年ノ年金歳
 額ニ乗スルニ十ヲ以テセス一般ノ典則ニ循ヒ稅官監視查實シテ本人
 ノ爲シタル評量高ニ據テ其元金ヲ定ム可シ是レ蓋シ年金債主ノ年齢
 ニ拘ラス十ヲ以テ毎年ノ年金歳額ニ乗シテ元金ヲ算定スルノ規則ハ
 大ニ不同ヲ生シ公平ヲ失スルヲ以テ法律上ニ規定シタル時ニ非サレ
 ハ十ヲ乘シテ元金ヲ定ムルノ規則ヲ適施セサルニ在リトス
 〔第四百四十八節〕國債ヲ募ルノ簡便ナラシメシメカ爲メ法律上ニテハ
 政府ニ關スル年金契約并ニ有酬ノ契約ヲ以テ其年金ヲ讓與スル契約
 ノ如キハ其記錄稅ヲ免除シタルノミナラス共和曆第七年三月二十二
 日ノ法律第七十條ニ於テハ無酬ノ契約ヲ以テ此年金ヲ讓渡スル契約ソ

稅ヲ免除セシカ其後千八百五十年五月十八日ノ法律第七條ヲ以テ凡
 ソ無酬ノ契約ヲ以テ政府ニ關スル年金ヲ讓渡スルハ動産ノ贈遺及ヒ
 其相續ニ關スル稅則ニ準ス可キヲ定メタリ而シテ此免除ハ償ヲ得テ
 此年金ヲ讓與スル契約ニ於テモ亦存在スル所ノ者ニシテ且ツ此場合
 ニ於テハ其主タル契約ニ附帶スル箇條ニ付テモ亦其稅ヲ免除シタリ
 故ニ此免除ハ年金讓渡代金ノ全部若クハ其一部ニ關スル請取書ノ如
 キニモ亦之ヲ推及ス可ク其外其讓渡シ代金ヲ期限毎ニ拂フ可キ義務
 ノ契約ト雖モ亦課稅ス可カラサルヲ法トス何トナレハ是等ハ稅ノ免
 除ヲ受ク可キ主タル契約ニ附屬セル者ニ過キサレハナリ然レモ若シ
 不動産ノ讓渡ヲ得テ此年金ヲ移シタル時ハ其轉移ハ不動産讓渡ノ契
 約ニ附帶スル者タルカ故ニ百ニ五〔五〕フラン〔五十〕サンチム〔ノ〕稅ヲ課ス
 可キヲ以テ法トス

〔第四百四十九節〕保證トハ(第一)義務ヲ行フ可キ本人即チ主タノ義務者ヲ行ハサル場合ニ於テ其義務者ニ代テ義務ヲ行フ可キ旨ヲ契約シタル人ノ承諾即チ代テ義務ヲ盡スノ義ニシテ之ヲ稱シテ人ノ保證ト云フ此保證ハ契約シタル本人其義務ヲ盡シ能ハサル時之ヲ擔當ス可キヲ以テ其成規ト爲スチ當然トス(第二)動産若クハ不動産ヲ以テ抵當ト爲シテ義務ヲ完全ナラシムルノ義ニシテ之ヲ稱シテ物ノ保證ト云フ會計法律上ニ於テハ物ノ保證ト人ノ保證トノ別ナク皆總テ保證ニ就テ百フランニ五十サンチムノ比例稅ヲ課シ而シテ此稅ハ義務者ノ負擔シタル義務ニ課スル所ノ百ニ一フランノ比例稅トハ自カラ其別アリ故ニ保證書ニハ二様ノ比例稅ヲ課ス即チ其一ハ主タル義務ニ課スル稅ニシテ又一ハ附帶ノ義務ニ課スル稅タリトス

其他總テ保證人ハ民事又ハ刑事ニ關シテ之ヲ立ルコトヲ得可シ而シテ

假リノ放免ヲ爲ス場合ニ於テ本人自カラ裁判所ニ出席ス可キ保證又ハ他人ニ代テ出席ス可キノ保證ノ如キモ亦之ニ課スルコ百フランニ五十サンチムノ比例稅ヲ以テス蓋シ此場合ニ於ケル稅額ヲ百フランニ五十サンチムニ減シタルハ千八百十六年四月二十八日ノ法律第五十條ニ由ル所ナリ故ニ其以前ニ在テハ共和曆第七年三月二十二日ノ法律ニ依テ是等ノ保證ニ課スルコハ百フランニ一フランノ稅ヲ以テシタリキ

但シ法律上ニテ保證人及ヒ保證物ノ添證ニ課スルコハ唯二フランノ定額稅ヲ以テス可シ(千八百十六年八月二十四日ノ法律第四十三條第十八項)

〔第四百五十節〕保證ノ義務ト連帶ノ義務トハ互ニ太タ相類似シ僅カニ差異アルノミ然レモ連帶ノ義務ニ於テハ債主ノ所擇ニ從ヒ其連帶

ノ負債中ノ一人ニ對シテ全部ノ義務ヲ要求スル訴ヲ爲スヲ得ルト雖モ保證人ニ對シテハ主タル義務者即チ負債者ノ義務ヲ盡サ、ル時ニ非サレハ同上ノ訴ヲ爲ス可カラサルノ差異アリトス故ニ連帶ノ負債者ハ保證人ノ債主ニ對シテ先ツ主タル義務者ノ財産ヲ以テ義務ノ執行ニ充テシムルカ如クナラスシテ債主即チ權利者ヲシテ他ノ負債者ノ財産ヲ以テ義務ノ執行ニ充テシムルヲ得可カラス(民法第二千二十二條)其外連帶ノ保證人ニ至テハ此差別ナカル可シ但シ連帶ノ保證人ト連帶ノ義務者トハ互ニ其別アリ即チ連帶ノ義務者ハ義務ヲ盡シタル後ト雖モ其義務ノ中ニテ己レニ擔當ス可キ部分ヲ引去リタル上ニ非サレハ他ノ義務者ニ對スル訴ヲ爲スヲ得ス之ニ反シテ連帶ノ保證人ハ義務ノ全部ニ付テ其訴ヲ爲スヲ得ルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ連帶ノ負債者互相ノ關係ハ之ヲ連帶ノ保證人互相ノ關係ニ比ス

レハ大ニ狹隘ナル者タリ然レモ原則ニテハ保證ノ場合ニ於テハ之ヲ連帶ノ義務ノ場合ニ比スレハ更ニ輕稅ヲ課スルヲ法トシタリ故ニ數人連帶シテ義務ヲ行フ可キ場合ニ於テハ單一ノ義務アリトシテ百ニ一「フラン」ノ稅ヲ課シ保證ノ場合ニ於テハ主タル義務ト附帶ノ義務トノ二者アリトシテ其一ニハ百ニ一「フラン」ノ稅ヲ課シ又一ニハ其半稅(即チ百ニ五十「サンチム」ノ稅)ヲ課ス蓋シ此事タルヤ其當チ失シタルハ論ヲ俟タスト雖モ法律ニ非サレハ之ヲ改正スルヲ得可カラス是レ右ノ解釋ハ原則ノ實施上ヨリ自カラ生セシ者タレハナリ但シ連帶ノ義務ニハ只、一回ノ百ニ一「フラン」ノ稅ヲ課スルノ主旨ニ倣ヒテ數人ノ保證人ニ於ケルモ亦其人數ノ多少ニ關セス只、百ニ五十「サンチム」ノ稅ノミヲ課スル者ハ素ト是レ其數人ノ保證人ハ保證ノ事ニ至テ互ニ相連帶シテ相共ニ之ヲ負擔ス可キニ由ル所ナリ

〔第四百五十一節〕 保證ノ税額ト連帶義務ノ税額トニ差異アルカ爲メ
 ニ契約ヲ爲ス者ヲシテ自カラ連帶義務ヲ以テ保證ニ假裝セシムルノ
 弊ヲ生シタリ是故ニ記録税司及ヒ裁判所ニ於テハ契約書ノ文面如何
 ニ關セヌシテ其實ヲ搜索ス可シ本來保證ト連帶義務トヲ區別シタル
 所以ハ連帶ノ負債者ハ互ニ其貸借ノ契約ニ與リテ各其利益ヲ分有ス
 ル者ニシテ羅馬法師ノ言ニ於ケル如ク即チ夥伴ナリト雖モ之ニ反シ
 テ保證人ハ他人ノ負債ニ附從スル者ニシテ其負債ニ與リテ一モ利益
 ヲ有スルコト無キニ在リトス然レモ契約ヲ爲ス者ハ容易ク此區別ノ道
 理ニ適ハシムルヲ得可シ故ニ四万フランノ負債高ニテ連帶ノ義務者
 中ノ一人ハ三万九千九百フランヲ受取り他ノ一人ハ百フランヲ受取
 ル可キ旨ヲ述ヘタル證書アリシ事ハ既ニ實際上ニ於テ目撃シタル所
 ナリ是レ畢竟連帶義務ノ名義ヲ以テ保證ヲ假裝セント欲セシ者タル

ト明瞭ナリ是故ニ大審院ニ於テハ右ノ證書ニ保證ノ比例税ヲ課セン
 ト要求シタル税官ノ訴ヲ至當ノ訴ナリト判決シタリキ
 其他裁判所ニ於テ保證タルヤ否ヤヲ查出スル爲メニ原因ノ事實ヲ穿
 鑿スルニ及ハサル場合アリ何トナレハ其附帶ノ義務ハ契約者ノ地位
 ニ由テ生スレハナリ故ニ若シ二人連帶シテ裁判所附屬役員ノ職務ヲ
 得タル時ハ其一人ハ保證人タルコト明カナリ是レ一ノ職務ヲ以テ二人
 ニ任スルコトヲ得サレハナリ

〔第四百五十二節〕 保證義務ニ課スル比例税ハ其主タル義務ノ税ニ除
 ヲ可カラスト云ヘル説ハ素ト保證人ハ本人ヨリ更ニ重劇ナル義務ヲ
 負フ可カラスト云フ原則ヲ適用シタル明文中之チ記載セリ(民法第
 二千十三條及ヒ共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十九條第二項
 第八目)故ニ概見スレハ百ニ五十(サンチーム)ノ税ヲ課セラル可キ保證

人ハ百コ一「フラン」ノ税ヲ課セラル可キ主タル義務ノ税コ越ヘタル金高ヲ拂フ「アルハ怪ム可キ事」ニシテ此事タルヤ固ヨリ尋常ノ場合ニ於テハ果シテ之無キ者ナリ然リト雖モ特典ニ由テハ百コ五十「サンチム」以下ノ税ヲ課スル義務アリトス例之ハ爲替手形ニハ僅ニ百コ二十五「サンチム」ノ比例税ヲ課シ其保證ニモ亦同一ナル比例税ヲ課スルカ如キ是ナリ又時アリテハ主タル義務ニシテ定額税ノヨリ納メ其税額ヲ以テ保證ノ比例税ノ最大數ト定ムル「アリ例之ハ婚姻ノ契約ニ由テ夫ト成ル可キ者ノ其婦ヨリ受取リタル金高ノ受取書ニ付テハ別段ニ比例税ヲ課セサルナリ故ニ此場合ニ於ケル保證ノ比例税トシテハ曾テ法律上ニ於テ婚姻ノ契約書ニ課スル定額税(即チ百コ五「フラン」ノ税)ノ高迄之ヲ納メシムルニ至ル迄ノ高ヲ課ス可キナリ

〔第四百五十三節〕 通例物ノ保證ハ義務ノ執行ヲ完全ナラシムル爲メ

ニ動産ヲ抵當ト爲スニ在リトス然レモ金高若クハ不動産ノ抵當(即チ該博ニ論スレハ凡ソ人ノ結ヒタル契約ヨリ生スル固有ノ保證ニ反シタル諸般ノ保證物)ノ如キモ亦此名稱中ニ加フ可キハ即チ其名稱ニ由テ之ヲ曉知ス可シ而シテ會計吏ノ官府ニ對スル保證ニハ百五十「サンチム」ノ比例税ニ代ユルニ百コ二十五「サンチム」ノ比例税ヲ以テス蓋シ此特例ハ總テ官府ニ對スル會計吏ノ保證ニ通シ用ユ可キ者タルヲ以テ現金出納方ニ於ケルカ如ク亦物品出納方ニ於テモ亦之ヲ適用スルナリ又記録税司ノ處置ニ於テハ總テ會計裁判所ニテ審判所轄ス可キ諸會計吏諸邑ノ収税役及ヒ品物入府税ノ収領役ニ此特典ヲ施及セリ且ツ會計官吏ノ職務ヲ保證スル爲メノ保證金ニ至テハ全ク比例税ヲ免除シ而シテ本人自カラ其金高ヲ供シタル時ハ總テ登記法ノ履行ヲ免シ若シ其金高ヲ出シタル者他人ナル時ハ僅ニ二「フラン」ノ定額

税ヲ納メシムルナリ

保證物ニ於テモ亦保證人ニ於ケルカ如ク附帶ノ義務税ハ主タル義務税ノ額ニ超過ス可カラス而シテ會計官吏ノ保證ハ計官能ク其職ヲ盡ス可キノ義務ヲ保證スル爲メニ供スル者タレハ其義務ハ畢竟事ヲ爲ス可キノ義務ニシテ豫定ス可カラサル者ナリ故ニ計算書ヲ作りテ出納決算ヲ爲シタル時ニ非サレハ收税ノ基礎ヲ算定ス可カラス是ヲ以テ其決算ノ時ニ至ル迄ハ其保證ニ課スルニ只保證人ニ關スル定額税ト同一ナル税ヲ以テシ後日出納決算ノ時ニ於テ若シ義務ヲ負ヒタル時ハ其裁判官渡書又ハ出納決算書ニ課スル追加名義ニ由テ比例税ヲ課スルヲ法トス

〔第四百五十四節〕 動産ニ關スル償金トハ有害ノ所爲ニ因テ生シタル損害ノ賠償ヲ云フ而シテ若シ其償金ヲ定ムルニ雙方本人ノ協議ニ因

リタル時ハ百「フラン」ニ五十「サンチム」ノ比例税ヲ課スルヲ以テ會計法律上ノ成規トス蓋シ其契約ハ償金ヲ得可キノ權利ヲ設ル者ニ非スシテ唯償金ノ額ヲ定ムル者タレハナリ然レモ若シ償金ヲ得可キノ權利ヲ争フテ其裁判ヲ仰クノ必要タリシ時ハ其償金ニ課スルニ百ニ二「フラン」ノ比例税ヲ以テス然リ而シテ裁判所ヨリ言渡サレタル償金ニ課ス可キ税ノ額ヲ増加シタルノ意旨タルヤ畢竟雙方ノ和解ヲ勸ムルニ在リ若シ雙方本人ニテ償金ノ額ヲ豫定セスシテ證書ヲ記シ以テ其額ヲ評量シ能ハサル償金ヲ約束シタルニ於テハ只定額税ノミヲ課シ比例税ヲ課ス可カラス是レ比例税ハ金額ノ豫定シタル時ニ非サレハ以テ之ヲ課ス可カラスシテ現ニ比例税ノ基礎ハ評量算定シ得可キ金高ノ外ニ出テサレハナリ其他不動産ノ買入又ハ其損失ノ爲メニ拂フ可キ償金即チ不動産ニ關スル償金ニ至テハ其契約ハ即チ之ヲ不動産

ノ讓渡ト爲ス可キヲ以テ之ニ課スルニ百ニ五〔フラン〕五十〔サンチム〕ノ比例稅ヲ以テス可シ但シ公益ノ爲メニスル財產沒収ノ如キハ其例外タリ是レ特ニ千八百四十一年五月三日ノ法律第五十八條ヲ以テ全ク其記録稅ヲ免除シタレハナリ

〔第四百五十五節〕賣買シ得可キ手形トハ民法第千六百九十條ヲ以テ規定シタル法式ヲ履行セス唯其手形ニ裏書ノミヲ爲シテ讓渡シ得可キ手形ヲ云フ而シテ此手形ノ容易ク世ニ通行スルハ全ク爲替手形及ヒ其他ノ手形中ニ記スルニ裏書ニ從ヒ其金高ヲ拂フ可キ旨ノ箇條ヲ以テシタルニ由ル所ナリ凡ソ商業取引上ニ於テ緊要有益ナル證書即チ手形ノ使用ヲ便利ナラシメシメシカ爲メニハ會計法律上ニテ數次ノ改正ヲ爲シ漸ク右ノ明文即チ裏書ニ從ヒ金高ヲ拂フ可キ義務ヲ記シタル手形ニ課スル稅額ヲ輕減シタリキ

本來賣買シ得可キ手形ニ課スルニハ通常ノ金高ニ關スル義務ニ課ス可キ稅即チ百ニ一〔フラン〕ノ比例稅ニ代ユルニ百ニ五十〔サンチム〕ノ稅ヲ以テセリ而シテ其稅ハ手形ヲ作ル時ニ之ヲ課スルニ非ス其手形ノ拂方ヲ求ムル要償書商法第百七十三條ヲ作ルノ時ニ於テ之ヲ課ス可キ者タリ因テ手形拂方要求ノ訴ヲ爲ス時ニ非サレハ課稅ス可カラス

其外賣買シ得可キ手形中ニ明記スルニ商品ヲ受取り其代リニ之ヲ差立ル旨ノ文言ヲ以テシタル時ト雖モ尙ホ百ニ五十〔サンチム〕ノ稅ヲ課ス可キノミ是故ニ此類ノ手形ニハ現ニ動産ノ賣買ヲ表示スト雖モ百ニ二〔フラン〕ノ比例稅即チ動産ノ稅ヲ課セサルナリ然レモ既ニ賣買稅ヲ納メタル時ト雖モ其代金取極ノ爲メニ作リタル證書即チ手形ニハ百ニ五十〔サンチム〕ノ比例稅ヲ課スルヲ得可シ蓋シ此證書ハ之ヲ目シテ

以前ノ義務ヲ執行スル爲メニ作りシ證書ト看做ス可キ者ニ非サレハナリ何トナレハ此時ニ於テハ以前ノ義務ヲ改メテ以テ賣買シ得可キ手形ニ變へタルヲ以テ多少其事實ヲ更改シタルニ在レハナリ

〔第四百五十六節〕 義務者自カラ書入質ヲ爲シテ以テ「ビエー、ターナルドル」ハ手形ノ名ナリ其性質功用ノ保證ヲ設ルヲ承諾シタル時ハ其賣買シ得可キ手形即チ流通手形ニ課ス可キ税(即チ百ニ五十「サンチーム」ノ比例税)ノ外ニ書入質ヲ設ル證書ニ課スルニ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ以テス可シト大審院ニ於テ判決シタリ是レ其證書ニハ金高ニ關スル義務ノ承諾ヲ記入セシ者タルヲ以テナリ然リ而シテ其大審院ノ判決ハ之ヲ實際ニ施行シタリト雖モ敢テ會計法律ノ大趣旨ニ矛盾セサル者ハ是レ此場合ニ於テハ一ニハ金高ヲ拂フ可キ義務アリテ之ヲ承諾シタルカ爲メニ一「フラン」ノ税ヲ課ス可ク又一ニハ流通手形アリテ其流通

(即チ轉移)ヲ爲スニ由リ百ニ五十「サンチーム」ノ税ヲ課ス可キカ故ナリ其他先ツ金高ヲ拂フ可キ義務ヲ承諾シ然ル後流通手形ヲ發行シタル時ト雖モ尙ホ二箇ノ税ヲ併課ス可キヲ疑フ容ル可カラス是レ其二箇證書ノ日附ハ先後アルモ以テ其證書ノ根元ヲ變換ス可キ者ニ非サレハ假令ヒ其證書ヲ記シタル順序ニ拘ラス日附ニ先後アリト雖モ之カ爲メニ収税法ヲ更改スルヲ得サレハナリ法律上ニテハ決シテ私ノ證書タル商業上ノ手形(即チ賣買シ得可キ手形)ト公證人ノ記シタル商業上ノ手形トヲ區別セサルヲ以テ故ニ金高ニ比例シテ課ス可キ義務税ノ輕減ニ至テハ更ニ私ノ手形ト公正ノ手形トノ間ニ其差別ナク均ク之ヲ適用ス可キ者タリ

〔第四百五十七節〕 爲替手形ハ之ヲ他ノ手形ニ比スルニ一層著明ナル特典ノ税法ニ屬セル者タリ故ニ爲替手形ノ比例税ハ之ヲ百ニ二十五

「サンチーム」ニ減少シ且ツ差立人若シ其手形面ノ金高ヲ拂ハサルカ爲メニ要償書ヲ記シタルト雖モ此時ニ於テ課税セズシテ裁判所ノ呼出狀ヲ記シタル時ニ至テ課税スルヲ以テ法律上ノ成規トス其他法律上ニ於テ單ニ通常ノ約束書ト看做シタル爲替手形(商法第百十二條第百十三條及ヒ第六百三十六條)ニ至テハ若シ其手形ノ性質賣買シ得可キ者タルニ於テハ賣買シ得可キ手形ノ税則ニ照シテ百ニ五十「サンチーム」ノ比例税ヲ課スト雖モ若シ其手形(即チ通常ノ約束書ト看做シタル者ヲ云フ)賣買シ得可キ者ニ非サルニ於テハ其手形ニ課スルニハ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ以テスルナリ

又爲替手形ト雖モ檢閲シタル上既定ノ成規ニ背キ爲替手形タルヲ得サルニ至リシ時ノ如キハ其手形ノ登記ヲ爲ス時ニ至テ百ニ一「フラン」ノ税ヲ課シ若クハ五十「サンチーム」ノ税ヲ課スルナリ是レ例之ハ其手

形甲地ヨリ乙地ニ向ケテ他人ニ差立テタル者ニ非サル歟又ハ其手形ニ記入スルニ此手形ノ裏書ニ從ヒ手形面ノ金高ヲ拂フ可キ旨ノ明文ヲ以テセサル時ノ如キハ容易ク其鑒定ヲ爲シ得可シト雖モ若シ然ラズシテ檢閲ノ時ニ於テ其手形ノ不適法ノ者タルヲ檢出シ能ハサル時(就中姓名身分又ハ地名ヲ假設シテ記シタル時)ニ於テハ後日其爲替手形(但シ既ニ百ニ二十五「サンチーム」ノ税ヲ拂フテ記録ヲ受ケタル者)ハ場合ニ從ヒ或ハ百ニ五十「サンチーム」ノ税ヲ課シ或ハ百ニ一「フラン」ノ税ヲ課ス可キ通常ノ約束書タリト判決シタル裁判言渡書ニ課スルニ既ニ納メタル二十五「サンチーム」ノ增高ヲ以テスルナリ

例之ハ既ニ「チ」課シ「ム」課シ「フ」ラナルヲ以テ五十「サンチーム」ナレハ尚ホ七十「サンチーム」ヲ課スルヲ云フナリ

「第四百五十八節」拂出手形ノ體裁ニ倣ヒタル「セツク」高チ預ケ置キタル

銀行ニ宛テ差立ル者ナリ其詳ハ千八百六十五年六月十四日ノ法律ヲ細ハ商工法鑑ニ就テ見ル可シ

以テ向後十年間印紙税ヲ免除セリ然レモ若シ此手形ノ拂方ヲ爲サ、ルカ爲メニ争ヲ生シ之ヲ裁判所ニ訴出スニ於テハ總テ賣買シ得可キ手形ニ於ケルカ如ク百ニ五十〔サンチム〕ノ比例税ヲ課スルナリ是レ此手形ハ素ト融通ノ便ヲ扶クル者タレハ其印紙税ノ免除ハ大ニ世ノ爲メニ有益ナリト雖モ争ヲ生シタル手形ニ其比例税ヲ免除スルヲ要セサルハ世ノ融通ヲ扶クルノ旨趣ニ違フニ由ル所ナリ其他裏書ノ式ヲ以テ此手形ヲ讓渡ス時ハ其記録税ヲ課ス可ク其税ハ或ハ定額税ヲ以テシ或ハ比例税ヲ以テスルヲアリ

〔第四百五十九節〕「ソシエター」即チ會社ニ指シテ其及ヒ「コムパニー」即チ會社ニ指シテ其大ナハ只其相對スル上ニテ名義ノ差異アルノミニシテ其性質ニ於テハ更ニ相異ナルヲナシ故ニ「ソシエター」ハ即チ小「コムパニー」ナル者ニシテ「コムパニー」ハ即チ大「ソシエター」ナル者ナリ共ニ株主會

社又ハ權利會社ト云ヘル總稱中ニ加フルヲ得可シ而シテ其株主トハ何ソヤ即チ株數持主ノ義ニシテ其株主ナル者ハ即チ會社資本金ノ一部分ナル者タリ只株數ト權利トノ差異アル所ハ權利ノ讓渡ハ會社若クハ會社ノ總代タル管理人ノ許諾アルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得サルニ在ルノミ是レ實ニ社員タルノ名義ハ權利ヲ授ルト同時ニ又義務ヲ生ス可キヲ以テ其義務ヲ行フ可キ者即チ社員ノ交代ハ各社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲ス可ラサルヲ以テ規則ト爲スニ由ル所ナリ然レモ其資本ヲ株數ニ分チタル會社ニ於テハ其各社員ノ持株ハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ讓渡スヲ得可ク之ヲ讓渡シタルニ於テハ會社ニ對スル諸般ノ義務ヲ免ル、ヲ得可シ是レ素ト會社ノ株數ハ其持主ノ姓名ヲ簿冊ニ記入シテ證シタル者タレハ其持主ノ姓名ヲ改メテ其讓渡ヲ爲シタルニ於テハ會社ノ承諾ヲ受クルヲ要セサル

「明カナリ況ヤ其株數證書ノ無名證書タルニ於テハ別段ニ姓名書替
ノ手數ヲ要セスシテ受授シ得可キニ於テオヤ
千八百五十七年六月二十三日ノ法律第六條ニ據レハ株主ノ姓名ヲ記
シタル株數證書即チ記名ノ株數證書ノ讓渡ニ就テハ其株數ノ代價ノ百フラン
ニ二十「サンチム」ニ定リタル讓渡稅ヲ課シ又無名ノ株數證書并ニ凡
テ會社ノ簿冊ニ受授ノ記入ヲ爲スヲ要セサル株數證書ニ至テハ讓渡
稅ニ換用スルニ其株數ノ元金ノ百フランニ十二「サンチム」ニ定リタ
ル年稅ヲ以テス而シテ其年稅ノ基礎ト成ル可キ元金ヲ定ムルニハ前
年中ノ平均相場ヲ取テ以テ之ヲ定ムルナリ但シ千八百五十七年六月
二十三日ノ法律ヲ以テ規定シタル稅則ハ無名ノ株數證書年稅ヲ課ス
可キ者又ハ記名ノ株數證書讓渡稅ヲ課ス可キ者ノ外之ヲ適施ス可カ
ラス故ニ民法第千六百九十條ノ規則ニ照準シテ株數證書ヲ讓渡シタ

ル時ハ共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十九條第二項第六目ニ
定メタル株數讓渡稅(即チ百フラン)ニ五十「サンチム」ノ比例稅ヲ課ス
ルヲ以テ法則トス

〔第四百六十節〕資本金ヲ株數ニ分クサル會社ニ關スル權利ノ讓渡ハ
假令ヒ其會社ノ資本不動産タル時ト雖モ其會社存續ノ時間ハ之ヲ動
産ノ賣渡ト看做ス可シ(民法第五百二十九條第五百三十條)是故ニ會社
ニ關スル權利ヲ讓渡スニハ其讓渡稅ハ之ヲ百ニ二「フラン」即チ動産ニ
關スル權利ヲ讓渡スニハ其讓渡稅ハ之ヲ百ニ二「フラン」ニ
定ムルナリ但シ解社ノ後ニ至リ若シ其會社ノ資産不動産タルニ於テ
ハ其權利ノ讓渡モ亦不動産ノ賣渡タル可キヲ以テ不動産賣買ノ比例
稅(即チ百ニ五「フラン」五十「サンチム」ノ稅)ヲ課スルヲ得可シ而シテ
各社員ノ權利ノ割前ヲ舉クテ一社員ノ所有ニ歸シタル時ノ如キハ即
チ解社ヲ爲シタル者ナリトス何トナレハ凡ソ會社ハ衆多ノ社員ヨリ

成レルヲ以テ其性質ト爲セハナリ故ニ各社員ノ割前ヲ總括シタル權利ノ讓渡ハ必ス會社ノ散解シタル時ニ於テ生ヌ可キナリ是ヲ以テ其讓渡ニ就テハ其會社ノ資産不動産タルニ於テハ不動産ノ賣渡稅ヲ課ス可ク假令ヒ同社中ノ者ニテ之ヲ買入レタルト雖モ他ノ各社員ノ割前ヲ悉皆買入レタルニ於テハ己レ一人ニテ其會社ノ權利者ト成リタルヲ以テ直チニ不動産ノ讓渡稅ヲ納メスノハアル可カラス是レ其買主ハ既ニ會社ニ於テ動產ト看做シタル割前ヲ有スル者ニ非スシテ(民法第五百二十九條)未ダ會テ已レノ所有セザリシ不動産ノ所有者ト爲リ爲メニ新規ノ占有者ト爲リタレハナリ但シ其買主ヨリ會テ一箇又ハ數箇ノ不動産ヲ會社ニ供シタル場合ニ於テハ此例外タリ因テ大審院ニ於テハ會社ノ資産ヲ分派スルカ若クハ其權利ヲ舉ケテ一人ノ所有ニ歸シタルカニ由テ嘗テ會社ノ資産中ニ加ヘタル不動産ヲ取戻シ

タル者ノ如キハ之ヲ新規ノ占有者ト看做サ、ル旨ヲ判決シタリ蓋シ此判決ハ記録稅司ニ於テ實際ニ施行スル所ト相背馳セサル者タリトス

權利ノ讓渡ニ課スル百ニ二(フラン)ノ比例稅ハ證書稅タリ故ニ其讓渡證書ヲ稅官ニ出シテ其登記ヲ受クル時ニ非サレハ之ヲ課スルコト無シ然レモ會社ノ資産タル不動産ヲ讓渡スニ就テノ稅ハ即チ財產讓渡稅タリ故ニ其徵稅ノ爲メニハ記録稅司ニ於テ其讓渡ヲ檢シテ以テ詐欺ヲ伴匿シタル其讓渡ヲ防止スルコト得ルナリ

(第四百六十一節) 會社ノ株數ト其證券トノ間ニハ互ニ其區別アリ其株數ナル者ハ即チ會社資本金ノ一部分ニシテ其證券ナル者ハ即チ會社ノ擔當ス可キ負債タルコト是ナリ故ニ證券持主(即チ出)ハ株數持主(即チ主)ヨリ先ニ其金高ノ拂渡シテ得可シ何トナレハ株主ハ恰モ負債者ニ

シテ出金人ハ債主ニ當レハナリ千八百五十年六月五日ノ法律第二十
七條及ヒ第三十二條ニ據レハ會主ヨリ發行スル證券ニ就テハ其發行
ノ時ニ於テ百_コ一_一フラン_一ノ印紙稅ヲ課シ之ヲ課シタルカ爲メ_コ其證
券ヲ流通スル上ニ就テハ讓渡稅ヲ免除シタリ然ル_コ千八百五十七年
六月二十三日ノ法律ニテハ證券モ亦株數ニ於ケルカ如ク記名ノ證券
ナル_コ於テハ百_一フラン_一ニ二十_一サンチム_一ノ稅ヲ課シ又無名證券タル
ニ於テハ百_一フラン_一ニ十二_一サンチム_一ノ年稅ヲ課スルノ法則ヲ設ケタ
リ

〔第四百六十二節〕 會社ノ發行證券ニ非サル證券即チ州若クハ邑ニ於
テ其公債ヲ募ルカ爲メニ發行シタル證券_コハ其發行ノ時_コ方リテ百
_コ一_一フラン_一ノ印紙稅ヲ課スルヲ以テ法トス是レ千八百五十年六月五
日ノ法律ニテハ州邑及ヒ諸公舎ノ證券ニ就テモ會社ノ證券_コ於ケル

カ如ク同一ノ稅則ヲ適施スル_コヲ得レハナリ但シ證券讓渡ニ就テ課
スル所ノ百_ニ二十_一サンチム_一ノ稅ハ唯會社ノ證券ノ_ニニ限ル者トス
何トナレハ千八百五十年六月五日ノ法律ニテハ州邑及ヒ諸公署ヲ掲
載シタルト雖モ千八百五十七年六月二十三日ノ法律ニ至テハ只其明
文ニ會社ノミテ記載シタレハナリ

千八百五十七年六月二十三日ノ法律ヲ以テ規定シタル會社ノ株數及
ヒ證券ノ讓渡稅ハ手形賣買世話人ノ紹介ニテ其讓渡ヲ爲ス時ト公證
人ノ關涉ヲ以テ其讓渡ヲ爲ス時ト問ハス又如何ノ法式ニ憑リテ其
讓渡ヲ爲シタルヲ論セス總テ株數又ハ證券ノ讓渡ニハ悉皆之ヲ適施
ス可ク只民法第一千六百九十條ニ記スル法式ヲ盡シテ以テ其讓渡ヲ爲
ス可キ時_コ於テノミ之ヲ適施ス可カラサル者タリ
其他上ニ叙記シタル所ノ諸規則ハ皆有酬ノ讓渡ニ關セシ者トス是レ

有酬ノ讓渡ハ後ニ説述スル所ノ生存中贈遺又ハ遺囑贈遺ニ關スル財產讓渡ノ稅則ニ循フ可キ者タレハナリ

〔第四百六十三節〕凡ソ危險請合ノ契約ニ就テハ其請合料ノ金高ノ百ニ一「フラン」ノ比例稅ヲ課シ戰時ニ在テハ其稅額ヲ半數ニ減少シタリ蓋シ海上危險請合契約ニ至テハ特ニ法律ヲ以テ之ヲ旺盛ナラシメンカ爲メニ之ニ課スルコトハ二「フラン」ノ定額稅ヲ以テスルノ特典ヲ設ケ請合契約ニ關シテ爭訟ヲ生シ之ヲ裁判所ニ訴出シタル時ニ非サレハ請合料ノ金高ノ百ニ一「フラン」ノ比例稅ヲ課スルヲ無シトス又船及ヒ積荷ヲ抵當ト爲シテ金高ヲ借入ル、契約ニ就テハ百ニ五十「サンチム」ノ比例稅ヲ課スルヲ法トス而シテ其稅タルヤ普通ノ規則ニ循テ其證書中ニ記スル元金ニ之ヲ課スルノミニシテ其利息ニ之ヲ課セサルノ成規ナリ蓋シ百ニ五十「サンチム」ノ比例稅ヲ課スルノ成規ハ平時

ト戰時トノ別ナキ者タリ

危險請合ノ契約及ヒ船又ハ積荷ヲ抵當ト爲シテ金高ヲ借入ル、契約ニ關スル物件ノ拋棄スル事ニ至テハ特ニ法律ヲ以テ平時ト戰時トノ區別ヲ爲シ以テ平時ハ其平均稅ヲ百ニ一「フラン」ト定メ戰時ハ百ニ五十「サンチム」ト定ム而シテ其稅ハ拋棄シタル物件ノ價額ニ準シテ之ヲ算定スルナリ是故ニ其稅ノ基數ヲ定ムルニハ左ノ方法ニ依ル

第一 危險請合契約ニ付テハ全年分ノ請合料ノ總高ヲ以テ収稅ノ基數トス

第二 船又ハ積荷ヲ抵當ト爲シテ金高ヲ借入ル、契約ニ付テハ其證書中ニ記スル元金ヲ以テ収稅ノ基數トス

第三 物件ヲ拋棄スル事ニ付テハ其拋棄シタル物件ノ價ヲ以テ収稅ノ基數トス

〔第四百六十四節〕 千八百三十年九月八日ノ法律ニ據レハ商法第九十五條ニ記シタル場合ニ於テ商品佛國公債證書、銀行又ハ工作會社ノ株數ヲ附託シテ爲シタル貸借ノ契約ニ付テハ比例稅ヲ免除シテ二フランノ定額稅ヲ課スルヲ法トス蓋シ此法律ハ全ク商人ノ爲メニ設ケタル者ニシテ之ヲ設ル所以ノ趣旨ハ既ニ去リテ數年ヲ閱スト雖モ未タ之ヲ廢止セシト無ケレハ尙ホ今日ニ存保セル者トセスンハアル可カラス然リ而シテ此法律ハ其文意該博ナルカ故ニ法律上ニテ貸借ト附託トナ同時ニ爲シタル場合ト先ツ貸借ヲ爲シテ後ニ附託ヲ爲シタル場合トノ區別ナキ者タリトス

其他千八百四十八年三月二十四日ノ勅令第十條ニ據テ期限前手形ノ割引拂ヒヲ得ンカ爲メニ保證トシテ差出シタル質物ニ付テモ亦上ニ均キ特典ヲ與ヘタリ故ニ其證書ハ二フラン二十「サンチム」ノ定額稅

ヲ納メテ其登記ヲ受ルヲ得可シ

〔第四百六十五節〕 共和曆第七年三月二十二日ノ法律ニ據レハ其第六十九條第二項第十一目ヲ以テ凡ソ金高及ヒ手形類ニ關スル義務ノ解除ヲ記シタル諸證書ハ之ニ課スルニ百ニ五十「サンチム」ノ比例稅ヲ以テス可キ旨ヲ掲ケタリ而シテ該法律第十四條第三目ニ據レハ義務解除ノ稅ハ負債者ノ其義務ヲ解除シタル金高若クハ元金ノ全部ニ據テ之ヲ算定ス可キヲ法トス但シ金高又ハ手形類ニ關スル義務ノ解除ニ非スシテ自餘ノ義務ノ解除ナル時ハ只二「フラン」ノ定額稅ヲ課スルノニ故ニ夫ノ遺物相續人ト婦ノ遺物相續人トノ間ニ於テ其夫ニ入額所得ノ權ヲ屬セシ財産ヲ其婦ノ遺物相續人ニ返還ス可キ旨ヲ約シタル證書ノ如キハ之ヲ目シテ義務ノ解除ト看做シ以テ定額稅ヲ課スルナリ是レ蓋シ其婦ハ實ニ其財産ノ所有主ニシテ負債者タルニ非サレ

ハナリ

〔第四百六十六節〕 法律上ニ於テハ證書上ノ義務解除ニノミ比例稅ヲ課スルヲ以テ法トス故ニ法律上ノ義務解除ニ至テハ課稅セサルナリ是ヲ以テ法律上ニテ二個ノ義務ヲ相殺シ權利ト義務トヲ渾同シ若クハ期滿得除ノ權ニ由テ義務ヲ免レ及ヒ物件ヲ失フ等ノ如キ事アルモ之カ爲メ別段登記稅ヲ納メスシテ以テ其義務ヲ解除スルヲ得ルナリ但シ證書上ノ義務解除ト法律上ノ義務解除トノ差異ハ利銀ノ拂方ニ關シテモ亦自カラ之ヲ明證ス可シ若シ義務解放ノ事ヲ記シタル證書ニ利銀ヲ記載シタルニ於テハ共和曆第七年三月二十二日ノ法律第十四條第二目ノ規則ニ循ヒ其利銀ニモ亦其高ニ應シテ比例稅ヲ課スト雖モ之ニ反シテ其證書ニ元金ノミノ記載アルニ於テハ其利銀ニ比例稅ヲ課セサルナリ蓋シ利銀ニ比例稅ヲ課スルハ同上ノ規則ニ於テ

ハ負債者ノ其義務ヲ解除シタル金高ノ全部ニ本稅ヲ課スルヲ法トシ又元金ノミ記載アル時ニ於テ其利銀ニ課稅セサルハ利銀ヲ拂フ可キ義務ノ解除ハ法律上ノ推測ニ由テ成レル者(即チ法律上ノ義務解除)ニシテ民法ノ第千九百八條ノ規則ニ據ルニ凡ソ利銀ノ事ヲ別段附記セサル元金ノ請取書アルニ於テハ借主ハ既ニ其利銀ヲ拂ヒタルト思料シテ以テ其利金ヲ拂フ可キ義務ヲ解除セラル可キヲ以テ法ト爲スニ由ル所ナリ

〔第四百六十七節〕 時アリテハ義務ト其解除トヲ混シタル證書ニ由テ義務ヲ消滅スルヲアリ例之ハ負債者ニ代テ義務ヲ盡シタル人自カラ債主ノ權ニ代ル事并ニ義務ヲ更改スル事ノ如キ是ナリ但シ義務更改ノ場合ニ於テハ一箇ノ證書ヲ以テ前ノ義務ヲ消滅シ更ニ再ヒ義務ヲ生スルナリ故ニ只一箇ノ比例稅ノミヲ課スルナリ然レモ此場合ニ於ケ

ル税ハ其額更ニ貴キ百ニ一「フラン」ノ比例税ヲ課スルヲ法トス是レ蓋シ其證書ノ主タル目的ハ即チ新ニ生スル所ノ義務ニ在レハナリ且又此収税ノ道理ハ前ニ論述シタルカ如キニ税ヲ課ス可キ時ハ其中ニテ更ニ貴キ税ヲ課スルノ記録税司ノ大旨趣ニ符合セル者ナリ其他代權ノ事ニ至テ許多ノ區別アリ左ニ之ヲ論セントス

民法第千二百五十一條ニ記スル場合ニ於ケルカ如キ法律上ノ代權ノ證書ニ關スル時ハ只義務解除ノ税ノミヲ課スルヲ以テ法トス是レ蓋シ其代權ハ直チニ法律上ヨリ生スル者タルニ因リ其證書ハ即チ眞ノ義務解除ノ證書タルニ由ルナリ又契約上ヨリ生スル代權債主ト他人トノ協議ヨリ生スル場合(民法第千二百五十條ノ第一項)ニ於テハ其代權ハ即チ權利ノ轉移ノ一種タレハ財産讓渡税(即チ百ニ一「フラン」ノ税)ヲ課ス可ク其他民法第千二百五十條第二項ニ照準シテ債主ノ權ニ代

ル時ハ二個ノ見解ヲ生ス可シ即チ同一ノ證書ヲ以テ金高ノ借受ト義務ノ解除トヲ爲シタル場合ト別ノ證書ヲ以テ之ヲ爲シタル場合トノ二箇ノ見解是ナリ而シテ若シ別ノ證書ヲ以テ之ヲ爲シタル時ハ金高借受ノ證書ニハ義務契約ノ税ヲ課シ義務完行ノ證書ニハ義務解除ノ税ヲ課スルヲ得可シ之ニ反シテ同一ノ證書ヲ以テ之ヲ爲シタル時ハ其證書ニハ義務契約ノ税ノミヲ課シテ義務解除ノ税ヲ課ス可カラ

ス蓋シ此區別タルヤ大審院ノ判決ニ由テ成リタル者ナリト雖モ余ヲ以テ之ヲ觀レハ此區別ハ公道ニ基キシ者ニ非スシテ却テ之ニ牴觸シタル結果ヲ生ス可キ者ナリ是レ大旨趣ノミヲ以テ之ヲ考フレハ義務解除ノ證書ハ即チ金高借受ノ證書ノ補足トナリ其證書ノ執行トナル可キ者ナレハ此證書ニ課スルニハ只「二フラン」ノ定額税ノミヲ以テセ

スノハアル可カラヌ故ニ畢竟右二個ノ見解ハ共ニ其所爲ニ於テハ同

一タレバ甲ノ場合ニ於テハ二重ニ収税シ乙ノ場合ニ於テハ單ニ収税スルカ如キ非常ノ差異ヲ爲サ、ルヲ得可キナリ又記録税司ニ於テ公平ト思料シタル所モ亦大ニ余ノ所見ニ反セリ何トナレハ記録税司ニ於テハ同一ノ證書ヲ以テ金高ノ借受ト義務ノ解除トヲ同時ニ爲シタルト別段ノ證書ヲ以テ之ヲ各別ニ爲シタルトヲ問ハス義務契約ノ税ト義務解除ノ税トヲ併課セシメテ求メタレハナリ

〔第四百六十八節〕 延期ノ契約ニハ百ニ五十〔サンチム〕ノ比例税ヲ課スルヲ法トシ此税ハ負債者ヨリ拂フ可キ旨ヲ契約シタル金高ニ就テ之ヲ徴収スルヲ常トス蓋シ延期ノ契約ハ困難ノ場合ニ至テ義務ヲ盡シ能ハサル負債者ノ爲メニ債主ヨリ其義務ノ執行ヲ寛宥スル爲メニシタル者タレハ決シテ更ニ義務ヲ生シ其契約中ニ新規ノ義務ヲ有スル者ニ非サルナリ故ニ其契約ニハ只一定額税ノミヲ課ス可キ理ナリ然

ルニ立法者ノ之ニ比例税ヲ課セントシタルハ其理由ヲ解シ得サル所ナリ

商法第五百七條以下ノ規則ニ照準シテ設ケタル債主ト分散人トノ間ニ於ケル約定書〔千八百三十四年五月二十四日ノ法律第十四條〕并ニ債主連結ノ證書ト同視シタル分散人ノ財産ヲ債主ニ任カス可キ約定書〔千八百五十六年七月十七日ノ法律〕ニ就テハ法律上ニテ定額税ヲ課スルヲ以テ法トス而シテ其定額税ノ額ハ債主ト分散人ノ間ニ於ケル約定書、債主連結ノ證書及ヒ分散人ノ財産ヲ債主ニ任ス可キ約定書ニ就テハ共ニ三〔フラン〕タリ但シ雙方協議ノ上ニテ作りタル債主ト分散人ノ間ニ於ケル約定書ハ總テ延期ノ契約ニ於ケルカ如ク百ニ五十〔サンチム〕ノ比例税ヲ課ス可キナリ是レ蓋シ此約定書ハ現ニ商法ノ規則ニ循テ作りタル債主ト分散人ノ間ニ於ケル約定書ノミニ適用ス可キ

千八百三十四年五月二十四日ノ法律ヲ以テ設ケタル特例中ニ加フ可キ者ニ非ス又分散人ノ財産ヲ債主ニ任ス可キ約定書ニ關スル千八百五十六年七月十七日ノ法律ニ記スル所ノ特例中ニ加フ可キ者ニ非サレハナリ

〔第四百六十九節〕 訴訟ノ裁判申渡トハ償フ可キ事、供給ス可キ事其他如何ノ事件タルヲ問ハス其執行ヲ爲ス可キヲ承服シタル一方本人ニ裁判官ヨリ下付スル所ノ命令ヲ云ヒ債主ノ權利ノ高ヲ定ムル事トハ一方本人債主ノ權利ヲ定ムル事ヲ云フ債主ノ權利ノ先後順序ヲ定ムル事トハ權利ノ高ヲ定ムル事ノ一種ニシテ債主ノ順序ヲ定ムル訴訟ニ限ル者ナリ而シテ凡テ訴訟ノ裁判申渡ヲ記スル證書、債主ノ順序ヲ定ムル證書及ヒ權利ノ高ヲ定ムル證書ノ比例税ハ百ニ五十サンナリナリ其他民事上ノ損害ノ償ニ付テ爲シタル裁判ノ申渡ニ至テハ

特例ヲ以テ其税額ヲ増加シテ百ニ二フラント爲ス(共和曆第九年六月二十七日ノ法律第十一條)蓋シ此規則タルヤ其意該博ナルヲ以テ民法各裁判所及ヒ商法裁判所ノ申渡ニ係ル損害ノ償ニ之ヲ推及適施ス可シ是レ共和曆第九年ノ法律中ニ記スル民事上ト云ヘル語ハ刑事上ト云ヘル語ニ相對シテ使用シタル者タレハ援引シテ此規則ヲ解釋スル時ハ商法上ノ損害ノ償ノ如キモ亦之ヲ民事上ト云ヘル語中ニ加入シタルヲ敢テ疑テ容レサレハナリ

又重罪裁判所ノ申渡ニ係ル損害ノ償ニ至テハ既ニ共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十九條第五項第八目ヲ以テ其税額ヲ増加シテ百ニ二フラント爲シタリ故ニ重罪裁判所ニ於テ既ニ實地ニ施行シタル税額ヲ民事上ノ損失ノ償ニ推及シタルヲ以テ之ヲ觀レハ立法家ノ意ハ商法上ノ損害ノ償ニ其規則外ニ置ントセシニ非サルヲ亦自カラ明

晰ナリトス

但シ既ニ損害ノ償ヲ約定シタル以前ノ證書ニ據リテ以テ損害ノ償ヲ申渡シタル時ハ百ニ一「フランス」ノ税ヲ課セスシテ五十「サンヤーム」ノ比例税ヲ課スルヲ以テ法則トス

〔第四百七十節〕若シ政府又ハ諸公署ニ於テ訴訟ニ加ハリシ時ニ於テハ其裁判申渡書ニ課スルニモ尙ホ裁判申渡ノ税ヲ以テス可キヤ如何ヲ論スルニ共和曆第七年三月二十二日ノ法律ニ於テハ人民間ノ訴訟ニ關スル裁判申渡ノ外税ヲ課ス可カラサル旨ヲ定メタリ然ルニ千八百十六年四月二十八日ノ法律第三十九條ニ於テハ國税又ハ地方税其他總テ政府及ヒ諸公署ニ償フ可キ金高ニ關スル裁判申渡書ニハ人民互相ノ訴訟ニ關スル裁判申渡ト同一ノ記録税ヲ課ス可キ旨ヲ定メタリ但シ此規則ノ意ハ従前ノ證書ニ依テ政府ニ償フ可キ金高ニ關スル

裁判申渡ニ其税ヲ課ス可キニ在リトセスンハアル可カラス其他罰金ノ申渡ニ至テハ百ニ五十「サンヤーム」ノ比例税ヲ課ス可カラス是レ然ラサレハ間接ニ罰金ノ額ヲ増加スルニ當ルト抑、法律上ニテ罰金ノ高ハ犯罪防制ノ主要ニ基キテ之ヲ定メタルニ由リ更ニ亦之ニ加フルニ裁判申渡ノ税ヲ以テシテ刑ヲ重劇ナラシムルハ刑ノ本旨ニ背反スルヲ免レサレハナリ

〔第四百七十一節〕假リノ裁判申渡例之ハ特定ノ期限内ニ請求シタル物件ヲ返還セサルニ於テハ金高ヲ拂フ可キ旨ノ命令ノ如キハ未必ノ條件ニ由テ停止ス可キ義務ノ執行ヲ記スル者タリ故ニ若シ其期限内ニ請求ヲ受ケテ物件ヲ返還セサル時ニ非サレハ比例税ヲ課スルヲ得ス又缺席ノ裁判申渡ニ至テハ直チニ之ニ比例税ヲ課シ然ル後其缺席人ヨリ其裁判ニ對シテ控訴ヲ爲シタル時ハ其控訴ノ裁判申渡ニ付

テハ控訴ノ裁判申渡ヲ以テ申渡サレタル金高原裁判ニテ申渡サレタル金高ヨリ多キ時ハ其增高ニ應スル税ヲ増課シ若シ其金高増加セサレハ其裁判申渡書ニ課スル定額税ヲ以テシテ其登記ヲ爲サシムルナリ而シテ通常缺席ノ裁判申渡ニ對スル故障申立ニ付テ申渡サレタル金高ハ通例缺席ノ裁判申渡ヲ以テ申渡サレタル金高ニ比スレハ減少ナル可シ然ラハ則チ其金高ノ差ニ應スル税金ハ之ヲ還付ス可キヤ如何ヲ論スルニ共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十條ニ於テ定ムル典則ニ循テ決シテ之ヲ還付セサルヲ法トス

〔第四百七十二節〕千八百八年十月二十二日ノ參議院ノ意見書ニ於テハ法律上特定ノ方法ニ依テ糶賣證書ヲ取消シタル時ハ證書ニ對シ一旦徴収シタル税金還付ス可キ者ナリト決定セリ是レ通常ノ規則ニ非サル一箇ノ特例ナリ故ニ他ノ諸變則ニ於ケルカ如ク妄リニ之ヲ他事

ニ推及ス可カラズ况ヤ此決定ハ公平タリト雖モ共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十條ノ典則ニ矛盾スルヲ免レサルカ故ニ特ニ此決定ヲ爲シタル場合ノ外決シテ之ヲ適施セザラソコトヲ要ス

〔第四百七十三節〕訴訟ノ裁判申渡書權利ノ高ヲ定ムル證書及ヒ債主ノ順序ヲ定ムル證書ニ關スル比例税ハ特別ノ最少數ヲ設ケテ以テ之ヲ制限セリ而シテ其最少數ノ額ハ其裁判ヲ申渡ス所ノ裁判所ノ階級ニ從テ課ス可キ定額税ニ等シキ者ナリ(共和曆第七年三月二十二日ノ法律第六十九條ノ第二項第九目)其他ノ諸證書ノ比例税ニ付テハ共和曆第九年六月二十七日ノ法律ニテ其最少數ヲ更改シ之ヲ二十五(サンチム)ニ定メタルハ既ニ上ニ之ヲ論述セシ所ノ如シ然レモ同年ノ法律ニテ爲シタル更改ハ裁判申渡書權利ノ高ヲ定ムル證書及ヒ債主ノ順序ヲ定ムル證書ニハ關涉ナキ者ナレモ却テ裁判申渡ニ依テ課シ得可

キ税ニシテ所謂ル證書税ナル者ニハ之ヲ適施ス可キ者タリ
 (第四百七十四節) 凡テ裁判申渡書ハ權利ヲ表明スルヲ以テ通則トス
 是故ニ其申渡書ヲ以テ既ニ存在スル權利ヲ認ムルヲアリト雖モ之ヲ
 以テ新ニ權利ヲ設ルコトナキ者タリ但シ裁判申渡書ハ公正ノ證書タル
 ナリ以テ一旦之ヲ設ケタル上ハ其日附確實ニシテ必ス執行ス可キ力ヲ
 有シ訴訟人ノ所持スル證書ニ比スレハ一層完全ナル證書ト爲ス可シ
 故ニ裁判申渡ニ課スルニ比例税ノミヲ以テスルハ他ナシ全ク證書ノ
 性質ニ從ヒ其額ヲ増加ス可キ税ヲ課セザランカ爲メナリ何トナレハ
 訴訟人ハ其訴訟ヲ口上ノ契約ニ關シタル者ト詐稱シ其契約ノ成立ヲ
 認メテ以テ税ヲ免レ官庫ノ損失ヲ來タス可ク而シテ法律ニ違ル、方
 法ニ利益多ケレハ愈之ヲ用ユルコト頻數ナレハナリ是ヲ以テ或ハ口上
 ノ契約ニ基キ或ハ未タ記録ヲ受ケサル證書ニ基キテ言渡書ニ課ス可

キ税(即チ百ニ五十「サンチム」ノ税)ノ外ニ更ニ證書ニ課スルニ比例税
 ナリ以テスルナリ
 然レモ契約ヲ結ヒタル一方本人ノ未タ登記ヲ受ケサル私ノ證書ニ據
 テ裁判ヲ請フ場合ト口上ノ契約ニ據テ之ヲ求ムル場合トハ互ニ著シ
 キ差異アリ因テ甲ノ場合ニ於テハ其證書ニハ二倍ノ税ヲ課ス可シ是
 レ此場合ニ於テハ其登記法ヲ履行セサルノ罪ヲ免レサルノ故ヲ以テ
 其罰ヲ當ツ可キヲ法ト爲スト既ニ其證書面金高ノ一部分ノ拂渡シア
 リタル後更ニ其殘額拂渡ノ裁判申渡アリタル時ニ於テモ證書面金高
 ノ全部ニ課スルニ二倍ノ證書税ヲ課スルヲ以テ法ト爲スニ在リトス
 然リト雖モ口上ノ契約ニ關スル場合ニ於テハ上ニ反シテ其裁判申渡
 ナ受ケタル金高ノミニ證書税ヲ課スルナリ是レ此場合ニ於テハ口上
 ノ契約ヲ改メテ證書ニ記スル時ニ至ル迄ハ記録税ヲ課セズシテ未タ

拂渡サ、ル金高ノミニ關シテ其効チ有ス可キ者アレハナリ(千八百十六年四月二十八日ノ法律第五十七條)茲ニ又上ニ記シタルヨリ他ノ差異ヲ論スルニ凡ソ口上ノ契約ニ基キテ課ス可キ證書稅ハ裁判申渡アリタル時ニ於テ之ヲ課スル者ニシテ其申渡アラサル前ニ訴訟ヲ解止シ若クハ被告人納得シテ解訟シタル時ノ如キハ之ヲ課セサルナリ然レモ訴訟中ニ未タ記録ヲ受ケサル證書ヲ出シタル時ニ於テ其證書ニ課スル稅(即チ證書稅)ハ假令ヒ裁判申渡ナキ時ト雖モ其證書ヲ出シタルノ一事ニ由テ之ヲ課スルナリ是レ蓋シ其證書ヲ出シタル事ヲ認メタル時ハ直チニ其證書ニ課稅シ裁判申渡アリテ後其申渡書ニ課稅スルニ非サレハナリ

〔第四百七十五節〕商業上ニ關スル私ノ約定書ハ特別ノ成規ヲ以テ之ヲ管理シ千八百五十九年六月十一日ノ法律第二十二條第二十三條及

ヒ第二十四條ニ於テハ「フラン」ノ定額稅ヲ納メテ以テ此證書ノ登記ヲ受ケ得可キ成規ヲ設ケタリ故ニ後日若シ此約定書ニ付キ裁判申渡アル歟又ハ權利ノ高ヲ定ムル事アル歟或ハ債主ノ順序ヲ定ムル事アリタル時ハ其申渡ニ由テ右約定書ノ比例稅ヲ課ス可ク假令ヒ同上ノ申渡アリシ場合ニテモ口上ノ契約ニ於ケルカ如ク其裁判申渡ヲ受ケタル金高ニ應シテ證書面ニ記シタル總金高ニ準シテ之ヲ課スルニ非サルナリ其他登記法ニ違反シタルヲナキカ故ニ決シテ二倍ノ稅ヲ課スルヲナシ而シテ此類ノ證書ノ比例稅ハ裁判申渡ニ由ルニ非サレハ徵收ス可カラサルノ故ニ以テ其證書ヲ出シタルト雖モ之カ爲メニ課稅スルヲナシ故ニ若シ裁判申渡ニ由ラスシテ他ノ方法ニ由テ解訟シタル時ノ如キハ漫ニ稅官ニ於テ收稅ス可カラサルヲ法則トス

第十三款 公簿證記

不要報贈與契約證書及ヒ生存贈與契約證書ノ課稅

〔第四百七十六節〕凡ソ人ノ其生存中ニ於テ爲セル贈與ハ受贈者ノ承諾スル有ルニ非サレハ則チ其契約尙ホ未タ完成セサル者トス然リ而シテ受贈者ノ承諾ハ或ハ之ヲ契約證書ニ明記スルニ因テ成リ或ハ別記承諾書ヲ贈與者ニ送付スルニ因テ成ル若シ受贈者ノ姓名ヲ契約證書ニ掲載スルヤ唯贈與者ト共ニ之ヲ錄製シタルコトヲ證記スルノミヲ以テシテハ未タ足レリトセス必ス其承諾ヲ明記スルコトヲ要ス又若シ受贈者ノ姓名ヲ契約證書ニ掲載セサルヤ別記承諾書ヲ見ニ贈與者ニ送付スルニ非サレハ則チ其契約ハ尙ホ未タ完成セサルナリ是ヲ以テ

既ニ承諾書ヲ製スルモ未タ之ヲ送付スルニ及ハスシテ受贈者ノ死亡
スル有レハ則チ生存贈與ノ契約ニ要スル程式ノ履行ハ未タ完ク之ヲ
果サ、ル者ト爲ス

若シ生存贈與ヲ領受スル承諾ヲ契約證書ニ明記セルニ非サレハ則チ
縱令ヒ受贈者ノ姓名ヲ掲載セル有ルモ是レ決シテ轉讓比例稅ヲ課收
ス可キ者ニ非ス何トナレハ則チ其生存贈與契約ノ尙ホ未タ完成セサ
ルヲ以テナリ然リト雖モ若シ既ニ生存贈與ノ契約ヲ實行シ而シテ受
贈者カ見ニ其贈與セラレタル財産ヲ保有スルヤ即チ轉讓比例稅ヲ課
收ス可キ者ト爲ス何トナレハ則チ是レ此不要報ノ生存贈與ノ財産ヲ
陰密ニ轉讓スル者ト看做ス可キヲ以テナリ

受贈者ノ未タ承諾ヲ表セサル生存贈與ハ其契約尙ホ未タ完成セサ
ル者タルニ由リ轉讓比例稅ヲ課收ス可カラサルヤ論ヲ俟タス然レ

此原則ニ對スル一個ノ特例ノ在ル有リ即チ共和九年「ウァントーズ」
月二十七日ノ法律第四條及ヒ共和七年「フリノール」月二十二日ノ法
律第十二條ノ制規ノ如キ是ナリ

上文ノ解説ハ唯^レ是レ不動産ノ生存贈與ニ向テノ^レ之ヲ擬施スルコトヲ
得ルニ過キス若シ夫レ動産ヲ以テスル生存贈與ノ如キ其轉讓比例稅
ハ本ト是レ契約證書ニ向テ課收スル者タルニ由リ受贈者ノ承諾ヲ明
記セル文書ノ存スル有ルニ非サレハ則チ決シテ之ヲ課收ス可カラズ
但^レ手付贈與ノ場合ノ之ニ異ナル有ルノミ故ニ凡ソ動産ノ贈與ヲ爲シ
而^レ後ニ受贈者カ之ヲ承諾スル如キ場合ニ於テハ常ニ別記承諾書ヲ
送付スル時際ニ於テノミ其轉讓比例稅ヲ課收ス蓋シ是レ此時際ニ至
リ其贈與契約ノ始メテ完成スルニ由レハナリ是ヲ以テ若シ別記承諾
書ヲ贈與者ニ送付セサル以前ニ其別記承諾書ト贈與證書トヲ收稅官

ニ供呈スルコト有レハ則チ之ヲ公簿ノ二フラン定額税ノ部ニ登記スル
 ナ要ス然ルニ實際ニ於テハ已ニ別記承諾書ヲ供呈スレハ則チ轉讓比
 例税ヲ課收シ而シテ若シ未ダ別記承諾書ヲ贈與者ニ送付セサル以前
 ニ於テ何等ノ事由アルカ爲メニ其贈與ヲ收回スルコト有レハ其課税ヲ
 還付ス是レ以テ轉讓比例税ノ單ニ承諾ヲ爲セル場合ニ向テ課収ス可
 カラサル者タルコトヲ證スルニ足レリ蓋シ本ト合法ニ課収セル者ト爲
 セハ則チ共和七年「フリメール」月二十二日ノ法律第六十條ノ以テ此還
 付ヲ許サ、ル可キナリ

〔第四百七十七節〕 贈與者カ若シ其贈與スル財産ノ全部若クハ一部ヲ
 自由ニ處置スルノ權理ヲ握存セルコト有レハ則チ其全部若クハ一部ノ
 贈與ハ無効ニ歸ス可キナリ然レモ其贈與契約證書ニ據レハ則チ見コ
 贈與ノ性質ヲ存スル有リ故ニ其贈與ハ饒使ヒ無効ニ歸スルモ其契約

證書ノ見ニ存スルヲ以テ當然ニ轉讓比例税ヲ課収スルニ妨ケ有ルコト
 無キナリ

〔第四百七十八節〕 贈與者カ其贈與スル財産ノ入額所得權ヲ握存セル
 有ルモ尙ホ是レ不要報ノ契約ヲ以テ所有權ヲ轉移スル者トス然リ而
 シテ共和七年「フリメール」月二十二日ノ法律第十四條第八項及ヒ第十
 五條ニ於テ所有權ノ轉移ニ課税スルヤ全所有權ナル文字ヲ用ヒス故
 ナ以テ若シ受贈者カ更ニ其贈與セラレタル財産ノ物體所有權ヲ他ノ
 人ニ贈與スル有ルヤ入額所有權ハ尙ホ是レ依然トシテ原贈與者ニ存
 シ而シテ受贈者ハ唯其財産ノ保有權ヲ存スルニ過キサカ爲メニ轉
 讓比例税ヲ扣減スルヲ要セスシテ必ス其全額ヲ課徴ス可キニ似タリ
 然リト雖モ破毀裁判所ノ審判例ニ依ルニ初次ノ受贈者ハ轉讓比例税
 ノ全額ヲ納致シテ以テ其保有權ノ所有權ニ移ルヲ期待ス是ヲ以テ更

ニ之ヲ轉讓スルヤ實價ノ半額ニ向テ比例稅ヲ納致ス可シ蓋シ入額得
有權ハ全所有權ノ半價ニ均當スレハナリト決定セリ千八百四十七年
十二月二十七日
所ノ破毀裁判

〔第四百七十九節〕生存贈與ハ其契約證書ニ於テ特別ニ解破ノ約款
ヲ立ルコトヲ得可ク時ニ或ハ其解約ノ法律上ニ生スル有リ即チ或
ハ契約ノ履行ヲ缺クニ生シ或ハ生子若クハ忘恩ノ事由ニ生スル是
ナリ

生存贈與ノ契約ヲ解破スルコト有ルモ已ニ課收セシ轉讓比例稅ハ復タ
之ヲ還付セヌ何トナレハ則チ是レ本ト合法ニ課收セシ者ナルヲ以テ
ナリ（共和七年）「フリメール」月二十二日ノ法律第六十條然ルニ此生存贈
與契約ノ解破ニ向テハ猶ホ所有權ヲ其原主ニ復歸セシムルト同ク更
ニ轉讓比例稅ヲ課收ス可キカ曰ク唯忘恩ノ事由ニ生スル解約ニ向

テノミ之ヲ課收ス可ク何トナレハ則チ此事由タル復タ既往ニ溯リテ
其効力ヲ及ホスコト能ハス唯將來ノミニ向テ其効力ヲ生シ而シテ解
約ノ裁判ヲ下スヨリ以前ニ受贈者ノ其贈與セラレタル財產ニ關シテ
他ノ人ニ授付シタル物件上ノ權理ノ如キハ依然存セシムル者タルヲ
以テナリ夫レ此事由ノ爲メニ贈與ノ契約ヲ解破スルヤ即チ以テ財產
ノ所有權ヲ其原主ニ復歸セシムル所ニシテ而シテ是レ全ク贈與ノ事
ニ異ナリ故ニ此場合ニ在リテハ彼ノ人事上ニ係ルト裁判上ニ係ルト
ヲ問ハス凡テ要報ノ契約ヲ以テ所有權ヲ轉移スル證書ヲ包括セル所
ノ稅則ヲ擬施シ而シテ若シ動産ニ係レハ其實價百分ノ二ヲ課收シ不
動産ニ係レハ其實價百分ノ四ヲ課收ス然レモ彼ノ實價百分ノ一半ヲ
課收スル加稅ノ如キハ復タ之ヲ課收セヌ蓋シ是レ此事ニ關スル裁判
ノ宣告ハ千六百十六年四月二十八日ノ法律第五十四條ノ制規ニ照シ

之ヲ公簿ニ録寫スルヲ要セサルニ由ル抑、裁判宣告書ヲ録寫スルヲ要スル程式ハ千八百五十五年三月二十三日ノ法律ニ於テ始テ規定シタル者タリ

〔第四百八十節〕 然レモ生子ノ事由ハ之ニ反シ既往ニ遡リテ以テ生存贈與ノ契約ヲ無効ニ歸セシメ而シテ受贈者ノ其贈與セラレタル財産ニ關シテ他ノ人ニ授付シタル物件上ノ權理ヲ毀銷スル者タリ(民法第九百六十三條)是ヲ以テ贈與者ハ法律ノ効力ニ依據シテ其贈與セル財産ヲ收回スルヲ得而シテ此解約ノ爲メニ更ニ轉讓比例稅ヲ納致スルヲ無シ是ニ絲テ之ヲ觀レハ若シ贈與者カ受贈者ノ利益ノ爲メニ解約權ヲ拋棄スレハ更ニ轉讓比例稅ヲ課收スルヲ要スル者ノ如シ然レモ此場合ニ於テハ常ニ普通ノ定則ヲ擬施スルヲ見ルナリ其定則ニ從ヘハ凡ソ契約證書ヲ無効ニ歸セシムルノ原因及ヒ其他ノ原因有ル

ガ爲メニ其契約上ノ物件若クハ其價直ヲ變換スルヲ無ク唯其契約證書ヲ改製スルニ止マレハ則チ單ニ轉讓定額稅ヲ課收スルヲ要スル有ルノヨリ共和七年「フ」リメ「ル」月二十二日ノ法律第六十八條及ヒ千八百十六年四月二十八日ノ法律第四十三條ヲ參觀ス可シ

〔第四百八十一節〕 又生存贈與ノ契約證書ニ收回ノ約款ヲ附シタル場合ニ於テ贈與者カ其贈與セル財産ヲ收回スルハ亦是レ既往ニ係レル事由ニ出ル者トス是ヲ以テ受贈者カ若シ贈與者ニ先チテ死亡シ而シテ其子ヲ遺存セサル場合ニ於テ贈與者カ其贈與セル財産ヲ收回スル如キハ更ニ轉讓比例稅ヲ課收スルヲ無キナリ

〔第四百八十二節〕 契約ノ履行ヲ缺クニ因リテ生存贈與ノ契約ヲ解破スル如キ亦之ト異ナラスシテ其事由タル均ク既往ニ遡リテ其効力ヲ及ホス者トス夫レ贈與者ハ斯ノ如ク既往ニ遡リテ以テ贈與財産ヲ收回スルヲ得ルニ因リ此時會ニ向テ更ニ轉讓比例稅ヲ課收スルハ即

ナ其原則ニ牴觸スルヲ免レス然レモ實際ニ於テ此事由ノ爲メニ贈與ノ契約ヲ解破スル裁判ヲ視テ要報ノ財産轉移ニ關スル裁判ト做シ動産ニ向テハ其實價百分ノ二ヲ課收シ不動産ニ向テハ其實價百分ノ四ヲ課收ス抑法律ノ此場合ニ於テ要報ノ性質ヲ存スト看ル所以ハ他無シ蓋シ契約履行ノ義務ヲ缺クニ起セル損害ノ賠償ニ充ル爲メニ贈與財産ヲ收回センコトヲ請求スル者タルニ是レ由レリ

〔第四百八十三節〕生存贈與ハ時ニ或ハ要報契約ノ程式ニ違フテ之ヲ爲スト有リ此場合ニ在テハ其贈與ハ即チ間接ノ贈與ト爲ル又要報ノ契約ニシテ多ク贈與ノ性質ヲ含有シ以テ偽裝ノ贈與ト看做ス可キ者有リ例之ハ十萬フランノ實價ヲ有スル不動産ノ所有主カ之ヲ五萬フランニ賣付シ以テ買主ニ利益ヲ與フル其跡掩フ可カラサル如キハ即チ亦間接ノ贈與ト爲ス若シ之ヲ十萬フランニ賣付シ而シテ實際其價

直チ領収セサルニ之ヲ領収セリト稱言スル如キハ是レ全ク偽裝ノ贈與ナリ裁判例ニ依レハ此間接ノ贈與ト偽裝ノ贈與トヲ問ハス皆其有効タルコトヲ認識セリ但民法第千九十九條ニ於テ夫妻間ノ贈與ヲ規定スル場合チ此限外ニ置クコト有ルノミ然リ而シテ此間接ノ贈與ト偽裝ノ贈與トハ如何ナル方法ヲ以テ課税ス可キカ

公職ヲ轉讓シ以テ價直ノ一部ニ贈與スル如キハ其一部ニハ賣買稅ヲ課收シ他ノ一部ニハ轉讓稅ヲ課收ス千八百六十六年一月二十日ノ破毀裁判所ノ審判

〔第四百八十四節〕間接ノ生存贈與ニ向テハ見實ノ要報契約證書ニ施ス可キ稅則ニ照準シテ其轉讓比例稅ヲ課收ス是故ニ縱令ヒ賣付價直ノ一部ハ全ク贈與ニ係レルモ亦賣買契約證書ニ施ス所ノ稅則ヲ擬施セサル可カラス何トナレハ實際是レ賣買ニシテ其利益ノ存スル所ハ唯價直ヲ扣減セルニ在ルヲ以テナリ然レモ施政官ハ其賣買ノ事實ヲ

検査シ贈與セル不動産ノ實價ヲ評定セシムルノ權理ヲ有ス蓋シ或ハ其實價ヲ隱匿スル奸詐有ラントチ疑フ可キニ由レリ收稅官ノ此權理ヲ行用スルヤ特リ不動産ノ轉讓ニ關スル時會ニ限ルノミ是レ動産ノ賣付價金若クハ不動産ノ貸貸直銀ノ如キハ見實ノ契約ニ生スル間接ノ利益ニ向テ又轉讓稅ヲ課收スルヲ無キガ爲メナリ夫レ此等ノ場合ニ在リテハ本來轉讓稅ヲ課收セサルニ由リ收稅官ハ復ク契約主雙方ノ單ニ證記稅ノミヲ課收セラル可キ契約證書ヲ以テ授受スル利益ノ多少ヲ查覈スルヲ要セス

〔第四百八十五節〕 偽裝ノ生存贈與ヲ爲セル場合ニ關シテハ其假偽ノ證書ニ課收スル稅額ノ若シ其眞實ノ證書ニ課收スル者ニ比スレハ遙カニ減下スルヲ往々ニ之有リ是ヲ以テ不動産ノ賣買ハ本來其實價百分ノ五半ヲ課收スト雖モ親屬ニ非サル人ニ不動産ヲ贈與スルニ至

リテハ轉讓比例稅ノ名義ヲ以テ其實價百分ノ九ヲ課收ス故ニ親屬ニ非サル人ニ贈與スル場合ニ當リテハ價直ヲ領收セル事旨ヲ記入スル所ノ賣買契約證書ノ程式ニ遵行シ以テ其贈與ノ跡ヲ掩匿スルヲ利アリトス夫レ假偽ノ契約證書ト雖モ亦是レ有効ノ者ト爲ス故ヲ以テ收稅官ハ假偽ノ契約證書ニ頼リテ掩匿スル眞實ノ價直ヲ查覈スル權理ヲ有スルヲ無シ然レモ若シ日後ニ至リ或ハ共同承産者ノ爲メニ其契約證書ヲ無効ニ歸セシムルヲ謀リ若クハ其財產ヲ之ニ分與スルヲ謀リ以テ訴訟ヲ構起スル等ノ事アリテ爲メニ其賣付ノ實ニ贈與ナリシ事證ノ發覺スル有レハ則チ追徵ノ名義ヲ以テ假偽ノ證書ニ課シタル稅額ト眞實ノ證書ニ課ス可キ稅額トノ間差額ヲ課收ス

〔第四百八十六節〕 民法ハ其第九百三十二條ニ於テ不動産ヲ以テスル生存贈與ハ必ス之ヲ公簿ニ證記スルヲ要セリ是ヲ以テ千八百五十

五年三月二十三日ノ法律ヲ頒布セルヨリ以前ニ在リテハ不動産贈與ノ契約證書ハ必ス公簿ニ登記スルヲ要シタルヤ言ヲ待タス是レ設令ヒ契約主雙方カ公簿登記ノ程式ヲ履行スルヲ請求セサル場合ト雖モ収税官司ニ於テ當然ニ其實價百分ノ一半ノ公簿登記税ヲ課收セサル可カラサル所以トス然レモ特別ノ條文ヲ以テ此例規ノ區域ヲ稍狹隘ニ歸セシメタル者有リ夫レ本系親屬ニ對スル贈與及ヒ夫妻間ノ贈與ニ向テ當然ニ公簿登記税ヲ課收スルハ固ヨリ爭難ス可カラスト雖モ旁系親屬ニ對スル贈與及ヒ親屬ニ非サル人ニ對スル贈與ノ如キハ蓋シ然ラス此等ノ贈與ニ課收スル税則ハ千八百三十二年四月二十一日ノ法律ヲ以テ之ヲ規定シ而シテ轉讓比例税ト公簿登記税トヲ混合シテ復タ分離ス可カラサル者ト爲セリ

本系親屬ニ對スル贈與ニ向テ當然ニ公簿登記税ヲ課收スルハ實ニ

千八百二十四年六月十六日ノ法律ヲ以テ默認セル所ナリ若シ夫レ見在財産ヲ以テスル夫妻間ノ贈與ハ千八百十六年四月二十八日ノ法律第五十三條ニ於テ既ニ之ヲ掲記セル有ルニ因リ其第五十四條ハ即チ之ニ擬施スルヲ得可キ者トス

〔第四百八十七節〕此二種ノ課税ヲ分離ス可カラサルヤ是レ千八百五十年五月十八日ノ法律第十條ノ制規ヲ施行スルニ關シテ緊要ナル結果ヲ生出スル有リ其制規ニ依レハ不要報ノ生存贈與若クハ遺產承襲ニ因リテ動産ノ所有權ヲ轉移スルニハ不動産ノ所有權ヲ轉移スルト同一ナル税額ヲ課收ス然リ而シテ公簿登記税ハ之ヲ動産ノ轉讓ニ課收セス故ニ動産ヲ贈與スルハ其本系親屬ニ對スル者ト夫妻間ニ於テスル者トヲ問ハス總テ公簿登記税ヲ課收セサルヲ知ル可シ然レモ旁系親屬若クハ親屬ニ非サル人ニ對シテ動産ヲ贈與スルニハ不動産

ヲ贈與スルト一般ニ千八百三十二年四月二十一日ノ法律ニ規定セル
 稅則ヲ擬施ス可キヲ要ス蓋シ是レ此法律ニ於テハ公簿證記稅ト轉讓
 比例稅トチ分離シテ以テ之ヲ算定スル無ケレハナリ千八百五十一年十一月十七日ノ
 所ノ審判抑此ノ如キ結局ニ歸着スルハ何ソヤ本系親屬及ヒ夫妻ノ間
 ニ於テスル贈與ニ關シテハ二種ノ課稅ヲ分離シ而シテ旁系親屬及ヒ
 親屬ニ非サル人ニ對スル贈與ニ關シテハ之ヲ混合スルコ是レ由レリ
 夫レ其結果ノ甚ク奇怪ナルヤ論ヲ俟タス然レモ其結果ノ斯ク牴觸ヲ
 生スルハ蓋シ法律ヲ制定セル年代ノ相異ナルニ根由ス是ヲ以テ其法
 律ヲ解釋スルハ善ク規矩ニ合スト雖モ其解釋ノ此ノ如ク牴觸矛盾ノ
 結果ヲ生出セシムル有ルコ由リ宜ク此法律ヲ改正シテ以テ之ヲ劃一
 ニ歸セシム可キハ復タ辨テ費サスシテ明カナリ
 〔第四百八十八節〕 婚姻契約書中ニ於テ見在財產ヲ贈與スルニハ亦轉

讓比例稅ヲ課收ス但法律ニ於テ結婚者ノ利益ノ爲メニ此稅額ヲ減蠲
 スル有リ然レモ此課稅ノ減蠲ハ唯其轉讓比例稅ニ施行スルノミニシ
 テ復タ其公簿證記稅ニ施行セス故ニ公簿證記稅ト轉讓比例稅トチ分
 離セル場合ニ在リテハ即チ其實價百分ノ一半ヲ課收ス若シ夫レ旁系
 親屬若クハ親屬ニ非サル人ニシテ婚姻ノ爲メニ財產ヲ贈與スル場合
 ニ當リテハ二稅共ニ其課額ヲ減蠲ス是レ其稅則ニ於テ此二稅ヲ分離
 セサレハナリ此課稅減蠲ノ制規ハ啻ニ親屬ニ非サル人ヨリ結約ノ夫
 妻ニ向テ贈與スル時ニ施行スルノミナラス夫妻ノ間ニ於テスル贈與
 ニ關シテモ亦之ヲ施行ス抑此婚姻ノ爲メニスル贈與ハ其婚姻結約主
 ノ一方ニ由來スルト他ノ人ニ由來スルトヲ問ハス均ク結約ノ夫妻ニ
 向テ爲ス所ノ贈與ナルヲ以テ其課稅ヲ減蠲スルヲ得可キナリ千八
 百十六年四月二十八日ノ法律第五十三條

〔第四百八十九節〕 婚姻契約ニ於テ贈與ヲ爲スヤ贈與者ハ其贈與スル財産中ノ一物ヲ自由ニ處置スル權理ヲ握存スルヲ得可シ故ニ其一物ニ關シテハ贈與者カ自由處置ノ權理ヲ拋棄スル有ルニ非サレハ則チ其贈與契約ハ尙ホ未タ確定セサル者ト爲ス(民法第九百四十七條及ヒ第千八十六條)此場合ニ於テハ解破ノ約款ヲ附シテ以テ其贈與ヲ爲スニ因リ其契約證書ヲ公簿ニ證記スルヤ即チ轉讓比例税ノ全額ヲ課收シ而シテ他日其解破ノ約款ヲ實行スル有ルモ亦復タ之ヲ還付スルヲ無キナリ(千八百十六年四月二十八日ノ法律第六十條)

〔第四百九十節〕 婚姻ノ存續スル其間ニ在リテ夫妻ハ互相ニ其見在財産ヲ贈與ニ供スルヲ得可シ縱令ヒ其贈與スル財産ハ贈與者ノ隨意ニ之ヲ收回スルヲ得ルモ是レ亦見在財産ヲ贈與スルニ非サルハ莫シ何トナレハ則チ其贈與タル日後ニ收回ス可キ性質ヲ帶フル有ルニ

拘ラス贈與ノ性質ヲ完足シ隨テ又贈與ノ結果ヲ生出スル者タルヲ以テナリ故ニ通常ノ贈與ト一般ニ轉讓比例税ヲ課收シ而シテ他日解破ノ約款ヲ實行スル有ルモ亦復タ其課税ヲ還付スルヲ無キナリ(千八百十五年三月十一日ノ破毀裁判所ノ審判)

贈與契約證書ニ於テ夫妻互相ノ贈與タルヲ記載スルヲ以テ口實ト爲シ若クハ此類ノ贈與ハ民法第千九十九條ニ禁止スルヲ以テ口實ト爲シ以テ其課税ヲ逃避スルヲ得可カラス蓋シ収税官ハ本ト其契約ノ準規ナルト違規ナルトヲ檢覈スルヲ要スル無キナリ(千八百六十五年十一月十四日ノ破毀裁判所ノ審判)

〔第四百九十一節〕 千八百五十年ヨリ以前ニ在リテハ手付ノ贈與ハ總テ課税スルヲ無ク而シテ他日其證書ヲ錄製スルヲ有ルモ亦然リ故ニ手付贈與ノ證書ハ所有權ヲ轉移スルニ足ル可キ公式證書ノ性質ヲ含

有シ而シテ贈與者ト受贈者トノ協諾ヲ默證スル有ルニ非サレハ則チ決シテ轉讓比例稅ヲ課収スルヲ無シ然ルニ千八百五十年五月十八日ノ法律第十一條ヲ以テ之カ例規ヲ改定シテ曰ク凡ソ手付贈與ノ契約證書ニシテ受贈者若クハ其代理者ノ承諾ヲ包載シ若クハ裁判上ノ公認ヲ包載スル者ニハ贈與稅ヲ課収スト是レ之ニ轉讓比例稅ヲ課収ス可キ者ト看認セルニ非ス何トナレハ若シ手付贈與ノ證書ヲ公簿ニ登記スルヲテ請求スルニ非サレハ則チ之ニ課稅セサル可キヲ以テナリ然リト雖モ是レ亦登記稅ヲ課収ス可キ者ト看認セルニ非ス何トナレハ所有權ノ轉移ヲ證ス可キ公式ノ證書ニ非サル單一ノ申告書ニ向テ課稅スルヲ以テナリ抑此法律ニ於テ受贈者若クハ其代理者ノ受贈ノ申告ヲ爲サシムルヲテ要シタル其目的ハ蓋シ紛爭ノ端ヲ杜カンヲ欲セシニ在リ是ヲ以テ収稅官ハ事實ノ如何ヲ問ハス假認ノ憑據ヲ把

テ其證書ノ眞正ノ手付贈與ヲ注記スル者タルヲテ證明スルノ權理ヲ有セス況シテ結約ノ夫妻アリテ其年齢ト其作業トニ就キテ之ヲ觀ルモ決シテ贏蓄シ能ハサル可キ若干ノ金額ヲ其節儉ニ得可キ者ト按算シ此ヲ以テ其嫁資ニ供備スル場合ノ如キ収稅官ハ復タ其贈與契約ノ眞ニ存在スルヲ證明スルヲ得可ケンヤ凡ソ陰密ノ轉讓タル其動産ニ至テハ決シテ檢覈ヲ加フルヲ得ス是レ千八百五十年五月十八日ノ法律ノ陰密ノ轉讓ニ向テ比例稅ヲ課収スル爲メニ受贈者若クハ其代理者ヲシテ受贈ノ事ヲ申告セシムルヲ要望シタル所以ナリ

將來財産ノ贈與

〔第四百九十二節〕凡ソ婚姻ノ契約ニ附加スル贈與ハ贈與者ノ死亡スル日ニ至リ始テ其効力ヲ生スル者トス然リ而シテ贈與者ハ其婚姻契約證書ニ包載セル財産ヲ更ニ要報ノ贈與ニ供スル權理ヲ握存スルニ

因リ初メ其契約ヲ立ルノ日ニ於テ其課税額ヲ限定スルヲ能ハサル可
シ是ヲ以テ其婚姻契約證書ハ公簿上之ヲ五「フラン」ノ定額税ノ部ニ證
記シ而シテ贈與者ノ死亡スル日ニ於テ始テ比例税ヲ課収ス故ニ此場
合ニ在リテハ婚姻契約ノ減額税則ヲ擬施セスシテ死亡ノ轉讓税則ヲ
擬施セサル可カラス此解釋ノ理由タル受贈者ハ贈與者ノ死亡スル以
後ニ非サレハ則チ其贈與セラレタル財産ノ所有主タルヲ得スシテ
受贈者ノ權理ハ其贈與ノ事ヲ包載スル所ノ婚姻契約證書ヲ錄製セル
當日ニ遡ルノ効力ヲ有セスト言フニ在ルナリ

〔第四百九十三節〕見在財産ト將來財産トヲ混合スル贈與ハ單純ナル
婚姻契約附加ノ贈與ヨリモ其課税ノ方法甚タ錯雜ナリトス夫レ將來
財産ノ部分タル其轉讓比例税ハ猶ホ婚姻契約附加ノ贈與ト一般ニ贈
與者ノ死亡スルニ至ルニ非サレハ則チ之ヲ課收ス可カラサルヤ固ヨ

リ論ヲ竣タス然レモ見在財産ノ部分ニ關シテハ下文ノ區別ヲ爲ス
ヲ要ス即チ若シ受贈者カ婚姻契約ノ締成セル以後ニ於テ尙ホ其贈與
セラレタル財産ヲ保有セサルナラハ則チ唯轉讓定額税ノミヲ課収シ
而シテ轉讓比例税ノ如キハ贈與者ノ死亡スル日ヲ待テ始テ之ヲ課収
ス之ニ反シテ若シ受贈者カ已ニ其贈與セラレタル財産ヲ保有スルナ
ラハ則チ直ニ轉讓比例税ヲ課収ス然リ而シテ爾後受贈者ノ贈與者ニ
先チテ死亡スルガ爲メ若シハ贈與者ノ死亡スル日ニ當テ受贈者カ贈
與財産ノ全部ヲ諾受セサルガ爲メニ其贈與財産ヲ收回スル契約ノ有
無ニ至テハ復タ問フ所ニ非サルナリ

若シ受贈者カ贈與者ニ先チテ死亡シ而シテ其贈與財産ノ原主ニ復歸
スルヲ有ルモ亦復タ其轉讓比例税ヲ還付セス蓋シ是レ本ト合法ニ課
収セシ者タルヲ以テナリ〔共和七年〕「フリメール」月二十二日ノ法律第六

十條

此成規ハ千八百九年十二月二十二日ノ參議院ノ説明ニ於テ確認セ
ル所ノ者トス其説明ニ依レハ曰ク轉讓比例税ハ凡ソ見在財産ヲ贈
與シ而シテ受贈者ヲシテ直ニ其贈與財産ヲ保有セシムルコトヲ約定
スル有レハ則チ之ヲ課税スト此保有ナル文字ハ此ニ之ヲ假有ノ意
義ニ使用セリ然ルニ収税官ハ此保有ナル文字ニ拘局シ唯、入額所得
權ノ轉讓ニ向テ課税スル所ノ轉讓比例税ノミチ之ニ課税セリ是レ
蓋シ法律ノ原則ヲ誤施セル者タルコトヲ免レス然ルニ此誤施タル唯、
是レ課税ヲ輕減スルニ外ナラサルニ由リ未ダ他ノ駁撃ヲ受ルニ及
ハサルナリ

又若シ受贈者カ贈與セラレタル財産ノ全部ヲ諾受スル有レハ則チ其
見在財産ニ向テ轉讓比例税ヲ追徴ス然リ而シテ其將來財産ニ向テ課

收ス可キ死亡轉讓ノ比例税ハ此外ニ在リ初メ贈與契約ヲ立ル日ニ於
テ課收シタル轉讓比例税ハ唯、其入額所得ニ向テ之ヲ課收セシニ止ル
ノミ故ニ贈與者ノ死亡スルニ至テハ受贈者ハ又其物體所有權ヲ得有
スルニ因リ此ニ至テ又更ニ比例税ヲ追課ス可キハ當然ノ條理ニ屬ス
而シテ其追徴税ハ年收益ノ二十倍ヲ算セス其十倍ヲ算スル資本額ニ
比例シテ以テ賦課ス可キ者ト爲ス

入額所得權ニ課收スルハ本ト參議院ノ説明ヲ誤會シタルニ出タル
者タリ

今若シ之ニ反シテ受贈者カ贈與セラレタル財産ノ全部ヲ諾受セス唯、
其見在財産ノ部分ノミチヲ擇取シ而シテ將來財産ノ部分ヲ拋棄スル有
リト假定センニ當初其贈與セラレタル財産ヲ假有セサルガ爲メニ唯、
既ニ轉讓定額税ヲ納致セシナラハ此ニ至テ死亡轉讓ノ比例税ヲ納致

スルナル可シ然ルニ是レ何等ノ税則ヲ擬施ス可キ者タルカ婚姻契約ノ贈與ニ關スル減額税則ヲ擬施スルカ將タ死亡轉讓ノ税則ヲ擬施スルカ余ヲ以テ之ヲ考フルニ減額税則ヲ擬施ス可キ者ノ如シ何トナレハ則チ受贈者ノ見在財産ヲ擇取セントスル意旨ヲ陳告スルヤ贈與契約ノ存スルヲ以テ既ニ其所有主ト稱スルヲ得可シ故ニ贈與者ノ死亡スルヤ復タ爲メニ新ニ其所有權ヲ與フニ非スシテ唯其婚姻契約ニ生スル所ノ所有權ヲ確認スルニ過キカルヲ以テナリ

收税官ハ常ニ此率則チ確守シ凡ソ未亡配偶者ノ得有スル場合ニ在リテハ則チ常ニ死亡ノ轉讓税ヲ課收ス可キ者ト認定セリ

婚姻契約證書ノ課税

〔第四百九十四節〕凡ソ婚姻契約證書ヲ公簿ニ登記スルヤ其婚姻契約ノ主本タル約款ヲ包載セル者ニ向テハ五〔フラン〕ノ定額税ヲ課收ス所

謂ル婚姻契約ノ主本約款トハ第一ニ夫妻ノ協約スル財産存有法ヲ表示シ第二ニ夫妻ノ供出スル財産ヲ具載シ第三ニ夫カ妻ノ其嫁資ヲ供出スルコトヲ認識スル者即チ是ナリ

夫妻ノ協約スル財産存有法ニ因テ法律上ニ生成スル贈與及ヒ利益ニ向テハ轉讓比例税ヲ課收セス若シ夫レ他ノ一人若クハ夫妻カ婚姻契約證書中ニ於テ約定スル贈與ノ如キハ之ニ異ナリ是故ニ妻ノ其屬身ノ資金ヲ以テ其嫁資ニ供備スル如キハ本ト是レ婚姻契約上主本約款ノ部内ニ屬スル者タリト雖モ一人ノ贈與者カ特ニ財産ヲ贈與シテ以テ其嫁資ヲ成ス如キハ即チ轉讓比例税ノ課收ヲ免レス又未亡配偶者ノ得有財産ニシテ承産權ヲ拋棄セル妻ノ所有ニ歸ス可キ者ノ如キハ即チ契約上ニ生スル利益ニシテ決シテ婚姻契約上ノ主本ノ約款ニ屬セシム可キ者ニ非ス蓋シ是レ偶然未必ノ贈與ニシテ其契約ヲ爲ス日

ニ當テハ唯一定額税ノミヲ課收シ贈與者ノ死亡スル日ニ至リ始テ轉讓比例税ヲ課收ス可キ者タリ

婚姻契約ノ主本約款ト所屬約款トハ妻ノ評價ヲ付シテ財産ヲ供出スル場合ニ際シ至大ナル差異ノ見ル、有リ民法第千五百五十一條ニ依レハ妻ノ評價ヲ付シテ動産ヲ供出スルヤ若シ夫妻ノ雙方カ其評價ノ以テ賣放ノ結果ヲ來タサ、ルヲ明言スルニ非サレハ則チ其所有權ハ夫ニ轉移ス可キヲ云ヘリ此場合ニ於テハ法律ノ効力ニ因テ其所有權ノ轉移スル者タルヲ以テ轉讓比例税ヲ課收スルヲ無シ又不動産ノ如キハ其第千五百五十二條ニ於テ之ニ反對スル制規ヲ立定セリ其制規ニ從ヘハ妻ノ供出スル財産ニ評價ヲ付スルモ若シ其評價ノ賣放ニ擬當スルヲ明言セサシハ則チ其財産ノ所有權ハ夫ニ轉移セス此場合ニ於テ所有權ノ轉移スルヤ法律ノ効力ニ因ルニ非スシテ即チ明

文ノ契約ノ結果ニ出ル者タリ故ヲ以テ百分ノ五半ノ轉讓比例税ヲ課收ス可シ

〔第四百九十五節〕 婚姻ノ存續スル其間ニ於テ其財産ヲ供換スルノ一

事タル公簿證記税ノ課收ニ關シテ或種ノ疑難ヲ生スルヲ免レス民法

第千四百三十四條ニ依ルニ夫カ供換ヲ爲スノ場合ニ當リ自己ノ屬身

不動産ヲ賣放シテ以テ得タル所ノ價直金ヲ以テ他ノ財産ヲ買取シ之

ヲ供換スルヲ申告スレハ則チ認メテ供換ヲ行ヘル者ト做ス故ニ收

税官ハ此賣買價直ニ向テ轉讓比例税ヲ課收スルノ外ニ於テ其供換ノ

申告ヲ證記スル爲メニ「フラン」ノ定額税ヲ課收ス此供換ノ附款ヲ以

テ賣買契約ニ別殊ナル者ト認定スル所以ハ他無シ蓋シ是レ夫ニシテ

本來財産ヲ買得スルノ權理ヲ有スルヤ供換ノ名義ヲ以テスルト否ラ

サルトニ毫モ關係ヲ有セサレハナリ日千八百八十八年六月二十八

〔第四百九十六節〕妻ノ其財産ヲ供換スル法式ハ最モ錯雜ニ涉レルヲ見ル民法第千四百三十五條ニ依ルニ第一ニ財産ヲ買取スルニ當テ必ス夫ノ之ヲ申告スルヲ要シ第二ニ妻カ之ヲ承諾スルヲ要ス若シ妻カ當時ニ承諾ヲ爲シテ賣買證書ニ其承諾ヲ明記スル有レハ則チ轉讓比例稅ヲ課收シ又供換ノ申告ニ關スルニ「フラン」ノ定額稅ヲ課收ス蓋シ妻カ財産ヲ供換スル場合モ夫カ財産ヲ供換スル場合ト一般ニ特別ノ附款ニ係レル者トス又妻カ限期ヲ立テ以テ承諾ヲ表スル場合ニ於テハ則チ唯、轉讓比例稅ヲ課收スルノミコシテ供換ノ申告ニ關スル爲メニ定額稅ヲ課收セス蓋シ供換ノ申告ハ妻ノ承諾ヲ表スル有ルニ非サレハ則チ其効力ヲ生出セサルヲ以テナリ若シ果シテ財産ヲ買取セルヨリ以後ニ妻ノ承諾證書ヲ供呈スルニ至レハ則チ其供換ノ申告ニ關スルニ「フラン」ノ定額稅ヲ課收シ又承諾證書ノ登記ニ關スル比例

稅ヲ課收ス之ヲ要スルニ妻ノ承諾ハ夫妻ノ間ニ在リテハ財産ノ供換ヲ確認シ他ノ人ニ對シテハ財産ノ轉移ヲ確認スルナリ
及ヒ同年六月十七日ノ破毀裁判所ノ審判
 ドマント氏ハ本文末段ノ場合ニ於テハ公簿登記稅ヲ課收ス可カラ

サルヲチ主張セリ其說ニ據レハ公簿登記稅ハ決シテ定額稅ニ併加ス可キニ非ス唯、是レ轉讓比例稅ニ併加ス可キ者タルヲチ言ヘリ然レモ實際ニ施行スル所ノ課法ハ全ク之ニ反對スル有ルヲ見ルナリ」然リト雖モ若シ夫カ豫メ注意ヲ加ヘテ以テ其賣買證書中ニ於テ供換ノ申告ヲ爲スノミニ止メス尙且ツ豫定ノ期間内ニ妻ノ之ヲ承諾ス可キヲチ包載セル有ルヤ即チ是レ他ノ關係者ニ向テ此附加約款ノ事旨ヲ豫示スル者タルニ因リ日後ノ承諾ハ既往ニ遡ルノ効力ヲ有シ復タ其承諾證書ヲ公簿ニ登記スルヲチ要セサルナリ故ニ此場合ニ在リテ

ハ唯其承諾證書ニ向テ定額税ヲ課収スル有ルノミ又婚姻契約證書ニ於テ特別ノ附款ヲ設ケ以テ夫カ供換ノ爲メニ財産ヲ買得セリト申告スル有レハ其財産ハ妻ノ在ト不在ヲ問ハス必ス妻ノ所有ニ歸ス可キヲ記載シテ以テ供換ヲ行フ如キ場合ニ向テモ亦斯ク決定テ下ス可キ者トス此ノ如キ場合ニ於ケルヤ妻ノ承諾ノ無益ニ屬スルヲ證言スルヲ待タスシテ其承諾ノ財産買取ノ當日ニ遡ルノ効力ヲ有スルハ疑ヒ無シ他ノ關係者ニ對シテモ亦然リ故ニ其承諾證書ハ公簿ニ登記スルヲ要スル性質ヲ有セス隨テ登記ノ比例税ヲ課収ス可カラサルナリ

〔第四百九十七節〕 財産管理契約ノ解消スル場合ニ於テハ夫若クハ其承産者ハ妻ノ供出財産ヲ供還セサル可カラス若シ原物ヲ以テ供還スルヤ其供還ヲ證明スル證書ニ向テ轉讓比例税ヲ課収セス何トナレハ

則チ此供還證書ハ轉讓若クハ責務若クハ贈與若クハ處罰裁判ヲ包載スルヲ無キヲ以テナリ然リ而シテ妻ハ未ダ嘗テ所有權ヲ拋棄セサルヲ以テ其財産ヲ收回スルヲ得可シ又價直ヲ以テ供還スルモ均ク其供還證書ニ向テ轉讓比例税ヲ課収セス抑此場合ニ於テハ夫ハ領収證書ヲ徴取ス可キ負債主タル地位ニ立ツニ非ス即チ任務ヲ解卸スル財産幹理者タル地位ニ立ツ者ナリ而シテ此解任證書ニ向テハ唯二フラソノ定額税ヲ課収スルニ止マル可キハ余カ既ニ已ニ論明シタル所ナリ然リト雖モ財産分有法ヲ協約セル婚姻間ニ於テ若シ夫カ妻ノ自由處置ニ屬スル金額ヲ借用シタル證據ノ在ル有レハ則チ夫ハ妻ノ委託者タル地位ニ立ツニ非ス即チ之ニ對シテ負債主タル地位ニ立ツ者トス此場合ニ於テハ其借用シタル金額ニ向テ償還ノ比例税ヲ課収ス然ルニ或ハ夫カ妻ノ委託者タル分限ヲ以テ妻ノ自由處置ニ屬スル金額

ヲ使用セルヲ有ルモ亦タ未タ知ル可カラス故ニ収税官カ償還ノ比例
 税ヲ課収スルニハ必ス其實ニ借用シタル證據ヲ確徴セサル可カラサ
 ルナリ(民法第千五百七十七條ヨリ第千五百八十條ニ至ル各條)
 夫ノ所有ニ屬スル財産ヲ贈與シテ以テ妻ノ供資財産ノ供還ニ充ル場
 合ニ於テハ即チ其財産ノ所有權ヲ轉移スル者トス是ヲ以テ不動産ニ
 係レハ百分ノ五半ノ轉讓比例税ヲ課収シ動産ニ係レハ百分ノ二ノ轉
 讓比例税ヲ課収ス千八百六十七年一月十五
 日ノ破毀裁判所ノ審判
 (第四百九十八節) 財産共通契約ノ解消スル場合ニ於テハ往々大疑問
 ナ起生シ歷來ノ裁判例モ亦數變更セシ有ルヲ見ルナリ裁判例ノ數變
 更セルヤ是レ實際ニ於テ課法ノ參差不同ヲ致セシ所以トス破毀裁判
 所ノ審判ニ於テハ妻ヲシテ猶ホ所有主タルコトク其供資財産ヲ收回
 スルヲ得セシメタルヤ年嘗テ已ニ久シ是レ妻ヲシテ共通財産ニ對

スル各債主ニ對シテ領先ノ特權ヲ行用スルヲ得セシメタル所以ナリ
 是ヲ以テ妻カ共通財産ニ向テ供還ヲ要求スルニ當テハ復タ轉讓比例
 税ヲ納致セシムルヲ無ク唯夫ノ屬身財産ニ向テ供還ヲ要求スル場合
 ニ於テノミ之ヲ納致セシメタリ然ルニ嘗テ共通權ヲ拋棄セシ未亡ノ
 妻アリテ其財産ノ供還ヲ要求シタルニ當リ即チ千八百五十八年一月
 十六日ノ審判ヲ以テ其收回權ハ即チ債權ナリト決定セリ是ニ於テ収
 税官ハ此審判ヨリ結論ヲ抽釋シテ以爲ラク妻ノ供還ヲ要求スル權理
 ハ即チ辨償ヲ要求スル權理ニ外ナラサルカ故ニ是レ轉讓ノ事爲チ結
 成ス宜ク之ニ轉讓比例税ヲ課收スヘシト

破毀裁判所ニ於テハ其審判ニ生スル此結果ヲ確認セリ然レモ其初
 メ婚姻契約證書ニ於テ共通財産ハ既亡配偶者ノ承産者ニ遺贈ス可
 キ者ヲ扣除シ其餘ハ悉ク之ヲ未亡配偶者ニ歸屬ス可シト明約セル

有ルヤ其承産者ニ供還スル財産ニ向テハ唯、解任證書ニ關スル定額
 税ノミチ課収ス蓋シ此場合ノ如キハ婚姻契約ノ附款ノ効力ニ因テ
 其財産ノ承産者ニ歸屬スルヲ以テナリ千八百六十七年二月十二日ノ破毀裁判所ノ審判
 夫レ此千八百五十八年ノ審判ノ理由チ共通權保續ノ場合ニ擬施スル
 一猶ホ共通權拋棄ノ場合ニ擬施スルゴトクスキヤ疑チ容レス然レ
 此審判ノ斷案タル唯、共通權拋棄ノ場合ニ關シ下タセル者タルニ由
 リ妻ノ之チ保續スル場合ニ於テ課収スル方法ハ實際之チ改更セル有
 ラスシテ依然千八百十七年七月十八日ノ審判ニ準依シ常ニ其轉讓比
 例税ヲ課収スル一無キナリ

遺産承襲税

〔第四百九十九節〕死亡轉讓税ハ果シテ夫レ何等ノ税則ニ準依シテ之
 ヲ課収ス可キカ是レ無遺囑ノ承産有遺囑ノ承産及ヒ偶然未必ノ贈與

ニ擬施スル所ノ税則ニ準依シテ以テ課収ス可キ者トス然リ而シテ其
 税額ハ親等ノ愈、疎ナルニ隨テ益、多キチ加へ而シテ親屬ニ非サル人ノ
 承産ニ課收スル税額ハ最モ以テ重シトス又遺産承襲ノ點ニ於テハ夫
 妻ノ間ノ關係ハ全ク之ヲ外人ニ準視ス若シ夫レ私生ノ子ニ關シテハ
 下文ノ區別チ爲ス一チ要ス即チ若シ當然ニ承産ス可キ親等ニ在ル承
 産者ノ存スル無キ場合ニ於テ私生ノ子カ遺産ノ全部ヲ承襲スル有レ
 ハ則チ外人ノ之チ承襲スルト同一ナル税額ヲ納致セシム（民法第七百
五十八條及ヒ第七百六十七條）又若シ私生ノ子カ正系親屬ノ承産者ト
 共ニ承襲スル場合ニ於テハ本系親屬ノ地位ヲ占ムルニ由リ唯、本系親
 屬ノ承産ニ課収スル税額ヲ納致セシムル有ルノミ
 遺産承襲税ハ即チ一種ノ轉讓比例税ニシテ無遺囑ノ承産ニ課収ス可
 キ者ハ唯、此遺産承襲税ノ在ル有ルノミ無遺囑ノ承産若クハ契約チ以

テスル偶然未必ノ贈與ニ關シテハ必ス公式證書ヲ錄製スルヲ要スルニ因リ其時際ニ於テ五「フラン」ノ定額稅ヲ課収シ而シテ遺囑者ノ死亡スル時際ニ於テ轉讓比例稅ヲ課收ス

千八百五十四年五月三十一日ノ法律ニ於テ准死刑ヲ廢シタル以降ハ唯天然ノ死亡ノミ以テ正ク遺產ノ承襲ヲ開始スル原因ヲ成セリ凡ソ遺產承襲ヲ開始セル本日以後ノ六月内ニ於テ當然ノ承産者若クハ受遺囑者若クハ未必贈與ノ受贈者ハ必ス遺產承襲ノ申告ヲ爲スヲ要ス若シ此期間ヲ愆過スレハ則チ定稅ノ外ニ於テ又其半額ヲ贖納セサル可カラス(共和七年「フリメール」月二十二日ノ法律第三十九條)此申告ハ本管稅局ニ向テ之ヲ爲スヲ要ス即チ動産ニ關シテハ死亡者ノ住居セシ土地ノ本管稅局ニ申告シ不動産ニ關シテハ遺產ヲ承襲スル者ノ住居スル土地ノ本管稅局ニ申告ス

(第五百節) 共和七年「フリメール」月二十二日ノ法律第三十條ニ依レハ承産者、受遺囑者及ヒ受贈者ノ間ニ於テ緊要ナル區別ヲ存スル有リ承産者ハ承産稅ノ納致ニ關シテ連帶ノ義務ヲ有スルモ受遺囑者及ヒ受贈者ノ如キハ唯其承襲スル財產ノ部分ニ向テ課稅ヲ納致スル有ルニ此解釋ハ本條第一節中兩項ノ反對文義ニ抽釋シ來レル者ナリ是ヲ以テ何等ノ相續人ニ向テ承産者タル分限ヲ認識ス可キカ此一問題ヲ解釋スルハ即チ大利益ノ繫ル有ルヲ知ル可シ正系ノ親屬即チ尊屬親卑屬親并ニ旁系親屬ノ如キハ真正ニ承産者タル分限ヲ有スル者タリ故ヲ以テ例之ハ法律ニ據テ定分ノ遺產ヲ受クル承産者ト遺囑ヲ以テ全部ノ遺產ヲ受クル受遺囑者トハ相俱ニ納稅ノ連帶義務ヲ有セス蓋シ此二種ノ人ハ共同承産者ト看ル可カラスシテ是レ各自ニ各別ノ名義ヲ以テ遺產ヲ承襲スル者タレハナリ又遺囑ニ依テ全部ノ財產ヲ